

こどもエコクラブくしろのみなさんへ
師範から一言！
今年も、すごい壁新聞をありがとうございます！“見出し”や“リード文”の記し方など、本物の新聞と見間違えてしまうようなレイアウトに、仕上げることができました。
今回の壁新聞で私が1番に注目したのは、ニホンザリガニとウチダザリガニの記事でした。釧路湿原で繰り広げられているザリガニの攻防が、よく分かりました。外来種のウチダザリガニには罪がないのに、在来種への影響を考えると駆除に取り組むしかないという、心の葛藤もくみ取ることができました。外来種と生物の多様性を考えるとき、必ず直面するジレンマですが、それを踏まえてみんなで活動をすすめていってください。ニホンザリガニとウチダザリガニの両種を対にして説明している点、図や表を適宜使用している点なども、ちょっとした工夫ですね。内容豊富で、見応えのある新聞に仕上げることができましたと感じました

。とっておきのゴシドウ★
新聞らしいレイアウトを基本としながらも、デザインを重視した記事も見ることができました。「こどもエコクラブくしろ」の活動報告を記した記事は、活動の写真を北海道の形に似せていました。にくい演出だと思いました。コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されたと思いますが、その中でも精力的に活動した様子を知ることができました。
こどもエコクラブ全国事務局との心温まる交流や、釧路湿原のトゲウオの記事も、図や写真をおりませながら、分かりやすい記事になりました。
毎年、質の高い壁新聞を作り続けています。この伝統をいかに受け継ぐか、ご苦労も多いと思います。会の活動とともに、壁新聞づくりのハウツーを伝えていってください。



名寄南小4年のみなさんへ
師範から一言！
「みんなでクリアしよう！」という見出しで、壁新聞を作ってくれました。小学校の授業で習ったのでしょうか？SDGsのことを考えながら、自分たちのできることを、まとめることができたと思います。
まず、フードロスへらすために、給食の時に紙芝居を使って全校に働きかけを行ったことが分かりました。残飯がへって、成果があらわれましたね。どんな紙芝居をつくったのか知りたくなってしまいました。それから、残飯はどれくらいへったのかも興味がある点です。
「家でできること」の記事は、みんなが考えたエコ活動ですね。早く寝て電気を節約したり、緑のカーテンを作ったりすることを、すすめてくれました。これらのエコ活動でどんな効果があるのか、これから調べていってください。
「赤い羽根ぼきん」の記事では、その意義を解説してくれました。多くの人が共感して、協力してくれるといいですね。
いろいろなエコ活動があると思います。これからも、みんなで相談しながら活動をすすめてください。



とっておきのゴシドウ★
総合的な学習の時間などでSDGsの勉強したまとめとして、壁新聞を作ったのでしょうか。授業の中で、いろいろなことを学び考えて様子をうかがうことができました。
壁新聞をつくるに当たっては、やはり多くの人に見せることを意識して、どのようにまとめるかを工夫するとよいでしょう。みんなが通う名寄南小学校のホームページを見ました。とても素敵な学校ですね。壁新聞道場は、全国の人が閲覧しますから、学校の特徴や、今回の壁新聞を作成した授業の様子などを紹介するのもよいでしょう。活動の様子などを伝えるために、写真も効果的です。子どもたちの自主的な活動が、壁新聞の作成につながったと感じました。多くのメンバーが壁新聞をつくって応募してくれることを願っています。

HEP21エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

すごい新聞です。びっくりしました。

内容も高度なことから楽しいこと、文学的なこと、イラストや写真も満載です。

これ以上、書けないし増やせない位、1枚の新聞の限界に挑戦しましたね。

レイアウトも工夫しています。子ども達の活動絵日記も、「たんぶり池五七五七七 with コロナ」も良くできていると感心しました。

活動の内容も興味が湧いて来ました。

周りに書いてあるpHと伝導度も最初は判りにくかったけれど、凡例を見てから見ると良く判りました。

グラフ化も考察も判りやすいと思います。

いろんな活動の紹介やメンバーの感想や年間の振り返りもしっかりできていて、全国のこどもエコクラブの仲間にも活動の様子が伝わると思います。

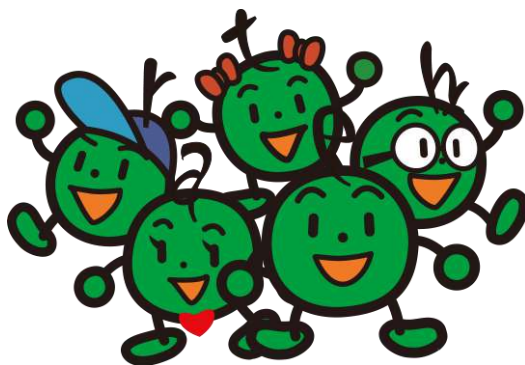
マイクロプラスチック・ストーリーも観たんですね。おじさんも観たし交流会にも参加していました。

とっておきのゴンドウ★

壁新聞は、見やすく、読みやすく内容も素晴らしく割り付けも、良くできていると思います。

大学との連携や行政とのパートナーシップ協定など全国のこどもエコクラブに参考になるし、見本となる取り組みで素晴らしいと思います。

これからも是非、こどもエコクラブの活動で頑張って地域の様々な団体や全国のこどもエコクラブの仲間に紹介してください。



緑と太陽の保育園グリーン・キッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

まず目を引くのがタイトルですが、タイトルを飾る種、何の種？と興味を沸かせます。記事を読んでいくと、ぽっちゃんかぼちゃの種だろうな、と思うのですが、あってるのかな。

2020 年度はコロナの影響で、どこのクラブも活動するのが大変だったと思います。その中、植物を種から育てて実をつけさせる活動ができて本当に良かったです。自分で草花や野菜などを育てることで、私たちのいただく恵みが自然と深く関わっていることを感じることができます。小さい時からこんな体験ができて、グリーンキッズのみなさんがうらやましいです。

さて、かぼちゃの栽培で一番おもしろい取り組みと感じたのが、縦切りと横切りでかぼちゃのおいしさが違うかどうかの実験？です。改めて、同じかぼちゃを縦と横で切って食べ比べたことが、私自身もしたことないなあ、よく考えついたなあと感じました。なかなか、ぽっちゃんかぼちゃは手に入りにくいけど、他のかぼちゃでも違うのか、旬の夏になったら地元のかぼちゃで試してみようと思います。この新聞を読んだ人も試してみよう、と思ったことでしょ。

それから今回初チャレンジの水耕栽培でお花を育てた記録も、写真付きで分かりやすかったです。最後までお花を咲かせられなかったようですが、失敗は成功のもと、2 年目はぜひ成功できればいいですね。

水耕栽培って土がなくても花や野菜が育てられるので不思議です。私たちが食べている野菜にも水耕栽培のものがお店で買えるようになってきました。同じ野菜の苗で、土で育てた場合と水耕栽培で育てた場合を比べてみても面白いかもしれません。



サポーターへのおきゴシドウ★

いろいろ工夫して作ってある新聞だったので、写真の切り方も面白く、勝手に何か隠れ文字があるかと思ってしまいました。絵もとてもステキです。これからも宝さがしのような新聞を作ってくれることを期待しています。

もし、坊ちゃんかぼちゃを毎年作るようなら、グリーンカーテンに利用してみましょう。グリーンカーテンにゴーヤや朝顔を使うことが多いけれど、いろいろな植物で試してみるのも面白いものです。その土地にあった植物で作ることができるようです。例えば、北海道なんかはビールの材料になるホップで挑戦しているところもあります。へちまを育てて、最後はたわしとかスポンジにして、プラスチックを使わない生活を試しているグループもあるようです。

坊ちゃんかぼちゃも結構グリーンカーテンには珍しい植物ですので、試してみてもいいのでは？ その他、青森には地元のつる性の植物があれば、それで試してみてもいいでしょう。

地域事務局からの応援メッセージ

【十和田市】

この壁新聞では、主に野菜と水耕栽培キットで花を育てる様子がわかりました。かぼちゃと花の成長過程が写真から詳細に伝わり、とても分かりやすかったです。また、子ども達の感想を読んでいると、かぼちゃを食べ比べた際に、味の違いなどから多くの発見を得られていることがわかりました。花の栽培では、苦戦した部分もありましたが、この経験を糧に今後も継続して様々なことに挑戦してほしいと思います。

【青森県】

子ども達が楽しみながらかぼちゃやお花を育てている様子が伝わってきました。エコ活動を通じて、子ども達が環境について楽しみながら学んでいく素晴らしい取組だと思います。今年できた種でまた来年美味しいかぼちゃが育つといいですね。



緑と太陽の保育園グリーン・キッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

エコまるくんたちのマスク姿の絵がいっぱいで、2020 年を象徴するような新聞になりました。みなさんがコロナに負けないぞ、という力強い気持ちを感じます。そして、気持ちだけでなく、活動を中止するのではなく、コロナに気をつけながら、いろいろな取り組みをしたことがよく分かる新聞になっています。紅茶うがいは、面白い取り組みです。紅茶うがいは毎日の習慣になったようですが、うがいの効果はどうだったのでしょうか。かぜを引くお友だちがあまり出なかったかな。

私の住む京都では「緑茶でうがい」しよう、というものもありますが、これもかぜを引かないように予防し、元気であるための工夫です。小さい子どもさんには緑茶だと苦いかもしれないけど、こっちは試してみてもね。

別の活動では、これまでのプール遊びから、水をできるだけ少なく使いながら涼しく感じるいろいろな体験や遊び方を考えて遊んだことがよく分かります。いろいろな遊びの中で私の知らない遊びが書いてありました。寒天遊びってなんだろう。気になるなあ。もっとくわしく知りたくなりました。

とっておきのゴシドウ★

みなさんが楽しく元気に取り組んでいるグリーンカーテンや夏野菜を育てて食べて体を冷やす体験はどうでしたか。みんな涼しくすごせましたか。実は、これは大人にもぜひやってほしいエコ活動です。夏がこれまで以上に暑い日が続くようになっているので、暑い夏でもエネルギーをたくさん使わずに夏を涼しく過ごすことは、実は地球温暖化を防ぐ活動にもなっています。みんなが日々していることが地球を守ることにもつながっているの、このままぜひ続けて下さい。そして、ぜひお家や地域の人にも、「一緒にやろうよ」と呼びかけ、保育園で取り組んでいることを周りの大人にも広げましょう。小さいみんなが実践している姿を見れば、大人も一緒にがんばろうと思うに違いありません。

保育園というみんなが毎日通う場所だからできるエコ活動、これからも工夫をこらして、ますます新しいことにもチャレンジしてみてください。

南三陸少年少女自然調査隊のみなさんへ

師範から一言！

新聞、とてもカラフルでステキですね。タイトルの多様性の海へ から始まって、それぞれの記事には、写真、イラストが色あざやかに配置されていて、楽しいです。環境DNAなんて、とても専門的で最先端の調査をやったのですね、すごい！

実は、今年のお正月、伊豆沼・蕪栗沼や、南三陸を旅行しました。この新聞を読んで、訪ねた所のことが書いてあって、とてもうれしく楽しく、ワクワクしました。私も蕪栗沼の近くで、ヒシクイやマガンの群れが田んぼで餌を食べているのを見ましたよ。今年は雪が多くて辺り一面真っ白でした。

南三陸の海ではコクガンも見ました！海の上を群れでプカプカ浮いていましたよ。さらに、川の生きもの調査のことをいろいろ教えてくださったという、株式会社エコリスのみなさんのこともよく知っています。とても楽しそうだな、とうらやましくなりました。

とっておきのゴシドウ★

志津川湾って、ラムサール条約に登録されているんですね。ラムサール条約って、何？どんな場所が登録されていて、どんなことを目標としているんだろう？知らない人にもわかるように、ちょっと紹介してあげるといいかもしれませんね。

志津川湾って、川も流れこんでいて干潟もあれば、岩場もあり、生き物がすむ場所もとても多様ですね。そうしたいろいろな環境があるから、たくさんの種類の生き物がすんでいるんですね。

干潟の調査、川の調査、釣りをした場所、蕪栗沼の鳥の調査ー調査をしたのがどんな場所なのか、環境がわかるような写真もあるといいかな。

イラストでもいいと思いますよ。周りにどんな植物が生えているんだろうとか、水の流れはどうなっているんだろうとか、なかなか文章では書ききれないけれど、写真なら1枚あるだけでイメージを伝えることができますよね。



秋田県秋田市 あきたチアーズクラブ

壁新聞のタイトル: イオン×SDGs×秋田でエシカル

21-05-01

あきたチアーズクラブのみなさんへ

師範から一言！

SDGsの17ある目標のうち12番目の「使う責任つくる責任」に注目して、エシカル消費について詳しく調べることができました。

そして、サブタイトルで「森、有機JAS、海、地産地消、カエル、ごみリサイクル、みんなの目標」という6つのキーワードで、壁新聞のレイアウトをまとめているところも分かりやすくていいですね。

この新聞を読んで、まず、有機JASマークが太陽と葉っぱでできていること初めて知りました。お店の調査はグリーンピースやコーンやインゲンにこのマークがついていたようですが、調査した季節によってもっと違った野菜にもついてくると思うので、季節が変わるごとに、これからも積極的に探してみてください。さらに、野菜と水の汚染の繋がりについて気がつくなんて目の付け所がいいですね。

それから熱帯雨林保護のマークになぜカエルが使われているのか、私も前から気になっていました。カエルは環境の変化に敏感な生き物なので、マークに選ばれたのですね。そういえば、私の住んでいる地域でもカエルの数がずいぶん減ってきているように思います。地元の環境の変化について調べてみなきゃと改めて感じました。

ところで、実際にカエルのマークのついている食べ物は見つかったかな。私は、コーヒーやバナナでカエルのマークのものを買いますが、他にどんなものにこのマークがついているのか、今度お店に行ったら調べようという気持ちにさせられました。

ごみリサイクルのコーナーでは、食べ物を包む容器についても考えることができました。コロナでいろいろなものが入らずに包んであるのはちょっと残念です。コロナの間も、個別に包むのではなく、大きな袋にたくさん入っているもの、とか、リサイクルしやすい包みのものを選んでみましょう。

とっておきのゴシドウ★

カエルのマークの説明のように、FSCのマークがどうして森を守るのか、まだ知らない人も多いので説明があると良かったと思います。

それから、エシカル消費については、キーワードに「生産する人々」というのも加えて欲しかったです。私たちの生活で使っているものは、日本だけでなく、世界のいろいろなことと繋がっています。たとえば、バナナだと、働いている人の環境についてはどうなんだろうなど、使っている薬だけでなく、作っている人達のことまで調べてみよう。

また、食べ物だけでなく、サッカーボール、私たちが着ている服なども、フェアトレードマークがついているものがあります。エシカル消費をしていく上で、世界の働いている人々についても考えていく必要があるの、さらに調べてみてください。

そして調べたら終わりじゃなくて、ぜひ買い物する時はそのマークのものを買いましょう。お店にない場合は、お店においてもらうように頼んでみましょう。お店の人へのインタビューなんかでもぜひ記事としてのせてみましょう。



ひろおもてエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

令和2年度に行った5つの活動についてまとめた新聞で、レイアウトがとても読みやすいです。コロナの影響で屋内の活動がしにくいなか、地域でできる野外活動をしたのかな。生き物観察、ごみ掃除、電気の使い方、そして地域のお祭りに参加と、いろいろなテーマで環境について考えることができました。

感想文だけでもそうですが、ザリガニの折り紙、ザリガニの絵などが新聞に貼ってあることを考えると、活動の中でみんなの印象に残ったのが「ざりがににつり」だったんだろうなあと感じます。ただ、みんな「全然釣れなかった」って書いているけど、合計34匹もザリガニが釣れたとも書いてある。あれっ、残りのザリガニは誰がつったのかなあ。それから、釣ったザリガニはアメリカザリガニなのか、ニホンザリガニなのか。登和さんの感想に、「秋田にまだニホンザリガニがいる」と書いていますが、アメリカザリガニとニホンザリガニの違いが気になりました。



とっておきのゴシドウ★

私は京都に住んでいるので、秋田のこと、そして広面小学校がどのあたりにあるのかさっぱり検討が付きません。こどもエコクラブのメンバーは全国にいますので、私のように秋田のことを知らないお友だちも多いと思います。できれば新聞で詳しく教えてくれるとうれしいなあ。また、それぞれの記事の中から、今年の「いちおし」活動を少しだけ大きく取り上げて、詳しく書いてみてほしいかもしれません。今回の場合、ザリガニつりが一番伝えたかった活動だったのなら、その時に様子をもう少し詳しく知りたかったです。ザリガニをつった場所が川なのか池なのか、などもう少し詳しく分かるといいなあ、と思いました。

その他にも、たとえば、大学病院裏の水路でホタルを見たようですが、大学病院がある場所って、町のまん中のような気がします。町のまん中でホタルが見られるのですか。それとも大学病院は里山のそばにあったりするのですか。広面小のことを知らない人にとっては、想像するのもちよっと難しいです。

かみおおのアースレンジャー1の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

ニホントカゲのことを調べてまとめることができました。この壁新聞をみれば、ニホントカゲの暮らし方が、一目でわかると思いました。スケッチもよく特徴をとらえていますね。黒いスジがあることや、しっぽの長さなどが、よく描かれていました。自分たちが飼育した経験から、分かったこともあります。水槽で飼育したニホントカゲは、石の下が隠れ場所になっていることに気づきましたね。

実話のマンガは、飼育していたニホントカゲのお話かな？エサとした与えたコオロギが、大きすぎたのでしょうか。エサを食べられずにニホントカゲのくうちゃんは無くなってしまったのですね。生きものを飼育するのはどうしたらよいか、考えることができました。貴重な体験だと思いますから、次に生きものを飼育するときに生かしてください。



とっておきのゴシドウ★

体験談を入れながらニホントカゲについてまとめてくれました。

ところで、壁新聞のタイトルをみると、「カナヘビ大ニュース」となっていました。カナヘビとニホントカゲは外見が非常によく似ていますが、別の種類です。ニホントカゲは体の表面に光沢があり、舌の先がひとつです。土に潜る習性があるって、しっぽは体の半分程度です。カナヘビは体の表面がカサカサしていて、舌の先が2つに割れています。土に潜る習性はなくて、しっぽは体の3分の2程度です。このちがいで区別してみてください。それから、他にもニホンヤモリや、イモリなど、似ている生きものがいます。いろいろな生きもののことを知ってほしいと思いました。観察を続けてください。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー 壁新聞のタイトル:

かみおおのアースレンジャー2の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

上大野の自然について、それぞれが興味のあることを記事にして新聞にまとめてくれました。

まず、上大野小ではたくさんの野菜を育てていることが分かりました。写真を見ると、大きく育った野菜が写っており、食べたくてしまいました。肥料を適切にあげることが、野菜を大きく育てるコツですね。

近くを流れる那珂川の観察では、たくさんの鳥や昆虫を記録できました。それから、川の水が海水と混ざっている場面を見ることができました。なかなか見ることができない貴重な体験だと思いました。

「カマキリはんしょく」では、カマキリをよく見てスケッチすることができました。卵の形から、種類はオオカマキリかなと思いました。肉食なので、なんでも生きものを食べてしまうことも分かりました。

大きくなったゴーヤの記事では、ゴーヤの生長の様子がよくわかりました。写真からは、背丈の倍以上に大きく育ったゴーヤに、手のひらサイズの実をつけた様子が、よく伝わりました。

カナヘビの記事では、学校で人気者の順位が分かって、面白かったです。自然豊かな上大野小だから、いろいろな生きものと触れる機会が多く、生きもの好きの児童が多いのだと思いました。

それぞれが、一生懸命記事を書いている様子が伝わる新聞になりました。



とっておきのゴシドウ★

それぞれのメンバーが、工夫して記事を書いてくれました。次に壁新聞をつくるときは、見出しや写真のレイアウトを工夫すると良いと思います。大きな文字の見出しにしたり、写真の貼り方を整えたりするだけで、すっきりした壁新聞に変身すると思います。ぜひ実行してください。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー 壁新聞のタイトル:

かみおおのアースレンジャー3の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

「キノコ新聞」では、シイタケのイラストやマンガを載せてくれました。楽しい紙面に仕上げることができました。特に、シイタケのイラストは、実物の特徴をイラストにも反映させて描くことができました。

好きなキノコ・ランキングは、おもしろい記事でした。ランキングにあがったキノコは、すべて食べることができるキノコでした。みんなの興味は、やっぱり食べることなんだなと思いました。ちなみに、ワライタケ、テングダケ、ツキヨタケなどは毒キノコです。注意してください。

それから、上大野小学校の周囲の様子も、よくわかりました。ドングリのなる木がたくさんあり、そこではたくさんの種類のキノコが見られるのですね。キノコの生える条件に、日陰が関係していると予想したこと、とてもすばらしいと思いました。いろいろな場所と比べてキノコをたくさん生やすにはどうしたらよいかみつけていってください。

楽しい壁新聞でした。



とっておきのゴシドウ★

イラストやマンガに加えて、表や写真を加えて壁新聞をつくってくれました。とても楽しい紙面ですね。いくつか工夫すると、もう少し見やすい壁新聞に変身すると思いますので、以下に示します。

たとえば、好きなキノコのランキングの見出しの文字が小さいので、すぐに内容が分かりませんでした。見出しを大きく書くだけで、中身が一目で分かるようになります。それから、写真や図を使うときは、その説明も書くとういでしょう。本文を読まなくても、写真とその説明を見るだけで、内容が分かるようにすることが大切です。

ちょっと工夫してみましょう。すてきな壁新聞に仕上がるはずです。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー
壁新聞のタイトル:

かみおおのアースレンジャー4の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

自然いっぱいの上大野小学校の様子や、遠足に出かけて感じたことなどが、7つの記事にきれいにまとめて掲載できました。壁新聞のレイアウトもさっぱりと整い、とても読みやすいと感じました。

カナヘビの記事では、カナヘビを触ることができる友達がたくさんいて、驚きました。生きものの性質をよく知っているからです。

カイコの記事では、幼虫を大切に育てていると感じました。カイコのまゆから、糸をとることも体験できてすばらしいと思います。

サツマイモの記事では、収穫の楽しさが伝わりました。食べた味はどうだったでしょうか？きっと、いつもよりおいしかったと思います。

グリーンカーテンの記事では、野菜が大きく育ち温暖化防止に大いに役立ちました。それに加えて、ゴーヤやキュウリの収穫もよかったですね。

水族館の記事では、上大野小学校周辺に生息する水生動物の種類の多さに驚かされました。

川の記事では、河口で海水と真水が混じる様子を観察でき、貴重な体験でした。

カマキリの記事では、産卵のためにメスがオスを食べてしまうという自然の厳しさを感じ取ることができました。

筑波山の記事では、学校周辺とは違う山の自然を満喫できたと思いました。

サケの記事では、例年と違いに気づくことができました。これからも続けて観察してください。

それぞれ、記事が簡潔にまとめられていて、読みやすい壁新聞に仕上げることができました。



とっておきのゴシドウ★

字もていねいで、読みやすい壁新聞です。上大野小学校の皆さんの、取組がよく分かりました。

今回の壁新聞は、それぞれの記事の大きさが同じでした。記事の量を変えたり、写真の大きさを変えたりすると、より魅力ある壁新聞になると思います。次回はチャレンジしてください。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー
壁新聞のタイトル:

かみおおのアースレンジャー5の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

上大野小で見ることができる生きものを、大きな写真にして紹介してくれました。

生きものの様子がよく分かる壁新聞に仕上がりました。また、生きもののスケッチも、体の特徴をよく見て描いてくれました。上大野小の周辺には田畑が多く、学校のすぐ近くには那珂川が流れています。動植物と身近にふれあうことができ、豊かな自然が残る学校だということが伝わってきました。

生きものの紹介では、種類ごとに同じ内容を調べてくれたので、特徴を比べるのに役立ちました。例えば、「よくいる場所」をみると、コオロギとアマガエルでは、住んでいる場所が違うことが分かりますね。

上大野小の周辺の生きものを調べての感想を見ると、身の回りの生きものと触れ合って楽しかった様子が伝わってきました。子どもの頃に生きものと親しく関わったことは、大人になっても心に残っていると思います。上大野小の環境を生かして、たくさんの体験をしてほしいと思いました。

タイトルも大きく、見やすい壁新聞に仕上げることができました。



とっておきのゴシドウ★

写真が大きく、とても分かりやすい紙面構成です。ただ、この壁新聞が、こどもエコクラブのホームページから全国の人に紹介されることを想像すると、加えたい内容があると思います。たとえば、生きものは場所や時季で変わってきますから、上大野小のある場所の紹介や、調査をした日なども、記事に加えると効果的です。いろいろな人から見られることを意識して、さまざまな工夫をこころみてください。

茨城県水戸市 かみおおのアースレンジャー
壁新聞のタイトル:

かみおおのアースレンジャー6の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
鳥のいろいろな事が分かる壁新聞ですね。
まず、鳥は世界で約 9,000 種、日本で 600 種が知られていることが分かりました。その中でも、日本にしかない種が 20 種いるとのこと、どんな種類なのか知りたくなりました。
トビについては、くわしく記事にしてくれました。トビは、那珂川の河川敷あたりでよく見られるのでしょうか？空に円をえがいて飛ぶ姿が、目に浮かびます。カワセミも、小学校の周辺で見ることができる鳥ですね。クイズで巣作りする場所が分かりましたから、ぜひ探してみてください。
オオワシは、涸沼での記録がありますね。上大野小の周りにも飛んできてくれるといいですね。定期的な観察をしてってください。ダチョウやキーウィ、ハシボソガラスの記事もありました。みんなが知らないことを、ていねいに調べてくれました。
とても、情報量が多い壁新聞で、興味深く読むことができました。



とっておきのゴシドウ★
鳥のスケッチを入れて、カラフルな新聞になりました。鳥の特徴をよく見て描いているので、とても感心しました。
壁新聞全体を見てみると、鳥のことをたくさん調べたので、情報量がとてもたくさんありました。そこで、新聞を見やすくするために、少し工夫が必要となります。たとえば、鳥の種数については、1 番はじめに聞きたい内容ですね。そうすると、紙面の上の方に記した方が、順序よく読むことができます。内容によって見出しをつけたり、台紙の色を分けたりするのも効果的だと思います。
それから、上大野小の周りは、とても自然豊かで、すばらしい環境の地域です。そこで見ることのできる鳥を意識して、記事を書いてほしいと思いました。上大野小のすばらしさを、全国に発信してってください。

茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル:サシバのすめる里山づくり

21-08-01

八溝自然たんけんたいのみなさんへ
師範から一言！
活動のねらいや、主な活動を記してくれたので、会の様子がよく分かる紙面構成です。サシバを会のシンボルにして、それを保全するにはどうしたらよいかについて考え活動している様子がよく分かりました。サシバだけでなく、そのほかの生きものの生活についても考えることができていると感じました。
長年活動を続けているので、昨年と比較することができるのも、会の強みですね。「いつもよりサシバが多く渡ってきた」というような記事は、これまでのデータの積み重ねがあってこそ記せる内容です。
サシバを守るには、周囲の環境も豊かにする必要があるという視点から、田んぼや川の生きものにも注目している点も評価できます。ヘビトンボやサワガニがいるような自然を守っていくにはどうしたらよいか、みんなで考えてってください。



とっておきのゴシドウ★
項目ごとに色を分けたり、図や写真、表などを適宜使用したりして、分かりやすく見やすい構成の壁新聞ができあがりました。SDGs の視点から、プラスチックゴミについても、これから考えていきたいとのこと、次年の活動も期待できますね。
さて、壁新聞をつくるに当たって、さらに魅力のあるものにするためにはどうしたらよいか考えてみましょう。項目のタイトルを工夫すると、読み手の興味がわくと思います。例えば“活動して分かったこと”と見出しをつけるのではなく“去年より多いサシバ”とすると、記事の内容も予想できます。新聞や雑誌の見出しを思い出しながら、記事を書いてみてください。
イラストにもこだわりを持つことも大切でしょう。動物や植物の姿を正確に書くことは、生きものを知る第一歩ともいえます。昆虫の脚や目の付き方にも注目してみましょう。
ちょっとしたこだわりが、バージョンアップのきっかけになると思います。参考にしてください。

環境未来館こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

それぞれの活動について、テーマごとに四角の枠のなかに分かりやすくまとめられています。そのためとても読みやすい新聞になっていると思います。みなさんの感想や活動内容が、簡潔かつはっきりと書かれているのもいいですね。活動の様子をよく理解することができました。「生物多様性」「もったいない」などの大切なキーワードがいくつも書かれているように、本当にいろいろな種類の活動をしたのですね！地域の森や水辺を生かした活動、身近にあるものを使った工作など、1年を通じて楽しく活動できるよう、工夫していることがわかります。季節を感じる活動が多いのもすばらしいですね。写真を多く使っているのもよい点です。みなさんの活動が生き生きと伝わってきました。この新聞を読んだ人は「このクラブでは色々なことができておもしろそう。自分もやってみたい」と感じるのではないのでしょうか。



とっておきのゴシドウ★

新聞が大きいので、全体を見るためには少し離れて読むことになるのですが、文字の色がうすめで、近くまで寄らないと見にくい記事があるようです。十分すぎるほどしっかりと、文字を書くよう意識してみましょう。より読みやすい新聞になりますよ。内容が活動ごとに簡潔にまとめられている分、新聞のなかだけでは書ききれないことがあります。読んだ人が「これはなんのことだろう？もっと知りたいな」と思う内容があるように感じました。(例えば私は「のりうつぎの術」「きのこの〇×クイズ」などが気になりました)新聞の補足として、より詳しい内容を知ることができる機会や方法があれば、みなさんの活動を色々な人に知ってもらえるかと思いました。

栃木県宇都宮市 清原ねいちゃーきつず

壁新聞のタイトル: 考えよう！みんなの地球 ぼくたちわたしたちにできること

清原ねいちゃーきつずのみなさんへ

師範から一言！

サツマイモ、タケノコ、夏野菜をとっておいしく食べた様子が新聞から伝わってきました。最近はお店で野菜をすぐ買うことができるので、その野菜をどのようにするのか知るチャンスがなかなかありません。自分たちでとって旬(しゅん)な季節に食べるというのはとてもいい経験になったと思います。キュウリ、トマトの実がどのようになるのか、サツマイモはどこにできるのか、タケノコはどこに出てくるのか、等いろいろな発見があったことでしょう。タケノコの「地獄焼き」というのを初めて知りました。タケノコは掘ってから時間がたつとアクがどんどん増えてしまうけど、すぐに焼いて食べればアクぬきをする必要もないのですね。まさに掘った人が味わうことができるタケノコのおいしそうな食べ方だと思いました。牛乳パックをつかって、キャンドルにかぶせるケースを作ったのかな。キャンドルに火をともした写真はとてもきれいですね！牛乳パックは、いろいろな工作に使えるので、いろいろなものを作って楽しんでください。



とっておきのゴシドウ★

竹をノコギリで切ってみて大変だったようですね。竹は表面がつるつるしているので最初はノコギリの歯がはいりづらかったり、硬くて切るのに時間がかかってしまったりしたかもしれません。使ったノコギリにもよりますが、手前にひくときだけ切れるノコギリだと思うのでひくときだけ力をいれるのがコツですが、実際にやってみるのが一番なのでこれからもトライしてみてください。落ち葉や栗のイガを使って火をおこしたのですね。里山という言葉を知っていますか？里山は人が落ち葉や木など自然のものを利用しながら生活するところで、人が利用することがへったために里山ができています。里山のような環境にはたくさんの生きものがくらしていますので、生きものを探したり、落ち葉を集めたり、遊んだりしてみてください。

イオンとちぎチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

「長ねぎ」についてとても詳しく調べてくれて、この新聞をよむと「長ねぎハカセ」になれそうです。「硫化アリル」はビタミンなどとくらべると聞きなれない成分ですが、成分を知るとどんな効果があるか分かるので便利です。同じ仲間の玉ねぎやニンニク、ニラにも硫化アリルが含まれているようですね。

実際に長ねぎを収穫したり、長ねぎを使った料理を食べたりしたように、五感をつかって体験したことがいいですね。ねぎにもいくつか種類があると思いますが、すきやき、なっとう、みそしるの他にもとてもたくさんの料理に使われています。「ねぎの収穫をしてから、ねぎのみそしるが好きになった」という感想をみて、私もねぎの収穫をしてみようかな、と思ってしまいました。

農業にはたくさんの水が必要なのが分かりました。ご飯1ばい分のお米を作るのに500ミリペットボトル264本の水が必要と数字であらわしてくれたのでイメージしやすかったです。日本は世界的にみて降水量が多い国ですが、大切な水によって育てられた食べ物も大切にするというのはすばらしい気づきだと思います。

とっておきのゴシドウ★

野菜の種類によって植物の食べる部分がことなりますが、長ねぎはどの部分を食べていますか？ 緑色のところはすぐに葉だと分かりますが、白色のところも葉です。長ねぎの茎はとても短くて分かりづらいので、今度長ねぎを収穫したら根の上あたりをたてに切ってみてください。葉がついている根元に茎を発見できるでしょう。根は収穫したときに見ることができたと思いますが、どんな花が咲くのかチャンスがあれば見てみてください。ネギぼうずと呼ばれています。

野菜だけでなく植物が育つのに必要な栄養素は、新聞にかいてくれたようにチッソ、リンサン、カリウムです。肥料といっても牛やニワトリのフン、石から作りだしたものまでいろいろあり、肥料のあげ方もそれぞれです。肥料をもらわない自然の植物たちは栄養をどうしているのか考えたことがありますか？ 自然の土には落ち葉や昆虫・動物のフンがおちて微生物(びせいぶつ)がそれを分解して植物の栄養をつくっています。



イオン小山チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

「水はどのようにして送られてくるのか」について、イラストと文章でとても分かりやすくまとめてくれました。水がくり返し使われていることだけでなく、人の生活のためには浄水場や下水しり場が必要なことや、そこにはたくさんの電気エネルギーが必要なことまで気づいてくれたことはとてもすばらしいです。日本は山から海までが短いため、川が短く流れがはやいとくちょうがあります。そのため大雨がふると一気に川の水がふえてしまうことがあります。川に流れこむ水をいちじてきにたくわえてくれる水源の森を大切にしたいですね。間伐材などを使って、ステキなコースターができましたね！木は種類(しゅるい)によって色が白っぽいものから茶色っぽいものまで色々あって、木目(もくめ)もすべてちがうので、くみあわせを考えながらコースターを作るのが楽しかったことでしょう。間伐材は木をたくさん植えて育てていくときに、こみあわないように間引いた(まびいた)木です。間引いた木もくらしの中でどんどん使っていきたいですね。

とっておきのゴシドウ★

田んぼでみつけたバッタは何をしていましたか？何のために田んぼにいるのでしょうか？稲刈りではないですね？！バッタは植物を食べるので、イネの葉っぱが好きなバッタがあつまってきます。写真のバッタは頭がとがった大きなバッタにみえるので、ショウリョウバッタかな。田んぼはバッタの他にもカマキリ、トンボ、カエルなどいろいろな生きものがやってきます。田んぼで見つけたら、何をしているか観察してみてください。

ペットボトルでのイチゴ栽培にチャレンジしたようですね。ペットボトルで植物を育てるのは近くで成長をみることができるので楽しいですが、庭の土に植えるよりお世話は大変です。なぜかという根っこが呼吸(こきゅう)をするために空気が必要なのと、水の中には栄養がないからです。うまいかなかったときは、「なぜかな？」と考えてぜひもう一度チャレンジしてみてください。



真岡児童館やさしクラブのみなさんへ
師範から一言！

カラフルで内容もりだくさんの新聞ができましたね！ 明るい色がたくさん使われているので、華やかで楽しい印象の新聞になっています。どこから読もうかワクワクしました。去年は新型コロナウイルスの流行により、できなかったり、規模を縮小したりした活動があったのですね。その中で考えたことや感じたことを記事にしたのは、すばらしいアイデアだと思います。考えたこと感じたことを丁寧にたくさん書いてくれているので、活動の数は減っていても、読みごたえのある新聞が出来上がっています。メンバーや卒業生にアンケートを行い、「いそ山」での活動の大切さ・楽しさを再認識できたこともよかったですね。この状況だからこそ、書いてくれているように「当たり前」に活動できることの幸せを考えることができたのかもしれない。新聞を読んだ人へ「いそ山」での活動の楽しさや学べることがよく伝わる新聞になっています。

とっておきのゴシドウ★

新聞をふちどる形で1年間の活動がまとめられています。この記事のまとめ方はとてもよいですね。ただ1年間の活動とそれ以外の記事で似た色の紙が使われているため、記事の区分けが少しわかりにくい印象を受けました。文字の色や背景を変える、枠をつけるなどして1年間の活動とそれ以外の記事の違いを目立つように区分けすれば、もっと読みやすい新聞になると思います。またいそやまに関連したテーマの新聞なので、いそやまの情報についてもう少し詳しく書いてもいいかもしれません。文章に加え、いそやまの地図や歴史、自然の様子などもより具体的に説明されていると、みなさんの活動の場、いそやまのことがもっと読み手に伝わるかと思いました。



太田イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！

田んぼの水は水路を通ってくるので、水路を汚さないことが大切だと記事から伝わってきました。田んぼの生態系はとても豊かで、バッタ、トンボ、カエル、ヘビなどたくさんの生き物でにぎわっています。カエルはオタマジャクシのときは水中にいますが、カエルになると陸上で生活をするようになり、種類によっては森に移動するものもいます。移動しているときに水路におちてしまったら、水路のかべがまっすぐだと登ることができないので、スロープになっているのは生き物にやさしい水路ですね！

ところで、田んぼにはなぜ水がたまるとか考えてみたことがありますか？ しろかきの写真がありますが、このしろかきをしないと田んぼには水をうまくためることができません。しろかきをすると田んぼの土がどうなるのかぜひ調べてみてください。

世界に目を向けて「汚れた水から考える」というテーマで、水の大切さを考えてくれました。水道から飲むことができる水がでてくることが、世界では当たり前なことではないということに気付いたと思います。日本でも同じように昔は汚れた水で病気が広がったことがあり、明治時代から今のような水道に変わってきました。日本は今汚れた水で困っている世界の人たちに対してできることをしていきたいですね。

「もやしの育て方」で、「くさってしまい、もやしを食べることができませんでした」という記事があり、このように失敗した経験はとても参考になると思いました。くさってしまった理由を、水をかえる回数が少なかったか、いれ物が小さかったせいかと考えてくれているので、きっと次は成功するでしょう。もやしの根っこには水はもちろん必要ですが、呼吸をするために空気も必要なので、空気が足りないとかくさってしまうことがあります。



とっておきのゴシドウ★

「土ではなく水だけで植物は育つか？」というおもしろい実験をしてくださいました。日にちと長さを記ろくしてグラフまで作成してくれたので、成長のようすがよく分かりました。Aのグリーントイのキットの方があきらかに成長がよい結果ですね。ふつうの砂は栄養のある土ではないのでキッチンペーパーと栄養のちがいはありません。次のことを考えてみてください。

キットには肥料がついていたと思いますが、使いましたか？ 使うと大きく成長します。ペットボトルの中には水だけでなく空気も必要ですが、空気の量は2つのペットボトルで同じくらいでしたか？ 葉っぱで栄養をつくるためには日の光が必要なので、ぜひ夏にまたチャレンジしてみてください。スプラウトを、日に当てるものと当てないものを育てて比べてみたのはよいアイデアです。日にち、天気と長さを記録してくれたので、分かりやすく参考になる内容になっています。日に当てると、色が緑色になることが分かりましたね。日に当てない方が1cmだけ長かったのはなぜか考えてみましたか？ 日を当てないために、なにか工夫をしていたらおしえてください。容器にふたをしたのかな？ もやしが容器より長くなったらどうしたのだろう、と思いました。実験は工夫しながらなんどもやってみると、新しい発見がきっとありますよ。

師範から一言！

壁新聞をみると、学校の生きものや大島じんじやの生きもののことが、とても気になります。春や夏にたくさんいた生きものが、秋や冬にどこにいくのかなと思います。また来年も同じように見つけられるかな？

へん集後記で書いていたように、秋に、どんな生きものがいるのか調べるときに、春や夏の生きものがいるのかいないのか、ふえているのか、へっているのかも、しらべてみてください。

どこに行ったのかもわかったら面白いし新しい発見があると思います。

ぜひ、見つけてください。見つけたら、壁新聞でも、学校のみんなやこどもエコクラブの全国の人たちに知らせてあげてほしいと思います。

生きものは、何回も見たら、しゅるいをしらべたり、おす、めすをしらべたり、何を食べて、どこで卵を産んだりするのを調べるのは、生きものを調べる第一歩で、一番、大切なことだと思います。

壁新聞でおしえてくれたけれど、かたつむりのたまごを見つけたのはすごいと思います。

いろんな体験をして感じたと思うけれど、その体験をしたり、継続して行ったらどんな良いことがあったり、続けるためには何が大切なのかということなんかも、壁新聞を通じて全国のこどもエコクラブの仲間に教えてほしいと思います。

こどもエコクラブの活動も継続していくことが大事です。みんなのクラブでもがんばってください。



とっておきのゴシドウ★

学校や神社を活用してすばらしい活動をされていると思います。壁新聞などを通じて、校内や地域に知らせて行くこともとても意義のあることなのでがんばってください。ドングリの種まきや植樹もすばらしい取り組みだと思います。

植樹してから追跡調査も面白いと思います。それぞれの活動の工夫点などを紹介してほしいです。

少しでもたくさんの人に興味を持ってもらうため、これからもぜひ、こどもエコクラブの活動でもがんばってください。

埼玉県春日部市 とよはるエコクラブ

壁新聞のタイトル:委員会紹介新聞

21-11-03

とよはるエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

委員会による花の管理や掃除の活動をとてもわかりやすく報告していただきました。

とても元気に育っている花の様子も写真でしっかりわかりますね。この様子を見るだけでもとても大切に育てられていることがよくわかります。

委員会活動では、4つの活動内容を順番に分担して行っているのでしょうか。花づくりを通じて、役割分担や順番などのグループ活動を体験し、育まれていくのは授業とは一味違う学びの場となっていますね。

「小学校を明るくするため」と感想と意欲も書かれています、花がプランターからあふれんばかりに咲きほこって、とても明るい場になっていることが伝わってきました。

とっておきのゴシドウ★

壁新聞に大きく「委員会活動新聞」と書かれているため、この壁新聞にどうことが書かれているのかとても良くわかります。タイトルをはっきり示すことが、相手に理解してもらうためにもとても大切なポイントです。元気よく書かれていることはとてもいいと思います。

ただ、この委員会には活動がわかるような名前はついていないので、たくさんある学校の委員会の中でどういう役割があるのかが最初わかりませんでした。

単に「委員会活動」という名前の場合でも、「小学校を明るくする委員会活動」というように、活動の目的に合わせてタイトルを自分たちで考えてみると、わかりやす伝えることができると思います。

とても素敵に咲いているプランターの花壇なのですが、月一回の委員会活動で、こんなに立派に育ったのでしょうか。土作りや細かな水やりも丁寧にされているように思いました。

今回は委員会の報告だったので、プランターの毎日の管理の様子は書けなかったかもしれませんね。

このプランターに関わる人達の様子や、このプランターの花を見た仲間や先生の感想なども伝えていくと、「活動の成果や、活動の面白さ」も発信できて、自分たちの学校ならではの委員会活動も伝えられることができると思います。



白岡市西児童館こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

児童館のみんなと力をあわせてステキな壁新聞ができましたね！

「エコクラブでの約束」を通じて、地域の環境や自然とのふれあいかたを学んでいるのですね。お家でもできることも書かれているので、みんなができること、チャレンジできることがよくわかりますね。みんなのエコ活動も写真やイラストつきでたくさん紹介していただきました。

畑づくりから野菜の収穫では料理まで挑戦されたのですね。野菜づくりは、一年間ほんとうにたくさんの作業があります。そんな成長ごとに観察して一貫して体験する活動は、とても貴重なことです。これからも身近に自然を感じながら活動してもらえたら嬉しいです。

とっておきのゴシドウ★

今回の壁新聞は、大人とこどもが手を取り合ってすばらしい作品になったと思います。

記事の展示の工夫や、記事の枠のデザインなど、こどもたちや読む人たちを楽しませる工夫をたくさん感じました。つい子供時代の「お楽しみ会」を思い出しました。ここでは、とても楽しく学び体験していることだと思います。

また、「エコクラブでのお約束」を目立つ場所にはることで、環境活動にもルールがあること、それを守ることは大切なことだと感じさせてくれますね。

こうして壁新聞が元気で楽しい活動の軸になってくれることを期待したいと思います。

「活動の写真」はこどもたちと一緒に貼ったのでしょうか。活動の内容のタイトルのまわりに元気よく貼られているので、こどもたちが元気につけている様子が目に浮かぶようです。

そしてイラストが本当にステキですね。

こどもたちの観察力となにを強く感じているのかがよく分かるので、壁新聞にはとてもいい工夫だと思います。せっかく元気な壁新聞になっているので、書いたものを貼るだけでなく、枠を超えてたくさん書いてあっても楽しい壁新聞ができると思いました。



埼玉県三芳町 竹の子エコクラブ

壁新聞のタイトル:竹の子エコ新聞 2020

21-11-02

竹の子エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

まずこの壁新聞を目にして「なんて楽しい新聞なんだ！」と驚きました。そしてそれぞれでいねいに描かれたスケッチを見てわくわくどきどきと記事を読み進めることができました。「読んでみたい！」と読者に思わせるステキな壁新聞だと思います。

今回は、各記事のタイトルにも工夫を凝らしましたね。どんな記事がこの壁新聞にかかれているのが一目瞭然でした。記事の中身も大事ですが、全体のレイアウトもとても大切なことです。今回の工夫は、他の壁新聞のみなさんにも参考にしてほしいと思うぐらい素晴らしいと思います。

また、それぞれの記事の「キーワード」にも色をつけたり、修飾したりしていますね。こうすることで、みなさんが伝えたいことをより強く、そしてよりわかりやすくすることができます。一つの記事の中でも、同じように工夫があって、自然にかかれていることが頭に入ってきます。

また、たくさんの人があつまり様々な書体でこの壁新聞が書かれています、全体的に書き方のルールが守られているので、とても全体としてとてもまとまっています。メンバーみんなのそれぞれの書き方も楽しめるという2度楽しめる新聞でした。とても楽しく読ませていただきました！



とっておきのゴシドウ★

実は、記事の中であまり色を使いすぎると、ごちゃごちゃ感がでてしまい読みにくくなることがあります。でも今回の新聞はとても読みやすかったです。なぜかという、色だけでなく、文字の大きさや、文字列のとり方、線の太さにもしっかり工夫をこらしたからだだと思います。

書きたいことが多くなると、どうしても文字をつめて書いてしまうこともあります。今回も少しその様子もみられるのですが、全体的には読みやすさを考えて、文字の余白を取られていますね。とてもいいバランスでまとまっています。

さて、活動の内容についても、とても工夫を凝らして楽しんでいる様子もよくわかりました。お手伝いである「落ち葉はき」も、大会として楽しく競い合えばスポーツになりますし、その後の肥料の活用も素晴らしいですね。

またそれぞれの活動に対して、みんなの「感想」が書かれていました。

みんなが環境活動を通してどんな気持ちになったのか、とても大切な情報です。読みやすくとめられていたのみなさんの気持ちもよく伝わりました。

ただ、活動日時について、タイトル部分で書いてあったり、記事の中で書かれていたり、まとまってはいませんでしたね。一年間でどういった活動をしたかということをはっきりと伝えるのでしたら、わかりやすくとめてみるか、もしくは一年間の表をつけてみるのもよかったですね。

特に季節の変化を考えながら自然体験を伝え、より楽しい発信ができると思いますよ。

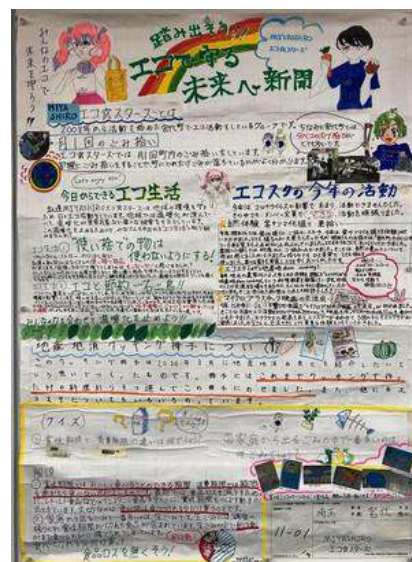
MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんへ
師範から一言!

とても元気な壁新聞ができましたね!

「コロナウイルスの影響であまり活動ができなかった」ようですが、それを吹き飛ばす虹色のタイトルと、元気のいいイラストが、壁新聞の内容とよく合っていて素晴らしいと思います。活動も、継続しておこなった活動と、コロナ対策の制約下の中で「できること」を新しく考えて行った活動の内容が整理されて、みなさんの活動の工夫や、新しい可能性を感じる内容となりましたね。

また、活動の中で制作した「クッキング冊子」についても、こうした壁新聞で成果をしっかりと報告することはとても大切なことです。この記事を見て、自分たちもやってみよう! と思えるような素敵な記事になっていると思います。

あと、「宮代町にはポイ捨てがとても多い」という吹き出しもありました。ポイ捨て自体は残念ではあるのですが、みなさんが、まちの課題をしっかりと認識し、解決のための取り組みも紹介しているのは、問題点と手法がワンセットで整理されて、活動報告と情報発信の内容として、とても良いと思います。未来づくりには、こうした問題意識と行動が一緒にいなくてははいけませんからね!



とっておきのゴシドウ★

2008 年から活動を行っているということで、全国の環境活動グループの中でも、かなりの経験をもったグループとなりました。これからも環境活動グループのリーダーとしてがんばってほしいと思います。こうした長い経験のあるグループですから、様々な活動を受け継がれていると思いますので、これまでグループとしての成果や経緯といったものもグループの特色として、少し発信してみても面白いと思いました。全国のみなさんは、どうやって長年活動を続けてこられているか、興味津々だと思いますよ。それから、「地産地消クッキング」も、みなさんの活動の中で大変特色のある成果だと思います。今回は、9 つの冊子をつかったことの紹介だけでしたがとても興味深い記事ですので、できればもう少し詳しく大きく取り上げても良かった内容だと思います。自分たちの発信したい活動について、「全国に発信したいと思う記事」を優先的に紹介できるように新聞の構成を考えていくと、より読みやすく迫力のある壁新聞になるとと思います。

千葉県船橋市 ななちゃんズ
壁新聞のタイトル:ななちゃんズ新聞

21-12-01

かわいらしいデザインの壁新聞ですね。すごろくになっているけれど、マスが気球になっているのもおもしろいです。このアイデアはどうやって思いついたのでしょうか。毎年壁新聞を作っていると、いろいろなアイデアが浮かぶのかなと感じました。

最近東京湾の魚の種類が増えている、というニュースを聞きましたが、壁新聞からたくさんの生き物が棲んでいることがわかりますね。埋め立てによって、昔とは変わってしまった海岸もあると思いますが、残っている三番瀬などはこれからも大切にしていきたいですね。

水中カメラマンのお仕事は貴重な体験でしたね。私は一回スキューバダイビングをしたことがありますが、想像以上に海水の流れが速くて驚きました。水中の映像をよくテレビで見ますが、カメラマンの方は大変なんだなと思いました。ななちゃんはどう思いましたか?

編集後記のところになる「エコマーク」の書は達筆ですね。気持ちが込もっています。

とっておきのゴシドウ★

すごろくのデザインには合わないかもしれませんが、それぞれの活動には活動した日付があった方がいかなと思います。後でいつ活動して、どんな生き物が見られたかも把握できるので、日付がある方がわかりやすいと思います。

編集後記に「海の自然を大切にしたい」と書かれていて、その気持ちをぜひこれからも大切にしていきたいです。そして、そのために、やってみようと思ったことは具体的にはどんな行動か、ぜひ考えて書いてみましょう。すでに取り組んでいることもあると思いますので、小さなこと

でも具体的に書くと、読んだ人にも参考になるとと思います。たくさんの人に海の自然を大切にしよう、と思って行動してもらえるように、これからもがんばりましょう。



ミツ星エコクラブのみなさんへ
師範から一言！

紙面を上手に使って、とても読みやすく、かつ新しい発見がたくさんある壁新聞だと思います。文章は多いですが、過不足なく必要なことがていねいに書かれていて、まとまっていますね。壁新聞に書く前に、推敲しているのでしょうか。とても読みやすい文章で素晴らしいと思いました。

身の回りで気が付いたことから、色々調べてみて、そこからまた次のことを調べてみる、というように活動に発展性があります。その流れもよくわかり、読んでいる方も「確かにそうだな、どうなるのかな」と興味を持って読めました。

使い捨てのプラスチック製品については、コロナ禍でまたたくさん使われるようになったりして、難しい問題ですね。やはり値段や衛生面では優れているとも言えます。全てをプラスチックではない製品にすることは難しいですが、状況に合わせて別のものを使っていけるといいと思います。みなさんが検証した、ストローの使い心地でも、それぞれにメリット・デメリットがあるように感じました。長時間使いたい場合は、紙のストローでは少し心配ですが、短時間でよければ紙でもいいし、そもそも使わなくてもよい、という考えもあるかもしれません。プラスチックのストローを使うことが当たり前ではなくて、自分で考えて選択していくことが必要ですね。

熊の出没では「新世代クマ」というのは初めて知りました。確かに、最近は日本各地で熊が出没していますね。人を恐れない世代になってきているのかもしれませんが。問題の背景をよく調べて対策を取っていきたいですね。

とっておきのゴンドウ★

調べたことがたくさん書かれていますが、最後に今後のテーマにしたいことも書かれていることも素晴らしいと思います。まだまだ取り組みたい・調べたいことがたくさんあると思います。それは、普段からテーマを持って活動し、ふりかえり(検証)して、また家族で話し合って考えを共有しているから、次のテーマもどんどん出てくるのだと思います。テーマ(課題)があっても、それに気づけなければ解決しようということになりません。「気づく力」というのは、地味なようでとても大切な力で、この壁新聞からは「気づく力」が磨かれていると感じました。ぜひこれからも「気づく力」を高めていってほしいと思います。



新潟県三条市 環境 kids

壁新聞のタイトル:こどもも大人もエコについて考えよう

21-15-02

環境 kids のみなさんへ
師範から一言！

クラブの結成日が令和2年3月とのことで、まだ活動期間が長くないと思いますが、とても充実した活動内容と壁新聞で驚きました。メンバーで協力して、一生懸命作った様子がわかります。ごみ拾いやエコチャレンジでは、取り組んだことだけでなく、結果を表とグラフに示して、振り返りができているところが素晴らしいと思います。読む人にも内容がよく伝わります。エコチャレンジの「玄関のドアを閉める」がみなさんあまりできていませんが、なぜでしょうか(寒くないですか...?)。表になっていると、次の課題も見つけやすいですね。

また、色々な人にお話を聴いているのも素晴らしい活動だと思います。人それぞれ考え方はありますが、この先もこの地球でみんなが暮らしていくことは共通のことです。色々な考えを聴いてみると、ヒントがたくさんありますね。

上林小学校のみなさんのコメントを読むと、一人ひとりが小さなことでも取り組んでいることがわかり、私もがんばろうという気持ちになりました。また伊部さんの「興味がない人の意見を歓迎する」というのは難しいけれど大切だし、効果のある方法だと私も思いました。環境 kids の活動以外でも活かせる、とても大切なことだと思います。

とっておきのゴンドウ★

横の部分に「文章を書くのが大変だった」とありますが、苦労した分、とても読み応えのある壁新聞になっていると思います。じっくり読んでみて、とても興味深い壁新聞でした。活動したこと、新しく知ったこと、感じたこと、これから取り組もうと思ったこと、がしっかり書かれています。よく「これから取り組もうと思ったこと」が忘れられがちなのですが、そこまでしっかり書けているのは、活動が充実していて、ふりかえりもしっかりできているからだと思います。ぜひこれからも家族で協力して、地域の色々な人にも協力をいただいて、活動を続けていってほしいと思います。

地域事務局からの応援メッセージ【三条市】

環境 kids 皆さんは、ゴミ拾いの活動や「みどりしんぶん」作成のための取材をととても熱心に行っています。「みどりしんぶん」が出来上がると環境課に持参して下さるので、多くの方に読んでもらうため、環境啓発施設 かんきょう庵で掲示しています。どんな活動を行ったのか毎回楽しみにしています。今後も楽しみながら、環境にやさしい生活を続けてください。



福井県福井市 北陸中学校3年 A 組
壁新聞のタイトル:PLASTIC～環境問題～

北陸中学校3年 A 組 3 班のみなさんへ
師範から一言！

海の漂着物調査でマイクロプラスチックについて調べたことが、中学生らしく整然ときれいにまとめられている新聞だと、まず目を引きました。特に、種類別のマイクロプラスチックの写真と、個数調査の結果がわかりやすく示され、興味深く見させてもらいました。マイクロプラスチックについてよく調べていますね。

そして、タイトルの「守ろう！ 人類の未来 と 海の生物」は、みなさんの”思い”が、よく伝わり、ぐさりと響きました。とても良いですね。海洋汚染のことだけでなく、海の生物全体を考える視点が大切です。海のエコラベル(これは、海洋汚染とはまた別の問題で、魚の乱獲等の対策のためのものです)を紹介されている通り、海の生態系保全として着目してってください。最後に書かれたよう「海岸のため、海のため、魚のため、環境のために取り組んでいきましょう。」を、より多くの人に伝え続けてってください。



とっておきのゴシンドウ★

調査結果で、肥料コーティングカプセルが群を抜いて多く数えられたことがわかり驚きました。この肥料コーティングカプセルは、特に田んぼで多く使われているので全国的にも問題となっていて、その対策を考えていかななくてはならない大きな問題です。流域の田んぼから川を通じて海へと流れ、それが海岸に打ち上げられたのではないかと考えられています。

その肥料コーティングカプセル以外は「数が少ないと感じられ」たかもしれませんが、20×20cm の中で、発泡スチロール片が 28 個、レジンペレットが 7 個も見つかっているのは大きな問題です。この海岸一帯では、どれだけ多くの発泡スチロール片があるのでしょうか？！

マイクロプラスチックが多いところを調査地に選んだのかもしれませんが、三国サンセットビーチだけで海岸線が〇mだから、〇m2 とすると、この海岸全体で〇個の肥料コーティングカプセル、発泡スチロール片、レジンペレットがあると推定の数进行算することもできます。いかに多くあるかがわかるかと思います。それを地域に伝え、地域の人たちと一緒に解決に向かうことを考えていかななくてはならないものです。今回の調査結果はこのように活かすととても貴重なものとなります。がんばってください。

福井県福井市 北陸中学校3年 A 組
壁新聞のタイトル:PLASTIC～環境問題～

北陸中学校3年 A 組 4 班のみなさんへ
師範から一言！

浜辺の漂着物調査から、プラスチックに的を絞ってまとめたのは、いいところに気づきましたね。

浜辺で回収したマイクロプラスチックから、元のプラスチックを考え、どのようにしてマイクロプラスチックとなってしまっているのかの過程も含め、イラスト、文章、写真で示して、とてもわかりやすいです。

新聞全体として、真ん中に黒色バックにカラフルな文字のタイトルがポスターのようにデザインされとても印象的に感じました。目立っていていいですね。下段のバックもカラフルで、イラストも多く、実は深刻な内容ですが、明るいイメージの全体の雰囲気がすてきです。



とっておきのゴシンドウ★

説明のところでは、「現状」と「予測」とで分けて記されているのは、現状の事実と、今後の予測が明確に分けて示され大切なことで、わかりやすいと感じました。ただ、説明を全部読まないで内容がわからないので、伝えたいことをひとことで表す小見出しを加えて内容に引き込むような工夫をすると、さらにわかりやすくなるでしょう。あるいは、イラストがプラスチック製品や海の生きもののイメージ図だけでなく、もうひと工夫して内容を示すようにすればイラストで伝えることもできるでしょう。

ひとつ気になったのが、現状の一番最後の、「しかし、今回の調査では肥料コーティングがかなり多い割合」とのこと。肥料コーティングの外側の殻はプラスチックでできているため、分解せずにいつまでも環境に残り続け問題となっているものですので、プラスチックとして認識してくださいね。従って、皆さんの調査でも、プラスチックが高い割合を占めていたようです。

プラスチックを考えるとときには、地球温暖化の影響も考えなくてはならないことも、しっかりと表記されていて、さすが中学生と感じました。大切なことです。現状では、再利用されるのはほんの 9%で(それも 1 回再利用されただけで廃棄や焼却となってしまうものが多く)、ほとんどが廃棄・焼却されていることの図が引用されています。きちんと説明している良い図です。これについては図だけでなく簡単に説明があると読んだ方にもこの現状をより深く知ってもらえることができたでしょう。ぜひみなさんから多くの人に伝えてってください。

福井県福井市 北陸中学校3年 A 組 壁新聞のタイトル:PLASTIC～環境問題～

21-18-04(1 位推薦)～05 (全 5 枚)

北陸中学校3年 A 組 1 班のみなさんへ

師範から一言！

漂着物調査で予想以上のごみが海岸に散乱している状況に驚き、その多くは街から出るごみだと知り驚き、それをたくさんの人に伝えたいというみなさんの思いがとても良く伝わりました。

項目ごとにカラーの太枠で囲み、⇒に従って読む順番が示され、とても読みやすく工夫された新聞だと感じました。感想と解説はイラストのキャラで示されているのもわかりやすいです。調査については、きっかけ、手順、結果と整理され、結果表も見やすいですね。

大量の海ごみが発生していることの改善点を書き出しただけでなく、〈私達にできること〉として示したことも素晴らしいです。感想に書かれているように、日常で使っているもの一つひとつについても日頃から3Rを意識した生活を送ってください！



とっておきのゴシドウ★

ごみの排出量が多い国の順番のクイズがありますね。それとは別に、容器包装プラスチックごみの一人当たりの年間排出量(2014 年)は、日本はアメリカに次いで 2 位に多いとされています。今、海ごみとして問題となっているプラスチックごみ、特に使わなくてもすむような使い捨てのプラスチックが日本では多く使われ、排出されています。これらを減らすことがとても重要となっています。大量生産・大量消費を見直すことも重要です。3R も大切ですが、その中でもまずは Reduce(減らす)を進めていってください。できることから少しずつでも実行していってください。

北陸中学校3年 A 組 2 班のみなさんへ

師範から一言！

まずは、とてもスマートに、タイトルや見出し文字の大きさも色も美しく配置されて素敵にデザインされた新聞だと感じました。すばらしいです。分かったことに様々なことを書き出していますが、この学習で海ごみの状況やその生きものへの影響など多くのことを学び衝撃を受けたことが、「未来に残そう 私たちの海」のタイトルとしてうまく表現されています。みなさんの思いが伝わってきます。

ごみのことだけではなく、SDGs の広い視野で環境問題を考えようとしたこともすばらしいです。

調査を行い、ごみの問題を知り、ごみを出さないように考え生活すること、環境にやさしい生活が重要ということをみなさん理解されたようですね。これからはそれを行動していくことが大切です。皆さんの行動に期待しています。



とっておきのゴシドウ★

SDGs について調べられたのであれば、この活動は、SDGs で考えると「14 海の豊かさを守ろう」と関係するのかな？それだけでなく「12 つくる責任つかう責任」、ほかにも・・・にも関係するのかな？さらに、持続可能な開発目標を達成するためにどのように行動していけばよいのかまでを皆さんにお伝えできるとより理解が深まることでしょう。不法投棄防止対策については、野田市の例だけでなく、地元の福井市についても紹介できると関心が高まるかもしれません。漂着物調査は、2 班の結果も知りたかったです。調査項目だけでなく結果を表やグラフで示したり、せっかく掲載した写真にも説明をつけるなどするとさらにわかりやすい情報となり、多くの人に伝えられるようになることと思いますよ。

福井県福井市 北陸中学校3年 A 組 壁新聞のタイトル:PLASTIC～環境問題～

北陸中学校3年 A 組 5 班のみなさんへ

師範から一言！

5 班のみなさんは、漂着物全体について、広い視野で考えた新聞となって、海ごみの課題全体が示されていてすばらしいです。広い視野で課題を考えていくことは大切です。

全体のデザインも色使いも美しくまとまっていて、読みやすい新聞ですね。漂着物の写真やイラストと吹き出しマークによる説明や感想が記され、浜辺がどんなにひどい状態であるのかが想像できます。よく伝わっています。



とっておきのゴシドウ★

説明の前には、「漂着物とは？」「拾うだけでは解決しない」などを見出しがついていて、内容をわかりやすく示していると感じます。でも、目立つ(1)～(4)は、こんな漂着物があったということでしょうか？気になった順？多かった順？何を示す番号なのかがちよっとわからなかったです。ひとこと説明があるとよかったなと思います。

海ごみは「拾うだけでは解決しない」という大切なことに気づきました。たとえ回収したとしても処理するのに膨大な費用がかかってしまうのも大きな問題です。そのためにはしっかりと分別し、ポイ捨てをしないことや、分別することを呼びかけることも大切なことです。さらには、それだけでなくごみとなるものを減らしていくことがもっと大切です。分別して出したつもりのごみでもカラスや猫のしわざで町の中に散らばり川へと入ることもあります。まずはすぐに捨てられてしまうような使い捨てのプラスチックを使わないようにするなどして減らしていくことがとても大切です。そのためには自分は何ができるかを考え、小さなことからでも実行していってください。

長野県松本市 いきものみつけファーム in 松本推進協議会
壁新聞のタイトル:①オオタカの生態新聞 ②動植物との共存

21-20-01(推薦)、21-20-02 (全 2 枚)返却希望あり

いきものみつけファーム in 松本推進協議会①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

以前より希少な鳥として、その存在を知られていたオオタカをこんな身近に観察することができるのは、松本の自然の豊かさを感じます。私も環境アセスメント等でオオタカの調査をすることがありますが、場所によってはその姿を確認することさえ難しい場所もあるくらいです。新聞にも書かれていたように、オオタカが生息しているということは広い範囲に自然が残されていて、食物となる生き物もたくさん生息していることを意味しています。オオタカ以外の猛禽類も多数確認されている、このような自然がこれから守られていくといいですね。そのためにも、このようなモニタリングは重要です。今後も継続されることを期待しています。

とっておきのゴシドウ★

今度は、オオタカの生息している場所が現在どのようになっているか、なぜこれだけ多くの生き物がせいそくできるのか、新聞にまとめてみるのもいいかもしれません。新聞を読むと、オオタカ以外にも、豊かな自然環境にすむ猛禽類が数多く生息することができる環境があるようですね。新聞を読んだ人は、「オオタカってどんな生きものかな？」と同じように「他の猛禽類はどんな生きものでどんなふうに住んでいるの？」のような興味がわいてくると思います。みなさんの好きな生きものについて、次の新聞で全国のお友達に紹介してほしいと思います。松本にはオオタカだけじゃなくて他にもこんな生きものがいます、というように。

いきものみつけファーム in 松本推進協議会②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

東京にすんでいる私から見れば、豊かに見える長野の自然も生息する生き物から見るとかなりの変化があるのですね。クマとの共存はなかなか難しい問題だと思います。なぜ人里にクマが現れるようになったのか、その原因をつきとめ、そしてそれについて多くの人の理解が必要になります。学者や研究者がなんとかクマとの共存ができないか、いろいろ研究していますが、この問題の解決には何よりもそこに住む人々がどうしていきたいか考えることが重要に思えます。そういう点からもみなさんがこうして新聞を使って呼びかけてくれたことは、この問題を多くの人に考えてもらう第一歩としても重要なことだと思います。

とっておきのゴシドウ★

長野にはクマ以外にも、ライチョウやリンドウなどの貴重な生物がすんでいるのですね。ライチョウは、今や動物園で人工繁殖が行われているほど、絶滅が心配されています。リンドウなどの植物は移動ができないので生育地がなくなるとその場所では絶滅してしまいます。これらの生き物も重要な話題なので、次の新聞では、ぜひライチョウやリンドウを「動植物と共存する」というのはどういうことなのか、をテーマに、全国のお友達に教えてあげてほしいと思います。以前のようなタガメやノウサギが生息していたころの豊かな自然に少しでも近づけるように、全国のみんながそれぞれ何をすればいいか考える、いいきっかけになると思います。皆さんで協力して自然を守っていきましょう。



愛知県半田市 半田こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:しぜんがいっぱい

21-23-02

半田こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

タイトルのとおり、みなさんの地域には自然がいっぱいあるのですね！山・川・海といった自然のなかで、みなさんが元気に活動しているのがよく伝わってきました。イラストや色紙などで表現されている生き物たちもとても上手にできています。みなさんが自然や生き物をしっかり観察していることがわかります。また今ある半田の自然を楽しむだけでなく、トビハゼの放流や、ゴミ拾い、間伐など、環境をよりよくなる活動にもチャレンジしていることはすばらしいですね。干潟は生き物たちにとって貴重な水辺環境ですが、日本では 20 世紀後半までに多くの干潟が失われてしまいました。そのような状況のなか、みなさんの身近な地域に干潟が残っているとはすばらしいことですね。これからも干潟の環境を守っていくためには、どのようなことが大切なのでしょう。エコ活動を通じて気づいたことや考えたことがあったら、ぜひ色々な人に伝えてみてください。

とっておきのゴシドウ★

1 年間を通じて、色々な形で活動をしてきましたね。活動した場所や日時、季節を記事と一緒に書いておくと、活動の内容がよく伝わりやすくなると思いました。また記事によっては文字がうすめで、近づかないと読みにくいものがあるようです。壁新聞は紙面が大きいので、少し離れたところから新聞を読むことになります。そのため文字は濃く、できるだけ大きめに書いたほうが読みやすい新聞になりますよ。好きな生き物などのベストをあげてくれていますが、なぜこれらの生き物がベストに選ばれたのか知りたいなと思いました。投票結果と共に、みなさんの感じたこともあわせて書いてもらえれば、みなさんの思いがよく伝わり、より生き生きとした新聞になりそうです。



豊明エコキッズのみなさんへ

師範から一言！

記事やタイトルのデザインをととてもよく工夫していますね。中でも新聞タイトルの「コロナに負けるナ」にあわせてカルタを作ったのは、ユニークですばらしいアイデアだと思いました。写真や記事の形、大きさ、配置、色づかいも見やすくきれいにまとめられています。

内容についてですが、タイトルの通りコロナに負けず、前向きに楽しく活動できていることが伝わってきました。エコクッキングなどできなかった活動もあったようですが、クリーン活動や川の水質調査など、みなさんの住んでいる地域をより良くする活動を頑張ったことがわかります。地点による活動結果の違い(水質調査、落ちていたゴミの種類)を具体的に示し比較している点もいいですね。特に13年間の皆瀬川調査の結果はとても貴重な情報だと思います。今後皆瀬川の水質をもっと良くしていくには、どのような環境整備や活動が必要でしょうか。活動を通じて新しいアイデアが浮かんだら、来年以降の活動でチャレンジしてみるのもいいかもしれませんよ。

とっておきのゴンドウ★

皆瀬川のCOD調査結果のグラフは、とても分かりやすくできていますね。せっかくの貴重な調査結果なので、もっと分かりやすくなるようにしてみましょう。具体的にはグラフの凡例(赤や青の棒、線が何を示しているかを説明する欄)をつけるといいかと思いました。またできれば、グラフの最大値(上限)は同じ数値に統一したほうがいいかもしれません。同じ数値にすることで、2地点の結果をより正しく比較できるようになりますよ。

活動場所・調査地の坂畑公園と道山について、どのような場所か文章で説明してくれていますね。もし紙面に余裕があれば、ポイント周辺の写真や地図などの説明を加えてみてはどうでしょうか。活動場所の特徴がより読み手に伝わると思いました。



三重県津市 なひがんばる隊

壁新聞のタイトル: 新しい生活様式 with エコ活

21-24-01

なひがんばる隊のみなさんへ

師範から一言！

壁新聞を見て、超力作で感心しました。

大人向けに創られた新聞のようで、内容もレイアウトも完成度が高く見本の壁新聞のようです。津市内でも、様々な方が参考にされてられると思います。「新しい生活様式 With エコ活動 令和3年1月発行号」で特に感心したのは、ゲリラ豪雨や南海トラフ地震対策としてコロナ禍で調べられた避難所調査です。私も防災士の活動をしているので興味も関心もあります。SDGs目標11そのものだと思います。判りやすいしこういう調査が日本中に広がってほしいと思います。壁新聞としての完成度も高く感心しました。ぜひ、こどもエコクラブの壁新聞を通じて、日本中のこどもエコクラブの子ども達やサポーターの方に、発信してください。

一つだけ気になったのは、こどもエコクラブの壁新聞なので、子ども達が考えまとめて記録、発信するコーナーをしっかりと作って頂ければ、更に輝くのではないかと思います。継続して行ったらどんな良いことがあったり、続けるためには何が大切なのかということなんかも、壁新聞を通じて全国のこどもエコクラブの仲間へ伝えてほしいと思います。

こどもエコクラブの活動も継続していくことが大事です。

とっておきのゴンドウ★

びっくりするくらい充実した良くまとまった壁新聞でした。少し感じたことは、年間、何回出されているのかにも関係すると思いますが、もう少しテーマを絞って、まとめたほうが、子ども達も読みやすく学べたり、調べたりしやすいのではと感じました。

全国のこどもエコクラブ壁新聞の模範例として継続して発信してください。



三重中学校・三重高等学校 科学技術部①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

さすがは科学技術部のメンバーによる発表です。現状の報告から、調査の目的、課題、手順、データ分析、推論と、一貫した調査が行われてとても見応えのある発表内容となっていますね。

特に関心したのは、調査対象となる「干潟」に対して、ちゃんと説明が加えられているところです。同じ中学生同士の発表の場合ならこうした説明枠は確保しなくても良いのかもかもしれませんが、「こどもエコクラブ」という全国のこどもたちも見ることがある場ですから、ちゃんと前提となるキーワードについては、説明があると読む人の理解度が全然変わってきます。こうした配慮ができるということは、とても素晴らしいことだと思います。

それから、ちゃんと地域性に留意して、他の地域の人たちも調査の場所がわかりやすく示されていることも素晴らしいですね。

また、調査の手順をわかりやすく紹介しているところ、蓄積したデータについて、どういう考え方で推測をたてたかということを順に紹介していることなど、全国のエコクラブのみんなに参考にしてもらいたいと思います。

全国のこどもたちが手本にできる素晴らしい壁新聞をつくってもらって、本当にありがとうございます！



とっておきのゴシドウ★
今回、干潟の調査内容の他にも、環境活動の様子も紹介していただいていますね。国内外にも活躍されて、小学校の指導にも当たるなど、みなさんの活動姿勢が、壁新聞にもしっかり伝わってきました。

環境活動といっても、自分たちだけで完結してしまうと、どうしても成長に限界があります。みなさんのように外部に情報発信や研究発表を行って、その反応から学ぶことができますと、こんなに素晴らしい発表ができるということを強く感じました。大人でもなかなかその一歩を踏み出すには勇気が必要です。

みなさんは、先輩の姿を受け継いでその一歩を進まれてきたのですね。とてもよい道を歩まれています。これからも先輩から学び、後輩に伝え世界に羽ばたいて頂ければと思います。

三重中学校・三重高等学校 科学技術部②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

「海岸を多面的に見る」なかなか意欲あるタイトルでとても惹かれました。

環境は様々な要因や関係性をもっているので、多面的にその価値や取り組みを行っていかねばいけません。持続的可能な社会と生物多様性に関わるととても大切なキーワードです。これをしっかり最初に伝えたことは素晴らしいと思います。

今回は「海の学校」でそれぞれの専門家による講座で学んだことの報告ですね。最初にしっかりテーマと目的、概要が記載されているので、とてもわかりやすいです。

写真を見ると、みなさん現地にいられるので、講座といっても体験学習に近いものだったようですね。こればとても贅沢な学びの機会でしたね。学んだことはどれも貴重なことですが、さらに体験を通じて肌で感じたことだと思います。

そしてとても感動したのですが、今回の壁新聞では、すべての漢字にルビがふられていました。きっと全国のこどもたちにもちゃんと読めるように工夫していただいたのですね。こうした配慮や工夫があるからこそ、ここに書かれている「とにかく海にふれあって！」というメッセージが生きてくるのだと思います。

相手を思いやることで、理解を誘うこともあります。「多くの人に知ってもらう」目的を達成するための大切な工夫ができていますね。



とっておきのゴシドウ★
今回の講座の報告は、ただ学んだことを伝えるだけでなく、「多くの人に知ってもらう」という目的のために工夫を行い、学んだことをわかりやすく伝えることができたと思います。これは、「学び、活用し、発信する」ということを日頃から考えられている成果だと思います。

「まとめ」でも海の大切さと多面的に見る重要性を述べていますね。ここで書かれている通り「海の環境はどうやって守れるのか」ということは、たくさんの人の協力と理解が必要です。

今回の講座では、素晴らしい先生や専門家がみなさんに伝えてくれた内容でしたが、そこで、みなさん自身の役割やできることも今回の壁新聞に合わせて紹介できたならよりつながりが広がったと思います。

今回登場してくださった先生や専門家も、それぞれ海の大切さを感じて精一杯活動し、その中で課題や問題点なども多くあることだと思います。みなさんは講座の中でバトンを託されたのだと思いますので、そのバトンをどう広げ伝えていくかも考えて頂ければと思います。

三重県松阪市 三重中学校・三重高等学校 科学技術部
壁新聞のタイトル: 三重中学校・高等学校 科学技術部の活動

三重中学校・三重高等学校 科学技術部③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

数々の受賞や豊富な経験をもつ科学技術部のみなさんが、さらに意欲的に「新しい活動」と掲げられたのでとても楽しみにして読ませていただきました。
これまでの活動でも幅広い調査・教育・発表が行われており、全体の把握を行いながら目標も定められていてとても素晴らしいと思います。
こうしたなかで、「伝統工芸」と「地域の祭り」に焦点をあてて、より多くの人達に向けて活動を行う方針を立てられたこと、さらに、学んだ歴史文化にスポットをあてつつ、科学技術部さんらしい調査を行うことで、見事地域の役割を果たした活動を歩まれたと思います。これらはだれにでもできることではありません。とても誇らしいです。
また、新しい活動において、個々の部員にも目を向けられました。意識を変えていくことにみなさんが注意することで、一人ひとり気づきがあったことは、とてもすばらしい成果だと思います。こうした成果について、環境活動だけではなく、他の学習や自身の研鑽にも役立てられるものだと思います。



とっておきのゴンドウ★

これまで行ってきた活動を整理し、その課題を抽出して、新しく学んだことも活かしながら新しい活動方針を立てたこと、本当に素晴らしいと思います。他のこどもエコクラブの皆さんだけでなく、大人の社会にも参考になる発表ではないでしょうか。広く発信されることを願っています。また、矢印の使い方も素晴らしいですね。「これまでの活動」の説明にも、「調査の比較」にも、「課題の抽出」にも、そして「意識を高めるための狙い」にも、矢印をつかったフローを定めて表現されています。読む側からしてもみなさんの伝えたいことがよく理解できる工夫だと思います。これから社会にでもずっと使えるテクニックでもあるので、どんどん活用していきましょう！
一方、部員の意識を高める方法については、実際になかなか矢印どおり行かなかったこともあったのではないのでしょうか。人は気持ちをもつものであり、すべての個に対して当てはまるやり方はありません。そうした場合でも、相手を受け入れることが大切です。
今回、とてもすばらしいと思ったのが、個々の意識を変える活動ではあるのですが、「聞き入れる側」の変革として、意見を聞く機会をつくっていたことです。よく能力の高低を個々の責務にも願ってしまいがちになることも多いのですが、決してそうではなく、個々の性質を大切に受け手側にも責務と変革のチャンスはあります。受け入れることにより、考えも共有されやすくなります。
そういう意味では、幅広い世代と個性豊かなこどもたちが集まるこどもエコクラブの活動発表を今後も活かして学んでもらえればと思います。

三重県鈴鹿市 鈴鹿イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル: ①2021 未来・希望新聞 ②2019 思い出新聞

21-24-05、06 全2枚

鈴鹿イオンチアーズクラブ「太陽」の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

2019年に実施した活動のことが書かれているのかな？だから思い出新聞。
太陽の恵みをテーマに、お茶のこと、そして太陽の観測について、学んだことが書かれていますね。お茶を育てて収穫したのでしょうか。伊勢茶っていうお茶ができるんですね。お茶の味に関係する成分(カテキンとか、タンニンとか)の表はわかりやすくていいですね。お湯の温度に気を付けてお茶を入れるのが大切なのですね。お茶を摘む体験もしたのかな。新茶の摘み方が図解してありましたね。私も日本茶が大好きで毎日飲んでます。
仁先生に教えてもらった、太陽の観測方法など太陽を使ったいろいろな試みのことも、楽しく新聞で伝えてくれています。ソーラークッカーなんて、面白いですね！実際にこれを使って食べ物を加熱して食べたのでしょうか。新聞の下に貼ってあった食べ物、何なのかちょっとわからなかったけど、おいしそうですね。



とっておきのゴンドウ★

太陽に、手のひらがたくさん出ていて、全体に明るい雰囲気が出て、素敵なデザインだと思います。お茶のことが書かれているところは、皆さんの活動の様子や、学んだことは何だったか、わかりやすかったですね。成分のワンポイントの一覧表もいいですね。太陽の観測方法のところは、初めて読む人にもわかるように、もう少し説明があるといいかな、と思いました。太陽観測メガネって、何をみるものなんでしょう？光が7つの色に分解した様子かな？
ソーラークッカーもとても興味深い話題。傘みたいなものを使って熱を集めたのでしょうか？
その仕組みがわかるといいと思いました。太陽高度計は太陽が昇った高さの角度を調べるのでしょうか？これを図で表すとわかりやすいかもしれないと思いました。
コロナでなかなか活動ができない中ですが、それぞれのお家で調べたり試したり、できる方法で活動を続けていること、頼もしく思います。いつか外で活動できる日を目指して続けてくださいな。

三重県鈴鹿市 鈴鹿イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:①2021 未来・希望新聞 ②2019 思い出新聞

鈴鹿イオンチアーズクラブ「令和」の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
2021 未来・希望新聞は、2019 思い出新聞とセットなのかな？2つの新聞をくっつけると太陽が1つの円になるのかな？と思いました。両方とも太陽のめぐみのことが書かれていますね。「2021 未来・希望新聞」では小麦を種から育てて、収穫して小麦粉にしてピザを食べたのかな？すごいですね！
自分たちが育てた小麦から作ったピザは美味しかったでしょうね。池を干して、藻の繁殖をおさえるようにした、っていうことも体験したのですね。「かいぼり」という方法かな？最近よくやっていますよね。何か生きものなどは見つかったかな？そして、伊勢神宮の見学もしたのかな。地元ですものね。私も小学校の時に修学旅行で伊勢神宮に行きましたよ！
太陽の所から手のひらがたくさん伸びていますね。「手のひらを太陽に〜♪」という歌からでしょうかね(笑)。みなさんが活動している様子がよくわかる写真が貼ってあって、楽しい紙面になりましたね。

とっておきのゴシドウ★
タイトルも大きな字で書かれていたので、どんな活動をやったのかはわかりやすく伝わりました。読んでいくと、もっと詳しく知りたいな、と思うことがいろいろと出てきました。小麦を種まきした時から、育っていく様子はどうだったんだろうとか、池干しをしたときは、みなさんも池に入ってどんな活動をやったんだろうとか、何か生きものはいたのかな、とか。
そして、伊勢神宮の見学をしたときは、昔の人の暮らしについて、どんなことを学んだのか、他の神社の鳥居と違う13個って何だろう？とか。それと、新聞の下に貼っていためくれる本の部分、中を開くとどんなことが書かれているのか、気になりました。そのようなことを、全部でなくても、1つ、2つちょっとつつこんで詳しく書くことで、読んでくれる人にもっともっと興味を持ってもらえるし、伝えることもたくさんあるんじゃないかな、と思いました。これからも楽しい新聞づくりに期待しています。



三重県明和町 明和イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:水と植物① 21-24-07(推薦)、21-24-08、21-24-09(全3枚)

明和イオンチアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
今年はみんなで集まって活動ができなかったから、お家でそれぞれで活動をしたのですね。お家でラディッシュの種をまいて育ててみた記録ですね。タネを蒔いたあとに、ラディッシュが育っていく様子が、写真とイラストでわかりやすく書かれていて、とても素敵な観察日記になりましたね。
一度枯れてしまってもうまいかなかったけれど、もう一度チャレンジして、最後は食べてみることもできてよかったですね。自分で育てたラディッシュはきっとおいしかったでしょう。
私も、今年はお庭でオクラを育てました。何度か食卓に並びましたが、売っているオクラよりも柔らかくておいしくなりました。自分で育てた野菜を食べるのは楽しいですね。

とっておきのゴシドウ★
実際に野菜を育ててみて、いろいろと気づきがあったようですね。農業は難しい、水や太陽は大切だということも気づくことができたことと書かれていました。とても貴重な経験ができましたね。このように、うまくいかなかったことを活かしてチャレンジすることは、とても大切なことだと思います。
2回目の時には、どんなことに気を付けて、工夫をしたのかな？水の量を変えてみたのかな？家族の人にどんなふうに助けてもらったのかな？そうしたことを少しくわしく書いておくと、他の人にとっても役に立つ情報になると思います。
今度はまたちがった植物を育てることにチャレンジしてみてください。



三重県明和町 明和イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:水と植物①

明和イオンチアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

お家にある果物や野菜を塩水に浮かべてみたんですね。海で泳ぐと、プールで泳ぐときよりも、自分の体が浮きやすくなっていることに気が付いたことあるかな？それと同じで、塩水に入ると、物が浮きやすくなるのですね。塩を溶かしてみて、浮かぶかな？どうか？と、ドキドキしながら水の中に浮かべてみるワクワクもちよっと感じました。6人のチームで、一人一人の実験の合作ですね。面白かったのは、人によって、実験の仕方が違っていったことです。浮かべる材料をいろいろと変えてみた人、塩の量をだんだん多くして比べてみた人、それに、浮かべる材料によって、塩を何杯入れると浮かぶかを比べてみた人もいました。イラストや写真、それに実験した人の顔写真もあって、楽しい紙面になりましたね。

とっておきのゴシドウ★

みんなで一緒に話し合ったりすることができなかったから、最後に感想を言い合ったり、どんなことが分かったかを意見を言い合ったりすることができなかったかもしれませんね。さっき書いたように、実験の方法はいろいろありました。どんなことを知りたいか、それを「実験の目的」と言いますが、それを紙面にもそれぞれで書いておくといいですね。また、実験が終わって、どんなことに気づいたかも、書かれていると面白いと思いました。全体での気づきを共有すること、なかなか難しいかもしれないけれど、次の時にはチャレンジしてみてください。



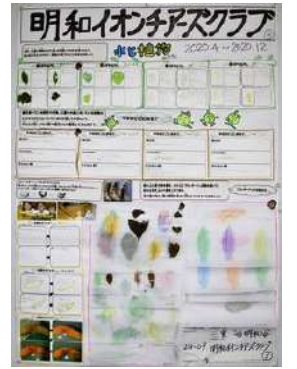
明和イオンチアーズクラブ③の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

植物を使って、いろいろな観察や実験をしましたね。身近な葉っぱを集めてよく見てみたり、植物のタネがどこについているかを探してみたり、落ち葉をフロッタージュで描いてみたり、バナナに字を書いてみたり。タネがどこについているか、普段あまり考えてこともなかったことかもしれませんね。身近なところに、追求すると面白そうなことがたくさん隠れていそうです。バナナはどうして絵や字が浮き出てくるのでしょうか？葉っぱの中にも、こんな風に字を書くとだんだん浮き出てくるものがありますよ。分厚い葉っぱの裏などに描いてみると、字が書けるものが見つかるかもしれません、いろいろ試してみてください。

とっておきのゴシドウ★

タネのついている場所とか、タネの付き方などは、写真とか、色鉛筆などで色を付けたイラストなどを使うと、わかりやすくなりますね。タネは、自分と同じ子孫を残すために植物にとって大切なものです。こうしたタネを、自然界ではどうやって運ばれるんだろう、って考えることはとてもいいテーマになりますね。また、葉っぱの形もいろいろあるんだな、と気づいた人もいます。葉っぱの形にも意味とか理由があります。植物が生きていくためには今ある形のほうがよかったんですね。そうしてこんな形なんだろう？って自由に想像して、予想したことを書いてみるのも、面白いテーマ研究になると思いますよ。



滋賀県大津市 しが kids エコクラブ

壁新聞のタイトル:和迹の自然をとりもどそう

21-25-02

しが kids エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

和迹川のヨシ刈リイベントの写真を見ると、ヨシ原が見わたす限り一面に広がっているようすが分かります。昔はもっとたくさんのヨシがあったのですね。冬→春→夏→秋の季節ごとにヨシの写真のをせてくれて、人もいっしょにうつっているの、ヨシの大きさとその成長の早さにおどろきます。2月に新芽がでて7月下旬まで伸び続けて、約半年で3m~5mになるのはすごい！この新聞を読むとヨシに興味がでてきます。ヨシの利用という”よしず”を思い出しますが、ヨシ紙があるのは知りませんでした。今度利用してみたいと思いました。

和迹川の水生生物調査は、毎年続けるのは大変なこともあります、環境の変化が分かるのでとても大切な活動だと思います。2013年と2020年を比べると、ヘビトンボはどちらにもいますが、見つかった生物が変化しているようにみえます。調査の結果をみて、和迹川はキレイな水が7年間変わってないと判断していますか？それとも少し汚れてきたのでしょうか？気づいたことがあればぜひ教えてください。

公園では2月、3月、6月と何回もごみひろいをしてくれたのですね。海でのマイクロプラスチックが問題になっていますが、ビニールぶくろなどのプラスチックごみが写真にもたくさんうつっています。毎回たくさんのごみがあるということは、ごみをすてる人が多いということで公園を利用する人の環境意識も変えていく必要があります。



とっておきのゴシドウ★

植物が成長するときとくに必要な3つの栄養は、チッ素、リン酸、カリウムで、チッ素は葉っぱや茎を大きくし、リン酸は花や実、カリウムは根っこを成長させます。成長が早いヨシはチッ素をたくさん利用していそうですね。一方で、水の中にチッ素やリンが多くなるのは人の生活が原因なので、みなさんの生活の中でできることを考えていくことも大切です。木の周りに花を植えてくれましたが、「木の根っこがじゃま」というのは花を植える目的とはちがいますが良い気づきだと思います。どれくらい大きな木でしょうか？木の立場で根っこを広げるスペースが少ないのかな？と考えてみると、木にも花にもよいアイデアが思いつくかもしれませんよ。

ぼてじゃこワンパク塾のみなさんへ

師範から一言！

びわ湖でのオオクチバスやブルーギルなどの外来魚の問題を、この新聞をとおしてたくさんの人に伝えることができたと思います。外来魚をへらす取り組みのおかげで、外来魚はかなりへってきているようです。外来生物がはいってしまうと、昔から生息していた大切な生き物がいなくなってしまう、さらに外来生物をへらすのに長い時間と多くの人手がかかってしまうことが分かります。ニゴロブナのフナずしを滋賀県以外の人にも食べてもらいたいという目標をもって活動しているのがいいですね。

キャンプ場での川遊びでは、楽しく遊びながらも「水がキレイ」なことに気付いて、川岸や川底がどのようになっているかを実際に感じとったことでしょう。新免田んぼ、和田打川ではたくさんの生きものを見つけましたね！見つけた生きものの種類をみると、とても自然ゆたかなところだということが分かり、観察会に参加したくなりました。川でくらす生きものとその環境を知ることができるよい活動だと思います。

手にもったサツマイモは手のひらがみえないほど大きくて、写真の下コメント「重い～」という声が聞こえてきそうです。サツマイモの花が咲いているのを見ることができて、ラッキーですね。花をみるとアサガオにそっくりなので、アサガオと同じ仲間というのが分かりやすいです。私も神奈川県で畑で見つけておどろいたことがあります、滋賀県や神奈川県でも見られるのは夏の猛暑が関係しているのかもしれませんが。

とっておきのゴシドウ★

イチモンジタナゴのはん殖実験は、生息数がへってきているイチモンジタナゴを守る大切な活動です。2枚貝に卵をうむので、タナゴだけでなく2枚貝も元気にくらすことができる環境も考えないといけないので大変だと思います。ちぎりが産まれたときは、きつとびあがるほど感動したことでしょう。観察きろくをしっかりとつけておけば、成功だけでなく失敗したときの体験も大切なデータになります。なぜ失敗したのかが分かれば成功につながります。ニゴロブナのように食生活に関わる魚に注目しがちになりますが、昔からびわ湖にいるイチモンジタナゴが生活できる環境を守ってあげてください。

サツマイモの畑で見つけたツチイナゴの絵をみると茶色になっているのでよく観察しているなあ、と思いました。ツチイナゴはバッタの仲間ではめずらしく成虫で冬ごしをするので10月だとちょうど成虫になったころです。8月や9月にツチイナゴの幼虫をさがしてみてください。緑色ですが顔がそっくりです。



スキニシー学校のみなさんへ

師範から一言！

たき火を雨の日でもおこせるようにするためにどのようにしたらよいか、他にも色々なアイデアがありましたか？

あずまやを作ろうって決めた子供たちと、それをかなえるためにサポートした方の行動力がすばらしいと思います。自分たちでコンクリートを作ったり、かなづちを使ってくぎを打ったりしたので、あずまやが完成したときはとても感動したことでしょう。子供たちの感想「どこをがんばったの？」に、「50cm ほるには、60cm ほらないと、砂が落ちてくる」というのがありました、記事を読みながらその様子を想像してしまいました。私も植物を土に植えるときですが、いつも同じようなことを考えながら作業をしています。とんかちで手を打ってしまった人もいますが、ケガは大丈夫でしょうか？手を打って痛かったという体験自体は、何事も失敗しながら覚えていくものなので、これからどんどん上手になっていくと思います。

あずまやの作業自体は6日間で完成した記録をみて、コンクリートが硬まるまで待ったりする時間は別にあるにしろ、もっと長い日数が必要だと考えていたのでびっくりしました。一度作業を経験するのが一番なのでしょうね。子供にとっても大人にとっても、色々な気づきがあったプロジェクトであることが新聞から伝わってきました。

とっておきのゴシドウ★

あずまやプロジェクトを通して気づいたことを、スキニシー学校のみなさんが普段の生活の中でも工夫をしていってください。たとえば、「これからの夢は？」の記事にも「使える物を再利用する」とありますが、家の中に再利用できるものがありそうですか？また写真を見ると、あずまやの周りは自然豊かなところのようですので生きものをテーマにした活動もできそうですね。ぜひ、あずまやに関わる活動をとおして、みんな楽しく学びを続けてください。



油日小こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

エコ委員会のイベントは1年間をとおして、観察、クイズ、ゲーム等工夫して企画してありますね。昼休みを利用した活動はみんなが参加しやすそうです。写真をつけてあるので活動の様子やどんな場所で活動したのかがよく分かりました。イベントの活動日も、いつどんなイベントができるか分かるので参考になります。写真のような自然豊かなエコパークが学校の中にあるのでしょうか？うらやましい環境です。新聞をみてエコパークに行きたくなりました。

クリの収かくだけでなく6月にクリの赤ちゃんを見つけるイベントがあるのはよい組み合わせです。クリの花は雄花ばかりが目立つので、雌花もじっくり観察できたのはよい経験です。学校でクリが800個もとれるなんて驚きました。エコパークにクヌギもあるようなので(葉っぱクイズにクヌギとあるから)クリとクヌギの葉っぱもぜひ比べてみてください。

トンボはビオトープがあるからたくさんいるのでしょうね。トンボはヤゴのときと成虫になったときで住む場所が変わるので、トンボを大切にすることとは池や川を守るだけでなく、そのまわりの草むらや森も大切にすることが必要だということが分かりやすい生きものだと思います。

秋の虫取りでは、自分でコオロギをつかまえて観察できるのでオスとメスの見分け方も分かりやすかったことでしょう。他にはどんなバッタが見つかりましたか？コオロギとバッタの体のつくりを比べてみるのもおもしろそうです。

エコ委員会以外の各委員会でもエコを意識した活動に取り組んでいるのはいいですね！それぞれの委員会でどのようなアクションができるのだろう、と考えてくれた活動内容はどれもすばらしいです。

とっておきのゴシンドウ★

「葉っぱクイズ」は葉っぱの特徴をよく観察する必要があるもので、木のことを知るにはいいですね。日本は島国であることや四季があることで世界的にみても、木の種類がとても多い国です。葉っぱを見分けるときは、葉っぱの形と葉っぱの縁(ギザギザ、なめらか等)にくわえて、葉っぱの枝への付き方も大切です。枝への付き方というのは、左右の葉っぱが同じところに付いているか、それとも互いちがいに付いているか等のことです。クイズのために枝をとってしまっはかわいそうということだと思うので、葉っぱの付き方が分かる写真かイラストをクイズにつけてみるのはどうでしょうか？！



西京極児童館自然探検隊 2004 のみなさんへ
師範から一言！

カラフルで記事がすっきり見やすい、すてきな壁新聞ですね。こちらは4年生の4人で作ったそうです。さすが4年生、文章がしっかりと書けていて、読みごたえがあります。また、記事の題名が大きくなっていて、メリハリがあることが見やすさにつながっていると思います。

えんぴつ作りの活動おもしろそうです！「この曲がった木のえんぴつ、どうなっているの？」って思っちゃいますよね。題名がえんぴつの形になっているのもすてきな工夫ですね。貼り絵の木も、よく見ると記事になっていて、じゅ木調査の結果がわかります。天神川のごみ調査は、ぺらっとめくるとグラフが出てきてびっくり！見れば見るほど色々な発見があって、とても楽しい壁新聞です！

とっておきのゴシンドウ★

上手に作られているので、あまりアドバイスというほどのことではありませんが、えんぴつ作りやしおり作りの活動を、何月ごろにしたのかが書いてあると、活動を振り返る時に良いかもしれません。

それから、天神川のごみ調査結果、とっても面白いですね。マスクがごみとして落ちているのを見たことがある人、多いと思います。この結果を周りの人にも伝えて、ごみが少なくなるような呼びかけができるとすてきですね。

せみの調査も面白いし、毎年しているというのがすごいですね。年によって結果が違うことを見ながら、「どうして増えたのかな、減ったのかな？」「アブラゼミやクマゼミが多くなったり少なくなったりするのはなぜかな？」なんてことを、みんなで考えてみるのも楽しいかもしれません。考えたことを壁新聞で紹介するのもいいですね。これからも楽しく活動をしてくださいね！



せいわエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

2020年の『せいわエコクラブ①』は、「やってみよう」をテーマにたくさんの活動を、写真やイラストをつけて、報告(ほうこく)してくれました。1つ1つ、楽しく読みました。

「エコバック作り」は、みなさんがカラフルなイラストを描いて「私だけのエコバック」を作ったのですね。「見て見て～！」と広げている写真を見ますと、みんなとてもよく描けています。中でも、スピノサウルスは骨(ほね)の部分まで細かく描いていてびっくりしました！その久保さんが書いてくれたように、レジぶくろはごみになったり、生き物がまちがって口にしたりすることもあり、へらしていかないといいません。

みなさんは、お買い物をするときは「レジぶくろはいりません！」と、このエコバックを使っているはずですよ。それを見た人たちが「とってもステキ！」「わたしもエコバックを使いたい」とみなさんの行動をきっかけに、どんどん広がるようになっていいですね。

「みそ作り」は、大豆をつぶし、しっかりまぜ合わせ、たたいて空気をぬく……とっても力が入る大変な作業です。手がひりひりしたり、かゆくなったりしながらも、「ムギユムギユ」「こね♪こね♪」して、みんなでがんばりました！また、去年作ったみそを使った、やさいたつぷりのとんじも、みそソースの白玉もとってもおいしそうですよ。

みんなでいっしょけんめい作業をして1年かけて作ったものですから、お家にもち帰ったみそも、家族の方に「こうやって作るんだよ」とお話ししながら、むだなく、おいしくいただきますね。



とっておきのゴシンドウ★

野津さんが書いてくれたように、みそは、むかしの人たちが知恵(ちえ)と工夫(くふう)で作出した保存食(ぼぞんしょく)。戦国(せんごく)じだいの兵士(へいし)はみそだまを持って戦(いくさ)に出たそうで、それぞれの地域(ちいき)の気候(きこう)や作る材料、水によっていろいろなみそがあります。みんながつくるみそと、どんなところがちがうでしょうか？それぞれの歴史や作り方をしらべてみるとおもしろいですよ。6月には「木工作り」で、かわいいもっこうざいくができました！赤い実、黒い実、いろいろな色やかたちのものを上手に組み合わせています。こんなにたくさん、どこで集(あつ)めたのかな。なまえをしらべたりして、くわしく教えてください。

せいわエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

2020年の『せいわエコクラブ②』は、「まなぼう」をテーマに、自分たちで学んだことをそれぞれイラストや写真、表などにまとめただけでなく、オンラインで行われたエコクラブの交流会で発表したのですね。自分で学び、考えることも大切ですが、それを他の人にどう伝えたらよいかを考えて工夫することは、とても重要です。みなさん、よくがんばって、おたがいに理解(りかい)合(あ)って共有(きょうゆう)できました！うれしい経験になりましたね。SDGs17の目標は、2030年までに世界中のすべての人々と実現していくべき取り組みですが、「私たちには遠い話」と思っている人も多いです。しかしみなさんが考えたように、「人がいない教室の電気を消す」「ごみをひろう」などの行動も、SDGsの問題解決につながっています。これからも、みなさんが自分たちで始められる行動として考えて伝えていくことで、ぜひ、学校や地域で、行動の輪を広げていってほしいと思います。

2020年は新型コロナウイルス感染の拡大で、世界で経済活動が停止しました。一方で、みなさんのソラダスの調査では、大阪の二酸化窒素の濃度が改善されたという、コロナでよいことがあったことがわかりました。小川さんが書いてくれたように、都会は便利で車の数も多いのですが、排出ガスの規制をしたり、エコな車に変えていったりなど、大気汚染を防ぐ対策も進めています。どんな働きかけで、環境がどう変わっていくのか？調べながら測定を続けて、結果を教えてください。



とっておきのゴシンドウ★

「葉っぱラッパーズ」の活動では、公園で落ち葉をひろって、色や形のちがいを観察した後に、葉っぱじゃんけんをしたのですね。私も、昔、イチョウのように2つに分かれている葉っぱや、カエデやカクレミノ、カシワのようにたくさん分かれている葉っぱを使って、本当のじゃんけんのような遊びをしたことがあります。葉っぱを使った楽しい遊びや発見はまだたくさんあると思います。お気に入りの葉っぱの木を見つけて季節でどう変わるのか？観察しても面白いです。考えてみてください。

オンラインの発表は、目の前に人がいるよりも緊張しないでお話しできた、と書いてくれました。オンラインでは、遠くにいる人々とたくさんつながることができます。そこでみなさんが学んだことを、楽しく伝えてみましょう。クイズ形式にしてみんなに考えてもらったり、前もって動画に撮っておいて、途中で見てもらうこともできますね。その体験や感じたことは、また新聞にまとめて教えてください。楽しみにしています。

大阪府大阪市 せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル:①2020 やってみよう ②2020 まなぼう ③2020 行ってみよう ④コロナと世界と私たち

せいわエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
みなさんへ
師範から一言！

2020 年の『せいわエコクラブ③』は、「行ってみよう」をテーマに、写真やイラストに活動の感想をくわえて、とてもわかりやすく活動をまとめてくれました。

まず、季節ごとに定期的に馬ヶ瀬の森の間ばつに行きました。間ばつは大人でも力が必要な作業で、ノコギリで何本も木を切ったり、竹のへらで皮をむいたり大変だったと思います。だんだんとコツをつかんで、上手になっていく様子がたのしかったです！

また山菜の天ぷらを食べたり、ウラジロの飛行機を飛ばしたり、キツネのお家を見つけたりと、森の恵みを体験(たいけん)できましたね。美しい「楊(よう)梅の滝」前での写真から、沢をのぼり切ったみなさんの充実(じゅうじつ)感が伝わってきました。

7 月には「磯かんさつ」に行きました。ヒトデやヒモムシ、タコやウミウシなどの生きものを見つけ、観察(かんさつ)できましたね。「ウミのほうせき アオウミウシ」はカラフルな頭のツノや背中にある花びらまで、しっかり描けていてびっくりしました！多様(たよう)な生き物のすみかである磯の環境をこれからも守っていかないとはいけませんね。

びわ湖や学校まわりのゴミ拾いもしました。茶わんやタイヤまで捨てられていたことがわかり、本当に残念です。ゴミは湖やまちを汚し、そこで生きる生き物たちにも大きな影響(えいきょう)を与えます。絶対にポイ捨てしてはだめですね。



とっておきのゴシドウ★

日本の約 7 割は森林で、世界の先進国(せんしんこく)34 カ国で日本はフィンランドに次ぐ世界 2 位の「森の大国」。そのうち約 4 割は、人が植林(しょくりん)したスギやヒノキの人工林です。人工林は「木の畑」ともいわれ、きちんと手入れをしないと増田さんが書いてくれたように、土砂災害(どしゃさいがい)を引き起こしたり、木の成長がおそくなり、二酸化炭素(にさんかたんそ)の吸収(きゅうしゅう)機能(きのう)も下がります。

こんなに木が多い国なのに、今、日本は海外の価格(かかく)が安い木材を輸入(ゆにゅう)して使うため、手入れをしない森が増えてしまいました。森を守るためには、間ばつをすることと同時に、その製品(せいひん)を買うことも重要です。間ばつした木を使った商品に付けられる間伐材(かんばつざい)マークを知っていますか？みなさんのまわりにもないか探してみてください。

○間伐材マーク事務局のホームページ <http://www.zenmori.org/kanbatsu/mark/products/>

(身近な間伐材商品は、紙や封筒や箸、カート缶のジュースなどがあると思います)

大阪府大阪市 せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル:①2020 やってみよう ②2020 まなぼう ③2020 行ってみよう ④コロナと世界と私たち

せいわエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
みなさんへ
師範から一言！

2020 年の『せいわエコクラブ④』は、1 年間の活動を「コロナと世界と私たち」というテーマで、まとめたのですね。宇宙を思わせる深い紺色の中、医療従事者(じゅうじしゃ)に感謝を示す青色に浮かび上がる地球と、みなさんが間伐活動をしている森のグリーンのコントラストがとても印象的で、目を引きました。

2020 年は、新型コロナウイルス感染の流行で世界の人の流れが止まりました。みなさんの学校も、5 月まで休校が続いたのですね。

そんな中、専門家の方と相談しながら、ソラダスで NO2 を測定したり、馬ヶ瀬の森で間伐をしたり、植物園で葉っぱラッパーズ探偵団を体験したり…。その充実した活動を大阪 ATC こどもエコクラブ交流会で発表したことをまとめてくれました。

それぞれの活動は、壁新聞『せいわエコクラブ②』『せいわエコクラブ③』でも報告されていましたが、この壁新聞では、気づきや学びが、より深く考察されています。例えばソラダスの計測で、12 月の青森県の NO2 数値が高いことに疑問を持ち、それを確かめることで、交通量の増減や季節による特性があることがわかりました。測定に参加することだけでなく、それぞれの数値の意味をしっかりと読み解くことで、NO2 について学ぶことができましたね。



とっておきのゴシドウ★

今回、藤岡さんは地球温暖化の原因となる樹木の二酸化炭素の吸収量を調べました。木によって違いがあることを知っておどろいたのですね。植物は光合成によって二酸化炭素を吸収、酸素を出す一方で、私たちのような呼吸もしています。もちろん、光合成で使われる二酸化炭素の量の方が多いのですが、年を経た木は次第に呼吸量が多くなり、吸収能力が低下していくといわれています。みなさんが参加している間伐は、森の成長を促して全体の二酸化炭素吸収量の増加にもなりますね。林野庁のホームページに詳しい説明がありますので、見てみてください。

○林野庁のホームページ

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/con_5.html

植物はほかにも、二酸化窒素や粒子状汚染物質などの大気汚染物質を吸収・吸着し大気を浄化する機能や、葉の裏から水蒸気を放出する「蒸散(じょうさん)作用」で夏に周囲の温度を下げる効果など、さまざまな働きがあります。いろいろ調べてまた教えてください。

大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー

壁新聞のタイトル:①ほしぐみえ〜こレンジャー新聞 ②つきぐみえ〜こレンジャー新聞 ③ゆきぐみえ〜こレンジャー新聞(おこめプロジェクト)
幼児 21-27-06〜08 全3枚

はしらもとほいくえん こども未来学舎 21-27-06

ほしぐみ え〜こレンジャー新聞

師範から一言

すばらしい「ほしぐみ レンジャーしんぶん」をつくってくれて、ありがとう!!! めだかのあかちゃん、あきのおさんぽ、たねまき、はたけやふようど、やさいのすたんぷのことなど、たくさんのおともだちといっしょになかよく、いろいろなことにちょうせんして、たのしいじかんだったことがよくわかるしんぶんですね。めだかのあかちゃんはなんびきうまれたか知りたくなりました。めだかをいけでそだてたらほかのいきものといっしょになるので、いけのなかのいろいろないきもののべんきょうがたくさんできるね。やさいがげんきよくすくすくとそだつために、つちにふかふかのふとんのようなふようどをまぜると、ふようどのみつつのたいせつなやくわりがわかります:ひとつめは、ふようどのつちのなかにすきまができて、くきがとおりやすくなります。ふたつめは、やさいのねっこがみずをすいあげやすくなります。みつつめは、やさいのねっこからえいようをもらいやすくてくれます。しぜんたつぷりのふようどでそだてたやさいはとてもえいようがあり、おいしかったとおもいます。みなさんのやさいさいばいは、とてもりっぱなエコ(えこ)かつどうにつながっておりますので、ごほうびに「はなまる」をさしあげたいとおもいます。

とっておきのゴシンドウ

このようなすばらしいエコかつどうをこれからもず〜っとつづけてくださいね。また、このようなりっぱなエコかつどうのたのしさをちいさいこどもたちにもおしえてあげてください。つぎは、どのようなきゆうにやさしいエコかつどうができるかをかんがえてくれるとうれしいです。つぎのかべ新聞をわくわくしてたのしみにまっておりますよ!!!



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー

壁新聞のタイトル:①ほしぐみえ〜こレンジャー新聞 ②つきぐみえ〜こレンジャー新聞 ③ゆきぐみえ〜こレンジャー新聞(おこめプロジェクト)

はしらもとほいくえん こども未来学舎 21-27-07 つきぐみ え〜こ・レンジャー新聞

師範から一言

とてもめずらしいかぶとむしのレンジャー新聞をつくってくれて、ありがとう!!! かぶとむしのようちゅうをりっぱにそだてて、そのうんちのこともくわしくしらべてくれましたね。このかべ新聞をよんでくれたおともだちに、とてもわかりやすいせつめいだとおもいます。いままでみたことのないとてもすばらしいかべ新聞です。たまごから7ひきのようちゅうがうまれたことは、きっとたまごをそだてていたつがえいようまんてんで、みずもたつぷりとあったことと、いちばんたいせつなことはみなさんのたまごにたいするやさしいきもちがいっぱいあったからだとおもいます!!! また、うんちについて、さわったり、においをかいでくれたりしてしらべてくれて、きづいてくれたことをとてもわかりやすくはっぴょうしてくれたことにひじょうにおどろきました!!! このすばらしいかべ新聞に「はなまる」をさしあげたいとおもいます。

とっておきのゴシンドウ

このようなすばらしいかべ新聞をこれからもつづけてつくってくださいね。ようちゅうのうんちがどのようなじょうざいになるかのほうこくと、このようちゅうたちがどのようにせいちゅうになったかをしりたいとおもいますので、つぎのかべ新聞でわくわくしてまっておりますよ!!!



はしらもとほいくえん こども未来学舎 21-27-08 ゆきぐみ え〜こ・レンジャー新聞(おこめプロジェクト)

師範から一言

すばらしい「おこめプロジェクト・ゆきぐみ レンジャー新聞」をつくってくれて、ありがとう。おともだちのみなさんといっしょになかよく1ねんかんのおこめづくりをちょうせんしてくれて、このりっぱなかつどうをかべ新聞にくわしくかいてくれたことにかんどうしました! しょうがつこうでは5ねんせいがおこめづくりのべんきょうをします。5ねんせいとおなじくらのかつどうです! このかつどうでおこめがどのようにしてできたかのとてもたいせつなことをしりたいとおもいます。みなさんがおこめをたべるときに、のうかのひとたちがどのようにしておこめをつくり、どのようなところがむずかしかったか、いろいろなたいへんさがよくわかったとおもいます。また、たんぼのなかにはいろいろないきもののしぜんのなかがいて、それらがたんぼのなかでおこめのなえといっしょに生きていて、おたがいになかよくつながっていることがわかったとおもいます。さらに、むかしむかしからわでつくった「しめなわ」づくりもちょうせんしてくれて、とてもおどろきました! このすばらしい「おこめプロジェクト」におおきな「はくしゅ」と「はなまる」をおくりたいとおもいます。

とっておきのゴシンドウ

みなさんは「はしらもとほいくえん」をそつぎょうするといろいろなしょうがつこうにいきますが、5ねんせいになったらまたこめづくりのべんきょうをしますとおもいますので、「はしらもとほいくえん」でおこめづくりをしたことをおもいだしながら、ほかの5ねんせいのおともだちにたくさんおしえてあげてくださいね。



師範から一言

1ねんかんに、さいえんかつどう、せみのぬけがらあつめ、せいそうかつどう、リーすづくりなど、ちきゅうにやさしいエコ(えこ)かつどうにちょうせんしてくれて、ほんとうにおどろきました。いろいろなやさしいづくりで、どれがいちばんむずかしかったかな。あまみずをためたやさいのみずやりで、たくさんのりっぱなやさいがとれたようだけど、みなさんのきもちがいっぱいはいったやさいはとてもおいしかったとおもいます。736ひきのせみのぬけがらのひりょうでげんきなちゅうりっぷのはなは、どのようないろがなんしゅるいあったかをしりたくなりました。こうえんでのたくさんのくさとのりょうじはおつかれさまでした。こうえんがとてもきれいになり、ここにあそびにくるひとたちがとてもよろこんで、かんしゃしているとおもいますよ。りっぱなおいものくきのリースをいろいろとつかって、とてもたのしいぱーていができたようですね。1ねんかんのエコかつどうをいっしょうけんめいにかんばってくれましたので、ごほうびに「はなまる」をさしあげたいとおもいます。

とっておきのゴシンドウ

このようなすばらしいエコかつどうをこれからもずっとつづけてくださいね。このようなりっぱなエコかつどうのたのしさをちいさいこどもたちにもおしえてあげてください。みなさんのかべしんぶんをよんでくれたたくさんのおともだちは、ちきゅうにやさしいエコかつどうのたいせつさがよくわかるとおもいます！！



しのっちょ・バレーヌのみなさんへ

師範から一言！

しのっちょ・バレーヌのみなさん、こんにちは。思い出しました、「アベノマスク」ありましたねえ。少しなつかしいなあ。でも、『藍のマスク』って、何だろう。思わず、読んでみたくなりました。いいですねえ。全員が登場しているなんて、とてもいい壁新聞です。おうちの人やお友達はみなさんがどこにいるだろうと、探してくれたのかな。

はっぱを石でたたくのがたいへんだったようだね。感想もたくさん書いてあって、みなさんの気持ちが伝わってくるのもいいですねえ。いいことばかりです。『世界でひとつだけ』、自分のオリジナルマスクができました。いつも大切に使っているものがあるって、幸せだね。うらやましいなあ。緑色だった葉っぱの模様がだんだん藍色に変わっていきました。いちばんおもしろいところをよく観察していたね。おみごとです。藍染の面白さは何といってもこの色の変化ですよ。ふしぎがいっぱいだね。

とっておきのゴシンドウ★

生活で使うものや食べるものを時間をかけて作るなんて、いいなあ。変わっていく姿をじっと観(み)つづけることができるなんて、とても、うらやましいなあ。お店にならんでいる品物のようにできあがり(結果)だけを見ていると、つくる時の苦労や工夫が見えないよね。どこか、野菜を育てるときと似ているのかな。お店で並んでいる野菜だけを見ても、途中の苦労が分からないよね。みなさんには結果だけをみるのではなく、途中の工夫や苦労を大切に思う人になってほしいなあ。なので、こうしたらいいよ、というアドバイスはあまりありません。みなさんの気持ちがこもっている、とてもいい新聞です。



神楽こども園 りんごキッズのみなさんへ
師範から一言！

「エコしんぶん」のひとりひとりのみなさんのきりえのかおが、とてもすてきな
かおばかりで、とてもだいすきになりました！！たくさんのしゃしんから
ごみひろい、エコキャップあつめ、うめぼしづくり、みそづくり、うめジュース・
ジャム、こめづくり、おこめのとぎじる、どんぐりあつめのいろいろなすばらし
いエコかつどうにひとりひとりがはじめてちょうせんして、たいへんだったとお
もいます。

それぞれのかつどうのいろいろなうれしいかんそうをかいてくれていたので、
たのしくがんばったところがよ〜くわかりました。そして、みなさんがすんでい
るちきゅうにやさしいさまざまなエコかつどうが、すぐちかくでもできることが
わかったとおもいます。おつかれさまでした！！

「りんごキッズ」をそつぎょうして、しょうがっこうにいても、おとなになっても
このようなエコかつどうをず〜っとつづけてほしいとおもいます。みなさんの
ちきゅうにやさしいエコかつどうのごほうびに「はなまる」をさしあげたいとお
もいます。

とっておきのゴシドウ★

このようなすばらしい、たいせつなエコかつどうをおしえてくださった「りんご
キッズ」のせんせいたちにおれいをいってくださいね。ほかのようちえんやほ
いくえん、もしかしたらしょうがっこうでもこのようなちきゅうにやさしいかつ
どうはできないかもしれません。また、しょうがっこうのあたらしいたくさんのお
ともだちにもこの「りんごキッズ」でまなんだいろいろなエコかつどうをぜひお
してあげてくださいね。



玉一アクアリウムのみなさんへ

師範から一言！

外来種の駆除と在来種の保護をする活動を継続しているのがすばらしいですね。
生きものの種類をちゃんと分類できないと簡単にはできないことなので、みんなで
一緒に学びながら続けていることがいることが壁新聞からも伝わってきます。
壁新聞では、位置関係をしっかり地図に示して、①から⑦まで写真も貼って紹介し
ているのはわかりやすくていいと思います。

「私たちは明石川と共に生きる」というテーマも、みんなのがんばりや思いが伝わっ
てきます。先輩たちから引き継いだ活動を後輩たちや地域の皆さんにも発信して
明石川をもっともっとすばらしい川にしてください。

でも明石川を保全するためには、玉一アクアリウムの仲間だけでは難しいこともあ
るでしょう。流域には、何万人という人々が働いたり暮らしていますから、地域の皆
さんや流域の学校園の皆さん、行政や様々な方の理解や協力が必要だと思いま
す。皆さんの熱い思いや熱心な活動が、きっと明石川を素晴らしい川に育ててくれ
ると期待しています。

これからも、どんどんコロナに負けずに、工夫しながら活動して、壁新聞で発信して
ください。楽しみにしています。

とっておきのゴシドウ★

壁新聞の構成も面白いと思います。枠組みで、様々な世代の人たちが興味を盛っ
たり参考になることがわかりやすく紹介されています。食べたり、肥料にしたり、異
変を紹介したり、遺伝子型研究のことをお知らせしたり、本当に情報満載の壁新聞
です。コロナに負けず、工夫しながら継続して、全国のこどもエコクラブの仲間に、
活動の進め方の見本の一つになっていると思います。これからも期待しています。



なんでだろう塾のみなさんへ

師範から一言!

「世界中の子供たちに幸せになってほしい」、みなさんのやさしい気持ちがよくわかります。タイトルにある「ぼくたち、わたしたちができること!!」もいいですね。まず、自分たちにできることを見つけて、行動していることがよく分かります。いいことばかりの壁新聞です。

資源をリサイクルすると困っている人が助かり、地球が救われると考えたのだね。とても、すばらしいなあ。住んでいるまちはきれいになって、困っている人が助けられます。とてもいいアイデアです。どうもありがとう。みなさんの活動は、廃品回収と清掃活動のふたつが中心です。とても大切なことに気が付いているよ。ひとつは捨てる前に資源になるものは回収して、ごみになるものを少なくしようという考えだね。もうひとつは、捨てられてしまったゴミは、生き物が困らないように回収しようということだね。ゴミは拾う人がいないと、水と一緒に海まで流れて海にすむ生き物が困ります。人に頼むのではなく、自分たちにできることを見つけて活動しています。考えていることもやっていることも、『まんてん』です。

とっておきのゴシンドウ★

活動した後で、「ああ、つかれた」、「よく、がんばった」もいいけれど、結果をきっちりとまとめ、データとして整理しているのがすごい!この次につながっていく『いい、お仕事』ですね。たいへん、よくできました。結果を数字でまとめておく去年と比べたり、未来を予想することもできるね。数字を比べながら活動を思い出すと、きっと分かってくることや新しい発見があると思うよ。そして、「世界中の子供たちに幸せになってほしい」の願いに近づくともっといいね。



たけのこさいえんすのみなさんへ

師範から一言!

写真がたくさんあって、地球にやさしいエコ活動を楽しんでいるようすがよく分かる明るい壁新聞です。コロナに負けていませんね。みなさんの元気を感じます。とてもいいですね。

ランプシェードづくり、紙すき体験、防虫モビールづくり、草木染めと、たくさんのプログラムです。楽しくなってくることばかりだね。コロナで活動が制限される中、たくさんのサポーターさんに見まもられて、熱心に活動していることがよく分かります。うらやましいなあ。みなさんも、サポーターさんも、よくがんばりました。エコ活動には工夫がいっぱいあるのだね。つくるだけでなく、たくさんの方を考えています。「地球のために自分たちができることを考える会」や「おうちでレポートコンテスト」、いいことばかりです。お店で売られている商品はプラスチックごみになることが多い。商品の過剰な包装は必要ないことだと思う。どうしたらいいだろうね。SDGsをヒントにして、みんなで行動してみよう。



とっておきのゴシンドウ★

『SDGsを意識したエコ活動』、いいですね。これからは、学校の授業やおうちのテレビにも登場してくる『SDGs』です。世界の共通語のようになってきていますよ。みなさんは、時代の最先端にいますね。でも、難しくはないよ。いつものエコ活動がSDGsだよ。「Gs」は、ゴール(ズ)のことです。ゴールって何だろう、みなさんは考えたことはありますか。ゴールことを『目標』と言っているけれど、みなさんはどんなゴールが思い浮かぶのかな。サッカーのゴールかな。運動会のゴールかな。さあ、ゴールの方向に向かってみんなで走り出しましょう。

グリーンキッズのみなさんへ

師範から一言！

「ひょうご県民ボランティア活動賞」おめでとうございます！！このすばらしいしょにおおきな「はくしゅ」と「はなまる」をおくりたいとおもいます。

ダンゴムシひろばでいろいろなエコかつどうをしているようですね。どのようなかつどうがいちばんすきですか。

とりのすばこではどのようなとりをはっけんしましたか。これからふゆになると、にほんでふゆをすごすとりがいこくからくるとおもいますので、しっかりとかんさつしてください。

ダンゴムシひろばでのおちばのそうじはきれいになりましたか。きつとらいねんのはるには、つちのなかのたねがたいようのひかりをたくさんもらっていろいろなはながさくかもしれませんね。またおちばのしたにいるダンゴムシはおちばをよくたべます。ダンゴムシは6ほんのあしをもつこんちゅうでなく、あしがいっぱいあり、かにやえびのなかまで、さむいふゆがきらいで、あたたかいおちばのしたやつちのなかではるがくるまですごします。

とっておきのゴシドウ★

このようなすばらしいエコかつどうをこれからもず～っとつづけてくださいね。

またおちばのしたにもたくさんのいきのものはっけんがあり、とくにダンゴムシについてもしらべてみるといろいろなふしぎがあるとおもいます。つぎのかべしんぶんをたのしみにまっておりますよ！！



福住こどもエコクラブ1の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

福住こどもエコクラブのみなさん、こんにちは。

『SDGsの大切さ』のスローガンは、とてもいいですね。たくさんの方が『SDGsの大切さ』に気がついてくれて、身のまわりで見つけてくれるといいね。みなさんの気持ちが壁新聞を読む人に伝わっているよ。

ひとりが、「ビオトープをつくろう」とささやきました。その気持ちを大切に、みんなでビオトープづくりをしているのはいいなあ。なかまの気持ちを大切に、みんなが協力しているのだねえ。いいことばかりです。薪ストーブはおしゃれですねえ。とれたての新鮮な野菜を食べられるのもうらやましいなあ。毎日の生活の中でSDGsを楽しんでいるのがよく分かります。SDGsで、地球のためにできることをみつめて、みんなで楽しんでほしいなあ。新しい発見が、たくさん見つかるといいね。

とっておきのゴシドウ★

みなさんは、2030年はいくつになっているのかな。成人式はすませているのだろうか。SDGsは2030年には「世界をこのようにしたいなあ、こうなっているといいなあ」という目標でもあるよね。みなさんの2030年目標はどんな世界をめざしているのかな。どんな世界になるといいなあと思っているのだろうか。なかままで、話し合ってみてほしいなあ。SDGsは地球との「なかなかおり」、生き物との「なかなかおり」、世界中の人との「なかなかおり」だね。みなさんはなにと「なかなかおり」するのかな、話し合ってみるのも楽しみだね。



福住こどもエコクラブ2の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言！

福住こどもエコクラブのみなさん、こんにちは。「みんなで自然環境を守ろう」をスローガンとして活動してくれて、どうもありがとう。みなさんが、ビオトープ作りやドジョウとりに頑張っていることがよく分かります。

SDGsの話を聞いたり調べて、地球の未来はどうなるだろうと思ったのだね。本当だね。でも、「身の回りのできることから始めている」ことは、とてもいいですねえ。みなさんは大切なことに気が付いているよ。ビオトープでたくさんの生き物がすむところをつくったり、エコバックを使って、ごみになるものを少なくしようとしているよね。身のまわりで、できることを見つけてきて活動しています。いいことばかりです。これからも、みなさんが「干し柿作り」や「ドジョウとり」を楽しめる福住にしていってほしいなあ。SDGsはみんなが「なかなかおり」する活動だよ。地球やたくさんの生き物と『なかなかおり』できるといいね。



とっておきのゴシドウ★

みんなで心をひとつにして「ビオトープづくり」するなんて、とてもいいですねえ。住んでいるところの自然を大切に思うみんなの気持ちがよく伝わってきます。ビオトープには、ビオトープをずっと続けるための『約束(ルール)』と、ビオトープを大切に思い続ける『なかま』が必要です。みなさんは、学校を卒業してからずっと「ビオトープなかま」だね。これからも、なかまがどんどん増えていくととってもいいね。楽しみにしているよ。2030年、2050年にも持続可能なビオトープを目指してください。

奈良県天理市 福住こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル: ~SDGsの大切さ~

福住こどもエコクラブ3の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！
福住こどもエコクラブのみなさん、こんにちは。
『広げようSDGsの輪』、いいタイトルだね。たくさんの人といっしょになって、世界を変えようということだね。地球温暖化防止やビオトープ再生の輪が広がっていくことは楽しみだなあ。みなさんの気持ちがよくあらわれていて、とてもいい壁新聞だね。
『地球温暖化』を止めるために、最初に「ぼくができること」からはじめていることはすばらしいなあ。身近な人への呼びかけののいいね。すごいなあ。給食の牛乳を紙パックではなく、何回も使える牛乳びんに使用しようという提案はいいことに気が付いています。気が付いたことを教育委員会に提案しています。いいことばかりです。返事はどうだったのかな。どうしてびんにならないのはどうしてだろうね。どうしたらいいだろうね。みんなで話し合ってみよう。なぜかなと疑問を持つことがスタートだよ。
ビオトープの設計図はとてもよく考えているよ。湿地の生き物のことも考えています。「たくさんの生き物が住んでみたいなあ」と思うところが、よいビオトープだね。生き物になった気持ちが大切だね。たくさんの生き物がくらすことができるビオトープを目指しているのだね。すばらしいなあ。

とっておきのゴシンドウ★
運動場のはしっこにある穴のことによく気がつきましたね。見つけましたね。長い間、そのままになっていたのは、なぜだろうね。せっかくのビオトープはどうして、やめてしまったのだろうね。原因を調べてみよう。まず、知っている人を探して、その原因を知ろう。どうしたら原因を取り除けるだろうね、そのことを設計やきまりにもいかしてください。



鳥取県米子市 イオン チアーズクラブ 日吉津
壁新聞のタイトル: 太陽新聞～太陽ってなんだろう～

21-31-01

日吉津イオンチアーズクラブのみなさんへ
師範から一言！
新型コロナウイルスの影響で、思うように活動ができなかった1年で大変だったと思います。
みんなで野外や色々な場所に行って活動したかったですね。そういったことができなくて残念だったと思いますが、何ができるかを考えて活動できたのは、とてもよい経験だったと思います。太陽についてのレポートは、とても詳しく調べられていますね。難しい内容も詳しく調べられていると思います。太陽や星など、宇宙のことについて、研究者の人たちはどうやって調べるのだろう、と思ったことはありませんか？私はとても遠い場所にある太陽に行ったことがある人は誰もいないのに、色々なことがわかるのが不思議に思います。みなさんはどうですか？
太陽のエネルギーでありがたいことの1つに、衣類の乾燥とあり、とても共感できます。衣類だけでなく、よく干した布団は気持ちが良いですね。身近なところで太陽のエネルギーが活躍していることが実感できたと思います。

とっておきのゴシンドウ★
太陽の動きを観察してみた時の気づきで、6月の方が日は長いのに、気温は8月の方が高いのはなぜか、と書かれています。確かに、不思議ですね。一日の中でも、一番太陽が高い時間と気温が高い時間は違うので、何か関係があるのでしょうか。ぜひ調べてみて下さい。

太陽のエネルギーを上手に使うには、具体的にはどんなアイデアがありますか？家や学校で自分が取り組もうと思ったことを、ぜひ具体的に書いてみましょう。実際に取り組んでみて、良かったこと、もっと工夫できることも考えて、クラブ内で共有できるといいですね。まだまだみなさんで集まって活動することが難しい期間が続きますが、できる範囲で活動を続けていきましょう。



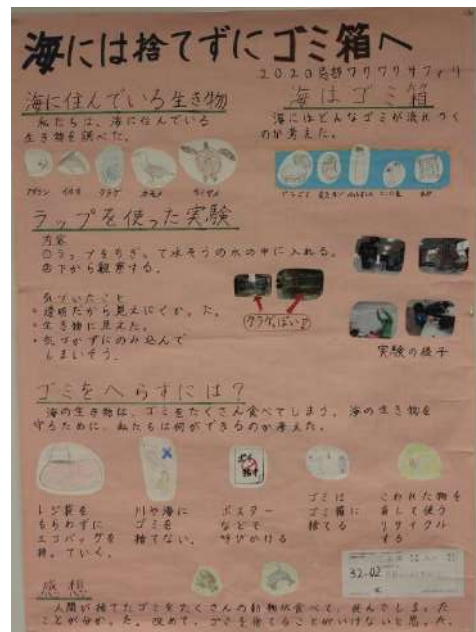
忌部わくわくサファリのみなさんへ
師範から一言！

最近話題になることも多い海ごみの問題について考えてみた壁新聞ですね。海に漂っているごみは、海に捨てられたものだけでなく、川を流れてきたごみもあります。ふと落として風に飛ばされてしまったプラスチック製の袋なども、最終的には海に流れついてしまうことがあります。みなさんも実施しているゴミ拾いの活動も、海ごみを減らすには大切なことです。ラップを使った実験は、水中の生き物の気持ちを考えたユニークな実験だと思いました。透明で見えにくいと、絡まってしまう可能性もあります。クラゲのように見えて、食べてしまう生き物もいるかもしれません。人間の活動が、他の生き物にどんな影響を与えるかを想像してみると、地球は人間だけが生きているのではないことも実感できたのではないのでしょうか。

とっておきのゴシドウ★

この壁新聞は海ごみのことについて、テーマをしぼって作成しているのかもしれませんが、応募用紙を読みますと、普段から色々な活動をしているようなので、そういった内容も読みたかったなと思います。活動を全部壁新聞に書くと、ごちゃごちゃしてしまう場合は、どれか一つ(例えば今回なら海ごみ)を大きく取り上げて、他の活動は小コーナーで書くと良いと思います。他のクラブさんでそういった構成が上手い壁新聞もありますので、ぜひ参考にしてください。また、クラブの自己紹介もあると、読む人が「どんな子どもたちが書いているのかな」とイメージができますので、読みやすくなります。

「ゴミをへらすには？」でみなさんが考えたアイデアを、実際に取り組んでみて感じたことはどんなことでしょうか。難しかったこと、改善した方がよいこと、などを考えてみると、次の活動につながりますし、読む人にみなさんの想いが伝われば、たくさんの方が取り組みに参加してくれると思います。活動して感じたことを、たくさんの人にもっと伝えられるようになることを期待しています。



上津探検隊のみなさんへ
師範から一言！

2020年の『上津探検隊』は、今年もビオトープ「カエルランド」での活動を中心に、「ケロケロカエル調査新聞」として、まとめてくれました。

はじめに、「ケロケロカエル調査新聞」の発行(はっこう)は回を重ねて14回目！とくに2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、活動がむずかしい時期もありましたが、サポーターさんと工夫しながら活動を継続(けいぞく)されました。

「通信」では、天気図を学び、新しい気づきがありました。

密(みつ)をさけるために団子作りからマイはし作りに変更(へんこう)した「卒業記念」では、集中してナタを使う作業から世界で1つだけの『マイはし』を完成しました。コロナでも活動を止めず、新しいチャレンジをし続けることで、この2020年も充実(じゅうじつ)した活動でっぱいの壁新聞になりましたね。すばらしいです！！



とっておきのゴシドウ★

カエルの産卵日の観察グラフは、2007年から続いて、その変化はカエルの生態(せいいたい)の重要な記録となっています。またホタルの数が、いつもの年より少なくて心配したのですね。その原因は、「雨が少なかったからかもしれない」と考えました。そして「来年にむけて」では、エサになるニナのことを学んでふやしたいと思っているのですね。

ゲンジボタルの幼虫のエサとなるカワニナも、ホタルと同じようにきれいな川にしか育たない巻貝で、生息(せいそく)環境を保(たも)つことがむずかしくなっています。ホタルの保護(ほご)をしている多くの団体が、カワニナを育てる取りくみをしています。雑食(ざっしょく)のカワニナは「野菜？くだもの？どんなものが好きなのか」「川のどんなところに住むのか」「一度にどのくらい仔貝を産むのか」など、カワニナの目線(めせん)で観察し考えてみると、カエルやホタルの立場とはちがった『カエルランド』が見えてくるかもしれません。ホタルと同じく「川の環境のパロメーター(＝じょうたいのきじゅん)」となっているカワニナについても、ぜひ、しらべて教えてください。

※出雲市の上津探検隊さんの活動をまとめた本が出ました！
『それゆけ上津探検隊 ビオトープ カエルランドの巻』(今井出版)
<https://www.j-ecoclub.jp/topics/info/202010051820.html>

イオン倉敷チアーズクラブ マスカット隊のみなさんへ

師範から一言！

コロナ禍で集まってる活動ができない中、「おうちでチアーズ」と題して活動をつづけたことが、すばらしいことだと思います。学年別に絵本と顕微鏡(けんびきょう)を送ったところも、みんなが研究しやすくなるよいアイデアです。SDGs はアルファベットがならんでいてむずかしい言葉(ことば)ですが、みなさんの日々の行動が SDGs の目標達成(もくひょうたっせい)につながります。

干しガキをつくって太陽パワーを味覚(みかく)で感じるというのは、楽しくて、しかも分かりやすいですね。小さくシワシワになったのは、カキの中の水分(すいぶん)が少なくなっただけです。とてもあまくなるのは不思議(ふしぎ)ですね。カキもシイタケも太陽の光をあてて干すことによって、中にある成分が変化(へんか)するからで、あまくなったり栄養(えいよう)いっぱいになったりします。

みかんの皮はいろいろなことに利用(りよう)できます。みかんを食べたら皮をすてないでかんそうさせておいて、料理(りょうり)に使(つか)ったり、おフロ(お風呂)にいれたり、油(あぶら)よごれのそうじに使(つか)ったりすることができるので、いろいろとためしてみるのも楽しいですね。

とっておきのゴシドウ★

太陽の向きによって、どのようにかがが変わるのか、おもしろいことを調べてくれました。外(そと)をあるいているとあたりまえのようなことでも“なぜ”と考えてみるのはいいことです。太陽(たいよう)とはんたいがわにかがができていることから、太陽(たいよう)のひかりはまっすぐにすすむということがわかりますね。ところで、かげの長さはどのように変わりましたか？ こんど調べてみてください。

花粉(かふん)はとても小さいですが、顕微鏡(けんめいきょう)でみると、とてもふくざつな形(かたち)をしていてびっくりますね。花粉(かふん)は風(かぜ)によってはこぼれるものや、虫(むし)によってはこぼれるものなどいろいろあります。キウの花(はな)の花粉(かふん)は虫(むし)によってはこぼれるので、虫(むし)にくっつきやすい形(かたち)になっているでしょう。風(かぜ)によってはこぼれる花粉(かふん)はどんな形(かたち)をしていると思いますか？ 他の花(はな)の花粉(かふん)もぜひしらべてみてください。



岡山県津山市 わくわくエコクラブ

壁新聞のタイトル:食べることの出来る植物編

21-33-02

わくわくエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

タンポポはみちかな植物(しょくぶつ)ですが、観察(くわんさつ)してみるといろいろな発見(はっけん)があったと思います。ニホンタンポポとセイヨウタンポポの見分け方は、写真(しやうしん)を使って説明(せつめい)してくれて分かりやすいです。ニホンタンポポとセイヨウタンポポはどちら(どちら)がどれくらい多いか数を調べてみましたか？

イネ、ヤマノイモ、サツマイモと色々な栽培(さいばい)にチャレンジ(チャレンジ)してくれました。植(う)えた時期(じき)と収穫(とくかく)の時期(じき)が書いてありますが、その途中(ちゅうちゅう)どんなことをして、どんな大変(たいへん)なことがあったのかを知(し)りたくになりました。

最近(さいきん)では七草(しちそう)がゆの時期(じき)になると、スーパーで春(はる)の七草(しちそう)をセットにしたものを見(み)かけられるようになりましたが、土手(どて)や田んぼ(いりぼ)を歩いて探(たず)ねるのは、見(み)つけたときのうれしさもあり食(た)べるときの楽しみ(たのしみ)が何倍(なんばい)にもなります。みんなとわいわい食(た)べられるようになりますね。

早春(そうしゅん)の山菜(さんさい)採り(たいり)ではたくさんの山菜(さんさい)を見つけましたね！ 若葉(わかし)が芽(め)ぶく時期(じき)が山菜(さんさい)はとてもおいしいので、私も4月(しがつ)に山菜(さんさい)を採(た)って食(た)べるのを楽しみ(たのしみ)にしています(今はコロナ禍(こう)で行(い)けていませんが)。おひたし(おひたし)がおいしい山菜(さんさい)もありますし、たしかに天ぷら(てんぷら)にするとおいしく食(た)べられるものが多いですね。タンポポ(たんぽぽ)の葉(は)っぱも食(た)べてみたことがあります。サラダ(サラダ)として生(なま)で食(た)べたときは苦(く)く感じ(かんじ)ましたが、やはりてんぷら(てんぷら)にしたら苦(く)みがなくなりおいしかったです。



とっておきのゴシドウ★

シイタケ(しいたけ)の紹介(かい)は、写真(しやうしん)といっしょに日付(ひふ)をかいてくれたので、あっという間(かん)に成長(せいちょう)するようすがとてもよく分かりました。シイタケ(しいたけ)を干(ひ)すとかなりちぢんで(ぢぢ)いますね。ホダ木(ほだき)からたくさん水分(すいぶん)をすったのでしょう。シイタケ(しいたけ)の目(め)に見える部分(ぶぶん)は子孫(しそん)をふやすための胞子(ほうし)をとばすためのもので、本体(ほんたい)のほとんどがホダ木(ほだき)の中にいます。きかいがあれば、シイタケ(しいたけ)を干(ひ)す前に黒(くろ)い紙(かみ)の上(うへ)などにしばらくおきっぱなし(おきっぱなし)にしてみてください。

キノコ栽培(さいばい)に使う原木(らんぎ)採り(たいり)からおこなったのはとてもよい経験(けいけん)をしたと思います。”重(おも)かった”と感じ(かんじ)たのは、大きさ(おほさき)もありますが水分(すいぶん)を含(ふく)んでいるからです。立(た)っている木(き)だと種類(しゅるい)によりまますが半分(はんぶん)くらいは水(みづ)の重(おも)さです。

シオンエコサイエンスクラブのみなさんへ
師範から一言！

2020 年度はコロナの影響で思うように活動ができなかったとのことですが、それぞれの活動についていねいに内容が書かれていると感じました。
廃油キャンドルや廃油せっけん作りでは、とてもかわいい作品ができましたね。お団子のようなものもありますが、色が上手に出ていて、作っている時も楽しかったのではないのでしょうか。
コロナの影響で人々の活動が減って、世界的にも空気や水がきれいになったというニュースを聞きますが、身近な場所でもその変化を観察できたというのは興味深いです。地道に毎年調査を続けている成果だと思います。透視度については、数値が高くなった(改善した)場所と低くなった場所があります。人々の活動の影響以外の要因があるのかもしれませんが。

とっておきのゴシドウ★

水質調査や二酸化炭素濃度の調査は、毎年実施していて、グラフや表にまとめていてわかりやすくなっています。そのため、この調査は1年に1回実施しているのか、何回か実施した平均値になるのかが、さらに知りたいと思いました。
コロナによる自粛も夏ころにはゆるくなってきて、人々の活動も再開していたので、調査の実施日は重要な情報です。
メダカの探索の記事のように、調べた場所と調べた日の両方が書いてあるのはとても良いと思います。そういった調査の基本情報が書いてあると、みなさんが得たデータの価値がより高まります。なぜなら、次にみなさんが調査する際の参考にもなりますし、壁新聞を読んで「自分たちのクラブでもやってみよう」と思った人の参考にもなるからです。今後の調査でもぜひ役立ててもらえたらうれしいです。



ガールスカウト F9 クラブのみなさんへ
師範から一言！

2020 年度は、地球上全ての人がコロナの影響を受けて過ごしました。そんな状況でも野外で活動する機会があったり、苗木を育てる経験ができたりと、地球や環境のことをガールスカウト F9 クラブのみなさんが考える時間が持てて良かったです。野外活動で見つけた生き物の絵がとてもカラフルできれいです。様々な生き物を知る機会ができてよかった。これからは今回のパンデミックのように、私たちの想像を超えることが起こるかも知れません。そんな中でも、自分たちで何ができるのか、できることを見つける力があれば、どんな状況下でも自然に触れたり考えたりする機会が作れることを実感した1年になったのではないかと思います。
それから、世界のエコマークを紹介するコラムですが、私自身、日本のエコマークはずいぶん前から知っていましたが、世界各国にこんなにたくさんエコマークがあることは知りませんでした。これらのマークが、その製品が材料から捨てられるところまでの段階を分けて考えてあること、その上でエコマークをつけるてあることがよく分かる記事になっています。

とっておきのゴシドウ★

新聞の中で取り上げたエコマーク調べですが、各国のエコマーク、どんな商品やサービスについてくるのでしょうか。それぞれの国で、どんな違いがあるのか気になるところです。
例えば、日本のエコマークですが、実際にはどんな商品についているのかお店などに探しにいきましたか。もし見つけていたのなら、実際にどんな製品についているのか、写真など利用して、もう少し詳しく紹介して欲しかったなあと思います。



ライジングアップのみなさんへ
師範から一言！

ライジングアップのみなさんが活動している場所は、スナメリが子育てをしにくる砂浜が近くにあるんですね。そしてその砂浜のごみ調査について詳しく調べたことがよく分かる新聞になっています。それにしても、たくさんのごみがたどり着いています。全て日本のごみなのかなあ。外国からたどり着いたごみとかもあったのかな。また、たくさんの方の量のお金も落ちていますが、これは実際にごみ拾いをした人にだけ分かる発見です。また、マイクロ・プラスチックごみもいろいろな種類が見つかってますね。みんなが書いているように、海をきれいにするために、使い捨てをやめて、何回も使えるもののできるだけ使っていくことも大切です。また、ごみ拾いの結果とともに、この新聞のように世界の海で何がおこっているのかもきちんと調べていますから、ぜひこの新聞をできるだけ多くの人に見てもらってください。

砂浜でのごみ拾いは、海の生き物についても同時に知るいい機会です。私は海のないところで暮らしているので、海の生き物はあまり詳しくありません。ごみだけでなく、砂浜で見つけたステキな生き物や石なども詳しく紹介してくれていて、「もじうみ」がきれいな砂浜であってほしいなあ、と記事を読んで感じました。

とっておきのゴシドウ★

北九州市に住んでいない人には、「もじうみ」がどんな場所なのかちょっと分かりづらいです。地図とかで示してくれると、皆さんがどんなところで活動しているのか少しは想像できると思います。次回からは、ぜひ新聞に書いてきて下さい。

海ごみ清掃した後は、どんなごみがあったかまとめたと思うのですが、全国の仲間に調べた結果をぜひ知らせましょう。たとえば、海ごみゼロウィークを実施している団体もあるので、そこに活動報告してみてもいいでしょうか。自分たちの住む海をきれいにしている子どもたちが北九州市にいることを、全国の人にアピールできます。

さらに、海ごみは川からやってくるとも言われています。海のごみひろいとともに、もし活動している場所の近くに川があるなら、川のごみ調査も一度やってみて報告して下さい。全国川ごみネットワークが全国のごみ調査結果をまとめています。川ごみ拾いをして報告するのも全国の仲間と繋がるチャンスです。同じ想いで活動している仲間と繋がることで、自分たちの活動の大切さを実感するとともに、これからも頑張ろう、と言う元気をもらうことが出来ると思います。



福岡県北九州市 ガールスカウト福岡県第13団

壁新聞のタイトル:未来を守る認証マーク

21-40-04 ガールスカウト 33 団と合同新聞

ガールスカウト福岡県第 13 団 & 33 団のみなさんへ
師範から一言！

「地球・からだ・人とひと」の 3 つのテーマに分け、それぞれのテーマに関係した認証マークを「未来を守る認証マーク」として紹介したところが良いなあと思いました。そして、それぞれのマークについて大変詳しく調べまとめています。とりわけ、「地球」がテーマのコーナーでは、パンダでおなじみの WWF のマークの説明を一番目立つ所に書いたのは成功ですね。「わっ、パンダが書いてある、これ何のマークだ？」と読者が気になり、ここからまず読み始めると思います。

「からだ」がテーマの乳がんの早期発見に繋げるピンクリボンについては知っていましたが、国連が進めている WFP のマークは初めて知りました。飢餓などから世界の子どもたちを救い世界の平和を願う、こどもたちへの食の支援のためのマークなんですね。

残念なのは、全ての記事が鉛筆で書かれているところ。できればマジックペンでももう少し太くはっきりした文字で書いてくれると読みやすかったのになあ。

森林認証マークやフェアトレードマークなど様々なマークについて詳しく知ることができました。今度買い物に行く時にそれらのマークが、どんな商品についているか探して、もし見つけたらできるだけその商品を買うように心がけたいと思います。



とっておきのゴシドウ★

なぜ、未来を守る認証マークを調べて新聞にまとめようと思ったのでしょうか。その理由なども併せて書いて欲しかったです。また、取り上げたマークの中から一つでも良いので、そのマークの商品をどのくらいの人を買っているか調べるのも面白いかもしれません。例えば、パンダマークの WWF は日本にも窓口があります。マークについてせっかく詳しく調べたのだから、ついでに、パンダマークのついた製品はどのくらいの人を買っているのか、寄付としてお金がいくら集まっていて、地球を守るためにそのお金がどのように使われているのかなど、メールや電話で WWF ジャパンのスタッフにインタビュー取材をしてみてもいいでしょう。その活動はどんな人達が行っているかなども調べると、さらに面白い記事になるでしょうし、記者のみなさんの学びが深まること間違いなしです。



福岡県福岡市 ぶらぶらあぶらクラブ

壁新聞のタイトル: 油山で森ぶらしんぶんー2020 年しぜんをまもることからはじめようー

ぶらぶらあぶらクラブのみなさんへ

師範から一言！

とてもカラフルで読んでみたくなる構成の新聞です。まず、タイトルの「しんぶん」ってことば、しぜんの中をぶらぶらってということなのかな。どういう意味か気になります。そして、活動した月の数字が大きく書かれていて、目を引きましますし、それぞれの活動について分かりやすく書かれています。「なんだこれ」と読み始めたのが7月のコラム。タマゴタケの写真の紅白の色が強烈に目に飛び込んできました。順番に読まずにそこをまず読んでしまいました。

7月の活動では、みんなで「きのこちゃん先生」を囲んでキノコ観察をしたのですね。「ほうしもん」ってどうやってとったのかな。とてもきれいな模様が見えるのですね。「ほうしもん」を取ったことがないので、私も一度やってみたいなあ、と思いました。

その他のコラムも、写真の使い方がとてもうまく、写真を見ているだけでわくわく感が伝わってくるし、みんなが楽しそうな様子がよく分かります。

8月の沢登り、12月の登山清掃、油山のさまざまなところで、五感をいっぱい使って体験できているのもステキです。6月のコラムのシロスジカミキリの正面からの写真も大迫力。メンバーの中に名カメラマンがいるのかな。これからも迫力のある写真が出てくるか楽しみです。

とっておきのゴシンドウ★

新聞を読んでいると子どもたちだけで活動をしているのではなく、専門家なのかな、大人の協力がたくさんあるように思えます。みんなの観察を支えるのは誰かな。たとえば、「きのこちゃん先生」ってどういう人なのかな。こどもエコクラブの活動の多くは、地域の大人が関わっているケースが多いです。今度は地域のどんな人たちと一緒に活動しているのか紹介するコラムを書いてみてはいかがでしょうか。

それから、先生から学んだことをもう少し具体的に教えてほしいです。「森とキノコの関係性を学んだ」、って新聞に書いてあるけど、どんなことを知ったのかな。新聞を読んでいる仲間にもぜひ分かるように書いてみて下さい。

ぶらぶらあぶらクラブのみなさんが、一年を通じて生き物や自然と触れあう体験をたくさんしたことが今回の新聞でとてもよく分かりますので、これからもこの新聞のように写真をじょうずに使いながら、楽しさが伝わってくる新聞作りを続けて下さいね。



こども nhk たんけんたいのみなさんへ
師範から一言！

こども nhk たんけんたいの みなさんが つくってくれた かべしんぶん
は、とってもカラフルですね。
やまのぼりをしたり、はっぱあそびをしたり、どんぐりあつめをしたり。むし
さがしに、せみとり、かきしぶぞめに、はたけのてつだい。おいしそうな
まめごはんの しゃしんもありますね。
いちねんかんで たくさんの たんけんをしたことが よくわかる かべし
んぶんです。そして、みているひとが げんきになるような、すてきなかべ
しんぶんですね！

とっておきのゴンドウ★

こんかいの かべしんぶんは、えをかいいたり、じをかいいたり、しゃしんを
はったり、おりがみをはったりと、たくさん くふうをしながら つくってくれ
ましたね。

ぜひ、また かべしんぶんづくりに ちょうせんしてください。もしよかった
ら、たんけんを するなかで きがついたことや、はっけんしたことを、え
にかいたりすることにも ちょうせんしてみてください。えをかこうとおもっ
たら、しっかりみて かんさつすることも たいせつになります。

これからも げんきに たのしく なかよく かつどうをして、よかったらま
た かべしんぶんを おくってくださいね。たのしみにしています！



福岡県大牟田市 認定こども園たから幼稚園こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:いねのかんさつにつき

幼児 21-40-10

認定こども園たから幼稚園こどもエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

たからようちえんの みなさん、ほんとうは たんぽで いねをそだてる
よていだったのに、おおあめのせいで たんぽがつかえなくなって た
いへんでしたね。それでも あきらめずに コンテナをつかって いねを
そだててくれました。

かべしんぶんには いねを かんさつして きづいたことが たくさんか
いてあります。てんとうむしさんが やってきたり、ちいさな しろい い
ねのはなを はっけんしたり。せっかく いなほがたれて きいろくなって
きたのに、とりさんが たべたのか、おこめがはいっていないのを はっ
けんしたり。

はじめて ちょうせんした コンテナでの おこめづくり。いろんなはっけ
んが ありましたね。

みなさんの かいてくれた すてきな かわいいえと、おりがみ、そしてし
ゃしんがあり、とっても すてきな かつどうをしたことが わかります。



とっておきのゴンドウ★

みなさんのかつどうは とてもすてきなので、これからも たのしみながら いろいろなことに ちょうせんしてほしいとおもいます。
たうえをしたときに、てがどろんこになりましたね。つちをさわったら どうでしたか？ すこしぬるぬるしていたかもしれませんね。い
ねのはっぱを、そおとさわってみたひとはいますか？ だっこくをしておこめをとるときに、ぶちぶちという おとが きこえたそう
ですね。においをかいだひとは いるのかな？

これからも、さわったり みたり においをかいだり おとをきいたり あじわったりと、いろんなことをかんじながら かつどうをたの
しんでくださいね。

エコまめクラブ1の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言!

チョコレートを軸にしたりっぱな新聞ができましたね! 背景や記事の枠に使われている色も、チョコレートを連想させるきれいな色づかいになっています。チョコレートづくりの実体験レポート、世界でのチョコレート消費量、チョコレート生産における児童労働など、多くの視点からチョコレートに関する状況を調べていますね。一つの物事を様々な角度からとらえていて、すばらしいと思います。新聞タイトルのとおり、チョコレートを通じて様々な問題が考えられることがよく分かりました。私たちは100円くらいで、いつでもおいしいチョコレートを買うことができます。しかしそのために苦しい生活をしている人がいるのはおかしいことですね。どうしてこのような状況が起こるのかな。みなさんはどう思いますか。大きな問題でも、身近なところから考えてみるのが大切だと言われています。みなさんの新聞を読んで、その大切さを改めて実感することができました。

とっておきのゴシドウ★

「チョコレートと児童労働」にはSDGsの17個の目標のうち、8個が当てはまるのではないかとのこと。

このときなぜこの8個が当てはまると思ったのか、理由や考えもあわせて示してみてもいいでしょうか。記事として、直接書いてみてもいいですし、今書かれている記事のなかで関係が深い内容の近くに、当てはまるSDGsの目標を示しておくのもいいかもしれません。(例えば学校にいけない子供のことを書いている記事の近くに、目標4のイラストを貼るなど)考えた理由や背景を具体的に示すことで、新聞の読み手にチョコレートにまつわる問題のことを、よりしっかり考えてもらえると思いました。



エコまめクラブ2の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言!

コロナの影響下での1年の活動が、分かりやすく整理されていますね。新聞の中心に1年間のカレンダーを円形で示し、その周りに期間ごとの活動記事を配置しているのはすばらしい構成だと思いました。コロナ対策のため活動に制限ができたことで、季節感が分かりにくくなった、生活にメリハリがない、など寂しい気持ちになる人も多かったようです。そのような状況の中でもできることや感じられることはあるのですね。みなさんの新聞を読むとそのことがよく分かります。コロナの影響下での生活を記録したという意味でも、きょうな新聞になったと思います。写真をたくさん使っているのもいいですね。みなさんのエコ活動について、具体的にイメージすることができました。

とっておきのゴシドウ★

それぞれの活動記事に加え、1年全体を振り返り、とくに記憶に残ったことや感じたことを、2020年の総まとめとして書いてみるのはどうでしょうか。また2020年という、いつもとちがう1年を踏まえて、これからはどのようなことがしてみたいなど、未来の目標を考えてみるのもいいかもしれません。

またそれぞれの活動について、「なぜこの活動をやってみたのか」という背景が一言触れられていると、新聞の読み手に活動内容がより伝わりやすくなるかと思いました。例えば、家で楽しめることとして、ふだん食べないような食べ物(ウツボなど)を楽しんでみたということですが、これらの食べ物を選んだ理由は何だったのかな?(昆虫食に挑戦してみたのは、環境負荷が少ない食材として注目されているからでしょうか?)活動の背景について少し触れることで、よりおもしろく分かりやすい新聞になると思いました。



西っ子環境委員会のみなさんへ
師範から一言！

西っ子エコクラブのメンバーは全部で21人かな？みんなで協力して食品ロスのこと、古本募金そしてまちの清掃活動をしてすばらしい新聞にまとめてくれました。

食品ロスについて、みんなの身近な給食のことを調べました。

大好きな料理はポークカツカレーでした。食べ残しは0.3kgで一番少なかったです。私も大好きです。野菜が苦手な人が多いようですが、私は好きですよ。食べ残した給食はごみになってしまいます。そうです！ごみになってしまいます。食べ残さないようにするには、どうしたら良いのでしょうか？そうです、お皿に料理をもらう時に自分が食べられる量をもらうようにしたらどうでしょうか？でも栄養のことを考えるとなんでも食べるのが大事です。筋肉がつくよ！足が速くなるよ！頭の中の細胞が元気になるよ！頭が良くなるよ！などを考えてしっかりとかんで食べると食べきれかな。

実は世界には食料がなくてごはんを食べられない人が40人に4人の割合でいます。みなさんのクラスで考えてみると大変なことだと分かりますね。世界ばかりでなく、日本でも貧しくてごはんを食べられない子どもがたくさんいます。

日本では毎年600～800万トンの食べられるのにすてている食品ロスがあります。外国から輸入している食料は、1,700万トンですから、約半分が捨てられていることになります。とってももったいないですね。輸入している食料を半分に、残りの食料をごはんが食べられない人、国に渡したら良いのにね。

食物をもっと大切にしましょうというみなさんの声はその通りだと思います。

古本募金で3,500円も募金できたとのこと。すばらしい成果ですね。私もいらなくなった本を買ってもらおうといういろいろなところに連絡しましたが、古い本、昔の本あるいはシリーズ物だったこともあり、ほとんど買ってくれませんでした。結局もえるごみとして回収してもらいました。残念！みんなの本は、昔の本ではなくて最近の本だったのですね。

西っ子エコクラブのみなさんがやっていることは、とってもすばらしいことです。日本全国の子どもたちが力を合わせてやると、街がきれいになり、食品ロスも減るでしょう。みなさんがやっていることを見えるようにすると、大人の人、若者も目を覚ますと期待したいですね。



とっておきのゴシンドウ★

残った食品ごみは、肥料にして有効活用できます。たい肥を作る箱(段ボール箱)に食品ごみと落ち葉や枯れ葉を入れて、何日かおいておくと肥料になります。途中、かき混ぜると良い肥料ができます。校庭のお花の肥料になって、きれいなお花が咲きます。食べ残し食品は、こんな利用の方法もあります。

11月10日に街の中のごみ拾いをしました。ポイ捨てされているお菓子の袋やジュースの空き缶が多かったようです。それにバス停などには、たばこのすいがらが多かったと思います。最近ではコロナのえいきょうでマスクも捨ててありますね。

なぜ、ポイ捨てするのだろうか？街の中にゴミ箱がないからだろうか？いや、違うな。ポイ捨てすると街がよごれてしまうことに気がついていないためか？そうでもなさそう。自分が出したごみは必ず持ち帰るという習慣が身につけていないためかな？この問題は結構むずかしいです。

ぜひ、みんなで考えてみると原因が分かり、何か良い対策のアイデアが出てくるかもしれないよ。

地域事務局からの応援メッセージ

【春日市】

コロナ禍で活動が制限される中、日本でも問題となっている食品ロスやリサイクルについて、給食や絵本リサイクルなど、身近な問題について分かりやすく見やすくまとめてくれました。クイズなど、読んでいてわくわくする仕組みもあり、とっても楽しい新聞でした。今後の活動報告も楽しみにしています。ありがとうございました。

【福岡県】

給食の残飯調べを題材に食品ロスについて考えているところが、学校のエコクラブならではの活動だと思います。これからも環境に優しい活動に取り組んでいってください。



むんちゃんエコくらぶ(NPO 法人むなかた子ども劇場)①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

志穂ちゃん、けんたろうちゃん、しゅう馬ちゃん、明音ちゃん、とってもかわいいひよこ新聞をありがとう。犬やライオンやパンダの赤ちゃんもかわいいですが、鳥のあかちゃん＝ひよこもかわいいね。ひよこ新聞を見て、とってもすばらしい新聞だとかんしんしました。どうしてすばらしいかというと、4人のみんなが、たまごからひよこになるまで、そしてひよこからおとなのにわとりになるまで、そしておとなのにわとりについても、とてもしっかりと見ている、かんさつをしていることです。たまごをフランクに入れてあっためる時のおんどは、高すぎず、ひくすぎないようにかんりすることがたいせつだと気がきました。そして14日目にはたまごのからをとおして血かんを見つけました。生きているんだ！ビックリしたでしょう。9月10日にさんちゃんが生まれたが、1羽だけだったので、もう1回チャレンジをしました。チャレンジしたことはすばらしいです。10月2日にたまごの中からひよこがからをつついていてるところをかんさつしました。たまごからひよこになるまでをよーくかんさつしましたね。らいねんは、どんな生きもののせいちょうをしらべるのかな？たのしみにしています。



とっておきのゴシドウ★

ひよこからおとなのニワトリになるまでのエサのちがいをよくしらべました。あかちゃんのひよこは、人間のあかちゃんと同じようにしょうかのよいものを食べるのですね。でもひよこにもわとりも貝がらを食べるのですね。貝がらはしょうかできないのになぜ食べるのかな？食べものをおなかの中で貝がらですりつぶすためにひつようなのですね。みんなはかたい食べものやしょうかのよくない食べものは、どうやってたべるかな？そうですね。よくかんだり、ほうちょうでこまかくしたり、やいたりにたりしてやらかくします。でもとりは歯(は)がないね。火をつかうこともできないね。それで貝ですりつぶしているのですね。さいごににわとりを食べるためにこまかくしたら、たまごのもとがたくさんあることをはっけんしました。よく見たらわかったのですね。かんさつすることがたいせつです。ちょうりをして8月8日に食べたのですね。おいしかったです。とりのにくは、うしやぶたとちがって、あぶらがすくなくて、さっぱりしてわたしもすきです。やきとりがいちばんすきです。みんなはなにがいちばんすきかな？

福岡県宗像市 むんちゃんエコくらぶ 壁新聞のタイトル:①ひよこ新聞 ②米新聞

むんちゃんエコくらぶ(NPO 法人むなかた子ども劇場)②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言！

志穂ちゃん、明音ちゃん、しゅう馬ちゃん、けんたろうちゃん、いつも食べているお米はどうやってつくるのだろうか？いいところにぎもんをもちましたね。あたりまえのことにぎもんをもって、しらべてみるといいなことにきがついて、おもしろいことがたくさんあります。

3月から10月まで、ほぼ1年かけてお米のひみつを発見したのですね。

たねもみを水にいれておくと4日目にめがでました。ねむっていたお米が目さまして、ふしぎなめができました。ばけつに土をいれ、水をはってめがでたたねもみをいれて、くきがのびて、3か月ほどで白い小さな花がさきました。小さい花なのでよく見るのが大切です。花からほがでできるようになるとスズメが食べにきます。ネットをはってすずめたいさくをしたのですね。

大きなたんぼでは、どうやってすずめたいさくをしているのかな？みんなとおなじようにおおきなネットをはっているところもあるでしょう。かかしをたてて人間がみはっているよ！とスズメをおどろかしているところもあるでしょう。

いよいよお米が大きくなってそろそろしゅうかくです。いねのわからもみをとるのは、牛にゆうパックをつかったのですね。もみをじょうずにとれましたか？ちょっとたいへんだったようですね。もちろん のうかの人たちは、きかいをつかってもみすりをしています、きかいがないむかしは、人間の力でもみすりをしていましたので、たいへんなさぎょうであったようです。つぎのもみすりもちょうとくふうをしましたね、ボールをつかってもみをとりはずして、つぎにいきをふきかけてもみをとばしたのですね。いきのふきかけがつよすぎるとお米がとんでいってしまい、よわいと もみが とばないので、だめですね。いきの かげんを ちょうどよいようにコントロールするのは、けっこうむずかしかったです。



とっておきのゴシドウ★

思ったよりお米がすくなくなりましたが、さいしょのたねもみは、なんつぶだったのでしょうか？それができあがったときは、お米がなんつぶになったのでしょうか？そのようにしらべるとけっこうたくさんできたのではありませんか？

それでもお米がちゃんとでき、ふかしてお米のごはんを食べたのですね。とってもすばらしいたいけんができましたね。このようなたいけんは、だれでもができるわけではありません。お米のごはんを食べる時には、のうかの人たちのたいへんさにかんしゃして食べるとよいと思います。それと私は、おちやわんにお米を1つぶでもものこさないように食べることでのうかの人にかんしゃのきもちをあらわしています。

だいやエコクラブのみなさんへ

師範から一言！

まず壁新聞をひと目で環境について「とても意欲的に発信している新聞だ！」と思いました。もし私が日本語がわからなくても、周囲に貼られた SDGs のマークや、地球のイラストみて、サステナブルの情報発が書かれていることはわかることでしょう。こうして、文字の情報によらずとも、一見して伝えたいことがわかるというのは、とても大切な手法です。他のチームにもぜひ参考にしてみたいと思います。

それにしても「だいやエコクラブ」さんは4人のメンバーだと聞いていますが、全体の完成度と、内容の多様さと密度がほんとうにずば抜けて高いですね。それでいて全体としてまとまっているのは、少人数で情報を共有しながらおこなったからでしょう。チームの特色が活かされてすばらしいと思います。壁新聞の内容をみても、環境についての学習内容をわかりやすく整理して発信されています。また参加したチャレンジ体験や調査にもすべて写真とコメントつきで紹介されているため、「だいやエコクラブ」さんが行った活動をとても身近に感じることができました。

この読み手のことを強く考えている一つ一つの工夫には、とても時間と労力がかかったことだと思います。その効果はとても大きく、みなさんのおもてなしの心を感じました。ありがとうございます。

とっておきのゴシドウ★

とてもたくさんの写真やイラストが使われていますが、それらが文章とバランスよく配置されているため、全体的にもとても統一感のあるものに仕上がっています。「第5回こどもツーリズム」の記事では、写真が重なってしまっているところもありますが、デザインの的に重ね合わせているので、逆におしゃれに見えます。こちらのコーナーでは、写真のコメントとともに、強調するところは吹き出しを用いるなど、さらに工夫が見られますね。本当にすばらしい！また記事とごに背景の色も変えているため、区分とメリハリができていることも、全体的な見栄えと読みやすさにつながっているのでしょう。

これまでの活動の中でも、メンバーのみなさんは、たくさんの受賞もして躍進されたことだと思います。そうした成果があったニュースや記録については、しっかりまとめて発表してもよかったと思います。「どういう活躍をしてどんな評価をもらったのか」ということについては注目も大きく、また新しいつながりや交流に結びつきます。そして、こうした評価を積み上げることで、さらに大きな舞台に躍進することだと思います。これからのさらなる活動の発展とその可能性を考えながらこれからも情報発信を行ってみてください。楽しみにしています！



熊本県益城町 広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)

壁新聞のタイトル:出続ける湧き水

21-43-01 (A2)

広西地球環境クラブ(広安西小学校環境委員会)のみなさんへ

師範から一言！

コロナウイルス感染拡大の心配がある中で、活動することが大変難しいと分かっていたが、「できる人ができる時に」というすばらしい考えで湧き水を調べました。とても貴重な活動ができましたね。

雨として降った水が地面にしみこみ、何層もの土の層をろ過しながら、そして長い時間を経て湧き水として出てきました。土の層をろ過しながら、ごみやよごれが取れ、そして微量の金属イオンなどが溶けておいしい水になります。

pHを測ると、酸っぱい酸性でもなく、にがいアルカリ性でもなく、ちょうど中性の7だったようですね。コロナ感染の心配があったので、春、夏、秋は活動ができず、ようやく冬場になって調べることができたようですね。冬の寒い時は湧き水は温かく感じます。夏場に湧き水に手を入れると冷たくてとても気持ちがいいですが、今年は残念ながら経験ができなかったのですね。

水のごれ具合をCODで測ったら0でした。水のきれいさ、よごれ具合によって生きる魚などがちがいます。ハヤはきれいな水、カワニナはややきれい、コイやフナはきたない川を好んで住みます。湧き水はとてもきれいでしたね。でもそのままにしておくとしたなくなってしまうので、みんなはそうじをしてきれいにしているようです。大変すばらしいことです。地域の人たちもきれいにしてくれるようで、みんなで協力してきれいな水をまもることが大切ですね。



とっておきのゴシドウ★

地震などで地形が変わると湧き水が出なくなることも知りました。地震などの天災で湧き水が出なくなることは、防ぎようがないですが、私たち人間が自然を変えてしまっ、湧き水を出なくなってしまうことはさけないですね。同じようなことが、川の土手をコンクリート作りにしてしまい生き物がかくれたり、卵をうむところがなくなっていることも、みんなは知りました。できれば土の土手を活かして生き物にもやさしい自然をなくさないようにしたいですね。でもじょうぶな土手にして水害や洪水を防ぎたいことも分かります。むずかしい問題です。人間はどうも自分たちだけのために自然をはかいしてきたのではないだろうか？湧き水を調べる、そのことを通して自然を感じる環境活動をみんなはやっています。自然は生き物にとってかけがいのない生きる場です。生き物には人間も入ります。むずかしい問題ですが、みんなも少しずつ考えながら、これからも活動を継続してがんばってください。

吉野育成クラブのみなさんへ
師範から一言！

自然や地球を守っていききたいというみなさんの気持ちがよく伝わってきました。自然を守ることは結局わたしたちの命を守るのだという重要なメッセージを、短歌とイラストで示してくれているのもよいアイデアだと思います。海に捨てられたゴミが最後には私たちの体に戻ってくるという危なさを感じることができました。

自然や地球を守る上で大切な項目が、イラストと短い文章で整理されています。イラストを円で囲っているのも分かりやすいですね。新聞を読んだ人が一目見て、何について書かれているか分かるような構成になっています。とても読みやすい新聞になっていると思いました。イラストの色づかいも上手ですね。様々な色が使われていて、まとまりのあるきれいな新聞になっています。

とっておきのゴシドウ★

環境問題として考えなければいけない項目は種類が多く、広い分野に渡っています。その中で「核兵器根絶」・・などの項目を選んだ理由は何だったのでしょうか。もしこれら項目を選んだ理由や背景があれば、それも記事として書いてみてはどうでしょうか。例えば海や森を守ることが取り上げられているのは、みなさんの住む大分県に豊かなみどりや海があり、大切にしたいという気持ちが強かったからでしょうか？それともニュースなどを見て、大切な問題だと思った項目を取り上げてくれたのでしょうか。みなさんが考えていること、感じていることも具体的に記事にしてみてください。みなさんの気持ちが読み手にしっかりと伝わり、より印象に残る新聞になるとと思います。



大道校区児童育成クラブのみなさんへ
師範から一言！

コロナで活動できることに制限がある中、お家や身近でできるエコを考え新聞にしたのですね。メンバーそれぞれが自分の言葉を使ってエコチャレンジする取り組みを書いていることが分かります。書いてくれた取り組みを読むと、できることからやってみようということが環境問題では本当に大切だということが実感できますね。

折り紙や色紙で作られたイラストもとてもきれいにできています。カラフルな紙面になっていて、読みやすいです。またクラブの説明と1年間の活動内容が簡潔にまとめられているので、新聞を作ったメンバーや活動の様子が読み手によく分かるようになっていますね。

とっておきのゴシドウ★

エコ生活のために実際にチャレンジしてみた結果についても記事にしてみましたはどうでしょうか。よりしっかりと読み手にエコチャレンジのことが伝わるかと思いました。例えばチャレンジする中で考えたことや気づいたこと、チャレンジしてみて実際に出来たこと、やってみて難しいと思ったことなどを書いてみる事が出来ると思います。どのようなところに気を付けたらエコ生活ができるのか、新聞を読んだ人が参考にしやすいのではないのでしょうか。

また今回の新聞では少し紙面に余裕があるように感じました。あまり文字が多くなりすぎると読みづらい新聞になってしまうのですが、もう少し記事を多く書いてもいいかもしれませんね。活動の様子が分かるような写真を増やすのもいいですよ。さらに読み応えのある新聞になるとと思います。



姫城中学校 姫ボラのみなさんへ
師範から一言！
「学校全体でエコ活動に取り組む！」姫路中のボランティア「姫ボラ」では、学校全体で環境活動に取り組むすばらしい連携を毎年発信していただいています。
一般的に、メンバーが多くなるほど思い切った活動も難しくなることも多いのですが、姫ボラさんは、生徒会活動を中心に、先輩方から意思と経験を引き継ぎ、また自分たちで新しい活動も考えて意欲的に継続されています。これは本当にすばらしいことです。
今回の新聞でも、成果を引き継ぐ活動と、コロナ禍を踏まえた新しい取り組みを紹介してくださいました。環境活動を行う小中学校などでも参考になる内容にまとめられていましたね。
また、それぞれの環境活動についても、「活動の目的」「活動の内容」「活動の成果」がしっかり記載されていますね。ただ良いと教えられたことをただ習って行うだけではなく、自ら考えて、そこから工夫しながら何ができるかを創意工夫しながら実践できていると思います。こうした過程を踏んだ経験は、学業やクラブ活動などの中学校生活にも役立つことだと思います。
環境学習が、学校生活を豊かにして、その成果が地域や社会にも役立って、そして環境学習の評価に結びつく、そんな素敵な循環を見ることが出来る素敵な活動と壁新聞でした！



とっておきのゴンドウ★
今回の「姫ボラ」壁新聞は、全国こどもエコクラブ壁新聞で、タカラミー賞を受賞されました。また今年の宮崎県地域環境保全功労者表彰も受賞されました。みなさんの学校での結びつきが、全国的にも、住むまちにも、しっかり認められて、とてもうれしく思います。こうした受賞によって社会的な認知がずっと大きくなります。受賞を励みにこれからも更に楽しく活動をしてもらえたらと思います。
さて、こうした全国的な受賞を受けた壁新聞ですが、「姫ボラ」の環境活動をさらにわかりやすく、またその魅力をしっかり伝えるようにすると、さらにみなさんの活動の理解や共感が広がると思います。今回の記事は、それぞれタイトル部分を大きく記載することで、どんな活動をしているかがよく分かるようになっていました。とても丁寧な文字も書かれて記事の一つ一つはとても読みやすかったです。
ただ、壁新聞全体として見てみると、情報が多くて少し混乱します。読み手の立場にたって、読む順番や、わかりやすさも考えてみましょう。記事の配置や、色彩、写真の配置、フォントの装飾も、記事の内容と同じぐらい大切な「情報価値」を持っています。
同じ属性のものを固めて配置するのも一つの工夫です。例えば、「風呂敷の魅力」の記事にあるように、同じ記事の中に縦書き、横書きが一緒に入っていると少し読みづらいですね。そういうときは、横書きの記事を線で囲んで表のように見せたりすることで、情報の重みや読みやすさが変わってきます。壁新聞は、みなさんの活動を外の世界にプレゼンテーションするものです。素晴らしい活動をされているので、それにふさわしい表現や編集にも凝ってみるのもいいと思います。

鹿児島市立西伊敷小学校エコクラブのみなさんへ
師範から一言！
西伊敷小学校こどもエコクラブのみなさんは、リサイクルというテーマで壁新聞をまとめてくれました。「リサイクルをするといいいこと」と、「リサイクルをしていなかったら」ということを比べて書いてあるので、「なぜ必要なのか？」ということがとても分かりやすいですね。また、文字の大きさにメリハリをつけたり、色の使い分けもしっかりしていて、とても読みやすい壁新聞になっています。リサイクル回収の具体的なことも書いてくれますね。
感想を見ると、壁新聞にまとめるためにみなさんがしっかり勉強して理解が深まったことが良く分かります。自分たちの知識が深まるだけでなく、見た人にも情報を伝えることができる壁新聞は一石二鳥ですね。



とっておきのゴンドウ★
リサイクルについてしっかり理解を深めたみなさんには、ぜひもう少し幅広いごみ問題についても考えてみてほしいと思います。3R(スリーアール)のことを知っている人もいないのでしょうか。Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRのことです。
リサイクルをするにもエネルギーが必要です。そこで「リデュース＝ごみにならないように減らすこと」「リユース＝捨てる前にもう一度使うこと」にも注目がされています。きっとみなさんの身の回りにも色々な3Rがあると思います。そもそもごみが出ないようにするといいいですね。
それから、地球温暖化の原因である「二酸化炭素が増える」ことは、ごみ以外にも色々原因があり、置くが深い問題です。こちらも機会があったら調べてみてくださいね。ぜひまた壁新聞にまとめて送ってみてください！

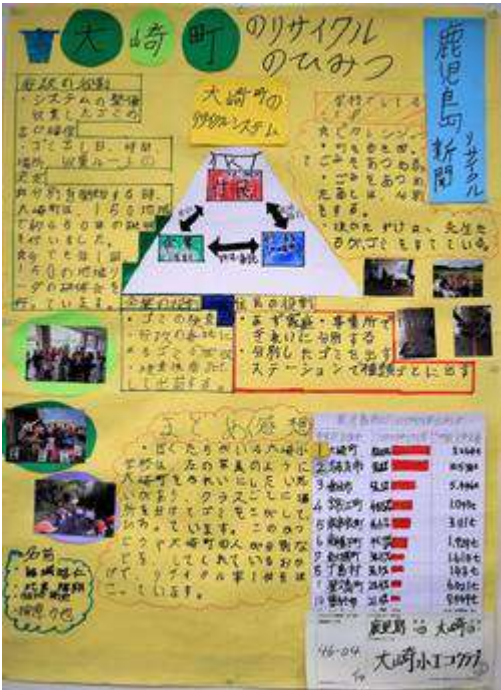
大崎小エコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
浅井師範から一言！
みなさんの住んでいる大崎町では、リサイクル率が12年連続で日本 No.1とは、すごいですね。この壁新聞では、大崎町がリサイクル No.1 になっていったこれまでの様子を紹介してくれていますね。
ごみの焼却施設や埋め立て処分場の問題から、大崎町がリサイクルに取り組むことになった経緯や、実際にごみが減っていった様子などが、文字とグラフを上手に使うことで、分かりやすく伝わってきます。
ほかにも、切り抜きを貼ったり、小学校での取り組みを写真付きで紹介したり、SDGs などの用語の説明があったりなど、工夫がたくさんされていて、すてきな壁新聞ですね。

とっておきのゴンドウ★
「清掃センターへの埋め立て処分量の棒グラフ」や、「全国平均と大崎町とのごみの量やリサイクル率の表」について、それぞれ、これを見るとどういことが分かるのかを文章で説明しているのがとても良いですね。説明を見て、あらためてグラフや表を見ることで、より分かりやすくなります。
全国平均に比べて、大崎町のリサイクル率がとびぬけて高いということも、よくわかりますね。
大崎町のリサイクルを支えているのは、町の住民の一人一人の努力も大きいのだなあと感じました。ところで、リサイクル分別を実際に行っているときに、スムーズにうまくできていることはどんなことでしょうか。逆に、この分別は大変だなあとようなことはあるのでしょうか。機会があるときに、周りの人にも聞いてみてください。もしかしたら、よりリサイクルを上手にしていけるためのヒントが見つかるかもしれませんね。これからも活動がんばってくださいね。



大崎小エコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ浅井師範から一言！
この壁新聞では、大崎町のリサイクルシステムについてをとてもいいに書いてくれています。住民・行政・企業のそれぞれの役割をきちんとまとめてあり、それぞれが協力しあっていることが良くわかりますね。大崎町で分別を開始するときには、とてもたくさんの説明会をしたことや、今でも年に1回、150 の地域リーダーの研修会を行っているなど、ていねいな説明があるからこそ、住民のみなさんもしっかり分別に協力されているのかなということを感じました。
学校でしている「ピカレンジャー」についても、短い文章で具体的にどんなことをしているかがしっかり書けていますね。活動の様子の写真もたくさん紹介してあり、分別の様子もあって、具体的にどんな風に活動をしているのかがとても分かりやすいです。

とっておきのゴンドウ★
ピカレンジャーの活動写真をみると、みなさんとても楽しそうですが、活動をしていて「ちょっと大変だなあ」ということはないのですか？ 他にも、例えばやりがいがありますか？ おすすめの方法はありますか？ 1年間でどれぐらいの回数していますか？
ぜひくわしく知りたいなあと思いました。もし機会があったら、他の小学校にもピカレンジャー活動をおすすめするつもりで書いてみてくださいね。
それから、「鹿児島県のごみのリサイクル率ランキング」が面白かったです。ごみのリサイクル率を数字だけでなく、赤い棒グラフでも表していて、パッと見るだけでわかるように工夫がされていますね。1~2位の自治体と、3位以下ではリサイクル率が大きく違うことが良く分かります。
また機会があれば、ぜひ壁新聞を作って送ってくださいね。



鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！
地元のリサイクルの仕組みや現状について調べて丁寧にまとめていますね。背景に色を塗っていますが、メリハリがあって見やすくなっていると思います。大崎町は 12 年連続でリサイクル率が全国 1 位というのはすばらしいです。全国平均の 19%と比べると 83.1%というのは圧倒的な差があります。みなさんも家や学校でゴミを分別して捨てるのが自然とできているのではないのでしょうか。
もしかすると、小さい頃から当たり前に取り組んでいて、こうやって学習することで新しく発見したこともあるかもしれませんね。大崎町のことを誇りに感じられる機会にもなったのではないのでしょうか。

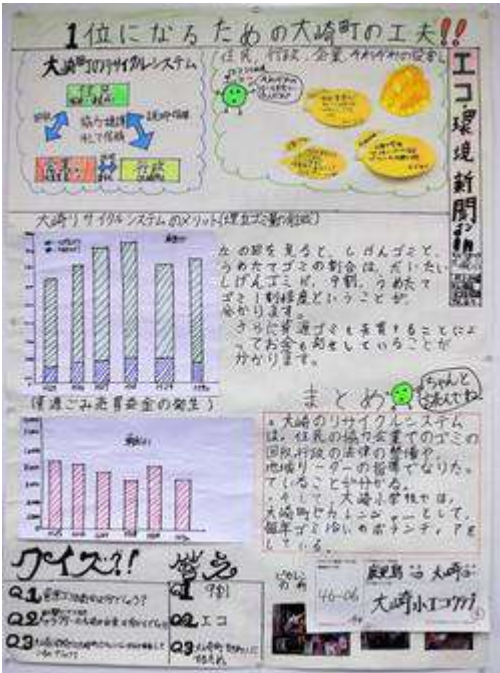
とっておきのゴシンドウ★
細かいところになりますが、SDGs 副本部長賞の受賞については、誰が受賞した等、説明があった方がよいと思います。また、リサイクルの説明が書いてありますが、読む限りは 3R の説明だと思しますので、見直してみましょう。「一言」でも書きましたが、大崎町ではすでにリサイクル活動が進んでいるので、今回改めてそういったことを学習してみて、どう思いましたか？
83.1%というリサイクル率を実感できるシーンが日常の中にあると思います。それがすばらしいことであることを、みなさんでまず認識するには、どう思ったかを話し合ってみると良いと思います。
また、すでに取り組んでいること、これから取り組もうと思ったことも具体的に書けるとしますので、ぜひ壁新聞に書いて実行してほしいと思います。取り組んでみて思ったこと、まで書けるようになると次のステップにつながりますので、ぜひ挑戦してみてください。



鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！
大崎町での取り組みについて、よくわかる壁新聞です。ごみは住民一人ひとりが出していますので、行政だけでなく、住民の取り組みが必要です。ごみ全体のうち、資源ごみが 9 割というのはすばらしいことだと思います。グラフにしてわかりやすく表現できていると思います。
グラフを見てもわかるように、以前から大崎町のリサイクル率は高いので、町民のみなさんもリサイクルが習慣になっているのだと思います。これからもその意識と行動をぜひ続けていきましょう。

とっておきのゴシンドウ★
12 年連続でリサイクル率が全国 1 位であるとのことですが、そのことについてみなさんはどう思いましたか？
生まれた時からずっと 1 位、ということになるので、当たり前のことに感じるかもしれませんが、とても価値のあることだと思います。
そういったことを知って、みなさん自身がどう思ったか、どんなことに気づいたか、ということが知りたいと思いました。
事実というのは誰でも書けますが、みなさん自身が感じたことは、みなさんにしか書けない、とても貴重なものです。また、感じたことや気づいたことは、読む人にも興味を与えます。自分が思ったこと、感じたこと、気づいたことをもっと新聞に書いてみるとよいと思います。
壁新聞に書く前に、クラスで共有してみると、新しい発見もあると思いますよ。ぜひ取り組んでみて下さい。



鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ
吉田師範から一言！
大阪府と大崎町のごみの量を比べてみたのは、興味深い取り組みです。
大崎町はごみの分別が進んでいて、リサイクル率も高いので、違う地域と比べてみると、そのすばらしさがよくわかると思います。
大阪府での分別のチラシがありますが、これはどうやって手に入れたのでしょうか。知り合いの人からいただいたのでしょうか？
みなさんから見ると、大阪府のごみの分別は細かくないと感じるかもしれませんが、ずっと昔はほとんど分別をせず、全て同じごみ袋に入れて出していたと、大阪の友達に聞いたことがあります。それぞれ地域の事情もあると思いますが、日本中でリサイクル率が高くなっていくといいですね。

とっておきのゴシンドウ★
大阪府と大崎町のごみの量をグラフで表しているのはよい表現だと思いますが、こういったデータは正確に必要な情報を書くことで効果があります。
逆に言うと、正確に書かないと誤解を招く可能性もあるので、気を付けましょう。
たとえば、大阪府のごみの排出量は一業所(事業所?)一日あたりですが、大崎町の方はそのようなことが書いてないように見えます。一見すると大阪府の方がごみを多く出しているように受け取られてしまうかもしれません。おそらく、そうだとは思いますが、なるべく同じものを比べられるように書いた方が、正確に伝わると思います。
また、大阪府と大崎町のごみの量を比べて、みなさんはどんなことを思いましたか？そして大崎町の高いリサイクル率をこれからも続けていくため、みなさんは家や学校でどんなことを取り組んでいきますか？自分にできることを続けていけるよう、がんばっていきましょう。



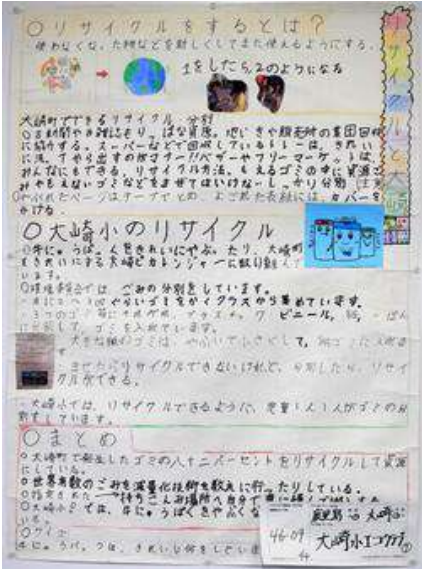
鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
沼田師範から一言！
大崎小エコクラブさんは、12年間リサイクル率日本一！の大崎町の活動を3グループが壁新聞にまとめてくれました。それぞれのメンバーが「何を伝えるのか？」をしっかりと考えて、まとめ方にも個性があるので、感心しながら読みました。
壁新聞『未来へつなぐエコ新聞 ☆ in 大崎』の「色んな所でリサイクル」は、レベル1「自分や学校」、レベル2「地域」、レベル3「世界」と、段階に分けて整理したのですね。リサイクルの広がり方が、とてもよくわかりました。またそれをピンクの紙に項目、青い紙に要点を書いて貼り出すデザインなので、ぱっと目立って、内容がわかりやすかったです。
「資源ごみの売買益金の推移」のグラフも、オレンジ色の紙を切り抜いて作っているので、素材(そざい)のメリハリ感があります。家庭から不要になったものも、ごみにしないでしっかり「資源」として分別回収すれば、新しい製品(せいひん)に生まれ変わるし、その売却(ばいきゃく)のお金も出るという、「環境にも経済にもよいリサイクルシステム」であることが伝わってきました。
19年間で1億4442万6千円！！毎年毎年の町の取り組みが積み重なった、とても大きな金額です。すばらしいですね。



とっておきのゴシンドウ★
大崎町のリサイクル率は日本でトップですが、残念ながら日本では、リサイクルするより、ごみを焼却(しょうきやく)する割合がまだまだ多く、2018年度のリサイクル率は19.9%とかなり低いです。また世界でも、大崎町のようにしっかりリサイクルのシステムを回している自治体(じちたい)はまだまだ少ないです。
みなさんは、感想で「大好きな大崎町をもっときれいにしていきたい」と書いています。今後も大好きな大崎町のごみをへらし、きれいにする活動を続けながら、ぜひ、日本のほかの地域や、世界の国の人々へ、その取り組みを伝え、リサイクルシステムを広げていってください。
リサイクル率日本一の町で、取り組んで来た、若いみなさんの話を聞きたいと思っている人は、たくさんいると思いますよ。
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センターのサイトにEUと日本を比べたグラフが載っています。参考にしてみてくださいね★(※このグラフのリサイクル率は、排出(はいしゅつ)したごみのうち、どれだけ資源(しげん)にしたかを示す数値で、燃やした熱を回収する「サーマルリサイクル」は入りません)「循環・廃棄物のけんきゅう」2020年8月号 <https://www-cycle.nies.go.jp/magazine/kenkyu/202008.html>

大崎小エコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
沼田師範から一言！
壁新聞『リサイクルと大崎』は、「リサイクルをするとは？」で町が行っているリサイクルを、「大崎小のリサイクル」でみなさんの活動を、写真やイラストを使いながらまとめてくれました。さいごにクイズもあるので、復習もできました！
「リサイクルをするとは？」
大崎町では、古新聞や雑誌の集団回収、スーパーなどで食品トレー回収をされているのですね。「トレーはきれいに洗ってから出すのがマナー！！」は、まさにその通り。洗ってよくかわかしてから回収に出さないと、虫が出たり、カビが生えたりして、リサイクルできなくなってしまいます。大事な資源(しげん)になるのですから、その先のことを考えて出さないといいませんね。
「大崎小のリサイクル」
大崎小では、ごみをプラスチック、ビニール、紙、一般(いっぱん)に分けてリサイクルしているのですね。小学校でも一人一人がこれだけ分別に取り組んでいるからこそ、大崎町が日本で一番高いリサイクル率 82%を達成(たっせい)できるのだと実感しました。



とっておきのゴシンドウ★
今、みなさんが取り組んでいるリサイクル(Recycle)のほかに、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)が加わった「3R(スリーアール)」ということばを聞いたことがありますか？「3R」は英語の R(アール)から始まる3つの行動です。1.リデュース(Reduce)は、ごみの量をできるだけ少なくすること。2.リユース(Reuse)は、一度使ったものをごみにしないで何度も使うこと。3.リサイクル(Recycle)は使い終わったものを、資源(しげん)に戻(もど)して新しい製品(せいひん)を作ること。
「英語はちょっと難しい」と思うかもしれません。しかし、みなさんが書いてくれた「バザーやフリーマーケット」や、「やぶれたページはテープでとめ、よごれた表紙にはカバーをかける」は、ごみにする前に何度も使う「リユース」の行動です。
また、みなさんはお買い物のときにマイバッグを持っていきませんか？レジ袋などが不要になり、ごみを家に持ちこまない「リデュース」になります。「リサイクル」に加えて「リデュース」「リユース」についても考えてくださいね。

大崎小エコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ
沼田師範から一言！
壁新聞『大崎町リサイクル・分別新聞！！』は、「大崎リサイクルシステムはじまり」と「学校で取り組んでいること」をていねいにまとめてくれました。
「大崎リサイクルシステムはじまり」
大崎町がリサイクルを始めるきっかけがしっかり調べられて書かれています。焼却施設(しょうきやくしせつ)がない大崎町が、「3つの選択肢」から、埋立処分場(うめだてしよぶんじょう)の延命(えんめい)をえらんで、住民、企業、行政がしっかり協力し合って、ごみをへらして来た歴史がよくわかりました。
「学校で取り組んでいること」
学校内での分別の方法、みなさんが取り組んでいる様子を実際の写真を使ってわかりやすく説明しています。回収ばこが色分けされているので、低学年でも分別しやすくなっていますね。また、大崎ピカレンジャー大作戦では、地いきの清掃(せいそう)活動もしています。町にポイすてされた「ごみ」も、回収して洗って分別すれば、「資源(しげん)」になります。大崎町のごみをへらす、とても重要な活動だと思います。

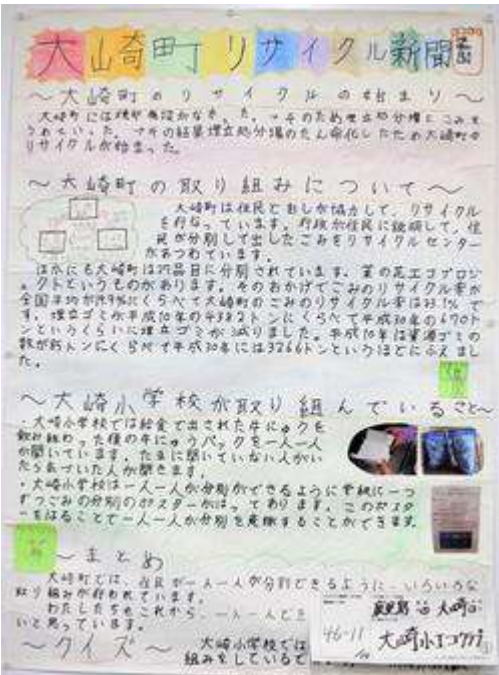


とっておきのゴシンドウ★
みなさんは、大崎町のリサイクルシステムが、世界で 2030 年までの解決(かいけつ)を目指している SDGs につながっていることをまとめてくれました。「SDGs を理解する」ことから始まる 5 つのステップは、日本の多くの会社で取り入れています。また大崎町のリサイクルを「経済」「環境」「社会」の面から、図にまとめています。
「経済」は回収したごみを資源(しげん)として企業に売却(ばいきやく)して、利益が入るので、大きなビジネスになっています。「環境」は、ごみをへらせば、処理(しより)のためのエネルギーが減りますし、焼却(しょうきやく)しないので、大気中に二酸化炭素も出しません。そこまではわかったのですが、さいごの「社会」に「スポーツ」「健康」と書いてあるのは、どうしてでしょう？？ごみを売ったお金でスポーツの施設(しせつ)などを作っているのかな。それとも、町の人たちが元気に分別回収に関わっているの、大崎町の方々の健康がよくなっているのかな。いろいろ想像してしまいました。今度、また教えてくださいね。

鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
大崎町は、ごみを27品目に分別して、リサイクルが83.1%とはびっくりしました！！すばらしい町ですね。自分たちが住む大崎町の取組みについて、よく調べてまとめています。大崎町は住民どうしが協力してリサイクルを行っていることなどがよくわかりました。
町の取り組みと、学校での取り組みをそれぞれに整理して伝えてくれるのが、とてもわかりやすかったです。
学校での取り組みについては一人一人が牛乳パックを開いていることや分別ポスターなど、写真がついていて、みなさんのがんばりがよくわかりました。

とっておきのゴシンドウ★
わたしたちもこれから一人一人ができるよう努力していきたいとまとめてしっかりと書いているのはとてもすばらしいことです。
みなさんは学校でのごみの分別だけでなく、住民として、家でも分別できるような取り組みをおこなっているのでしょうか？これから一人一人がどのようなことを努力していくのかな？なにを努力していくのかなどを具体的に書いて、みんなに知ってもらえるといいですね。これからの取り組みを期待します。



鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ
壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
伊藤師範から一言！
みなさんの新聞で、大崎町のすごいこと、大崎小学校のすごいことがよくわかりました。
大崎町では、ごみを減らすことに成功し、そのしくみをインドネシアにも教えているのですね。ほかにも、第2回ジャパン SDGs アワードで受賞していることは、写真がついていることですすごいことだとよくわかりました。
大崎小学校では、給食の牛乳でストローを使用しないってすごいです！飲んだ牛乳パックを一人ひとりが開いてリサイクルをする学校はほかにもありますが、ストローを使用しないとは、ごみ削減をてっていいして本当にすばらしいことと思います。
リサイクルできるものはリサイクルすることはとても大切です。さらにストローのように使わなくても良いものは使わないことは、ごみを減らすだけでなく、資源を使わないことにもなるのでとても環境に良いことです。それをみなさんが実行できているのはすばらしい取り組みです！自慢してほかの学校にも広めていってください。



とっておきのゴシンドウ★
新聞のタイトルにペットボトルの型を切り抜いていて、みなさんの工夫がわかります。ほかにも小見出しにも色をつけたり、説明で読んでもらいたいところには目立つようカラーで線を引いたり、いろいろと工夫をしているようですばらしいです。新聞のタイトルがオレンジ色のペットボトルの紙の上のせいか、薄くて目立たないのがちょっと残念です。小見出しもバックに色がついているのですが、文字が目立たないので、新聞タイトルも小見出しの文字も太く大きく書くとさらに目立ってメリハリのつく新聞になると思います。
写真やイラストも工夫されています。せっかくなら SDGs のアイコンもカラーのものをさがして貼れるとよかったですね。最近では新聞の企業の広告にも SDGsのアイコンがカラーでのもので新聞から探してみるのもよいかもしれません。それだけでカラフルになるでしょう。
最後に、町をきれいにするためにいろいろな取り組みをしている！と書いてくれています。リサイクルを進めることは、町をきれいするだけでなく、ごみを資源として再利用することで資源やエネルギーの節約にも大きく役立っていることも知りましょう！

鹿児島県大崎町 大崎小エコクラブ 壁新聞のタイトル:大崎っ子リサイクル新聞

大崎小エコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ

伊藤師範から一言！

「日本一！大崎町のリサイクルのひみつ」というタイトルがいいですね。”なんだろう？”と思って読み始めました。

大崎町は、リサイクル率が「日本一」なのですね。その大崎町のごみ分別やリサイクルによって、資源節約、地球温暖化防止、処理費用削減による豊かなまちづくりにも良いことなど、いろいろなメリットがあるのですね。

分別やリサイクルのメリットをよく調べていて、すばらしいです。とてもよくわかりました。こんなにいいことがあるのだから、みんなもリサイクルをさらにがんばろうと思ってもらえるすてきな新聞です！

とっておきのゴシドウ★

大崎ピカレンジャーの活動は、写真が貼ってあるので、活動のようすがわかります。集めたごみはちゃんと何種類にも分別しているのですね。他にも「R」の帽子をかぶったリサイクルマンのポーズや費用削減のイラストなど、イラストによって内容をわかりやすくする助けになっているのがいいですね。

全体的に項目の区切りがわかりづらいので、項目のタイトルを大きな字にしたり、色を付けて目立つようにしたり、項目と項目の間を空けるなどして、区別すると、もっと見やすい新聞になるでしょう。工夫してみてください。



大崎小エコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ

伊藤師範から一言！

「リサイクル日本一の町 大崎町」が新聞のタイトルになっていて、よく分かりました。色をつけ目立っているのがとてもよいです。

その大崎町がリサイクルに取り組み始める道のりなどもよくわかりました。

町の取り組みと、学校での取り組みをそれぞれに整理して、写真やイラストを付けて伝えてくれているのも、とてもわかりやすかったです。

まとめでは、みなさんの思いも書かれていてよく伝わります。リサイクル日本一は、とてもすばらしいことで、それをみんながほこりを持って暮らせるのはいいことですね。自信を持って、もっともっと広めてください。みなさんが思うように、大崎町のようなリサイクルが日本中、世界中に広がるとよいなと私も思っています。そうならば、資源やエネルギーが節約され、地球温暖化防止にも役立つでしょう！

とっておきのゴシドウ★

大崎町はリサイクルをはじめてから、良いこととして、埋め立て処分するごみの量がすごく減ったことを知り驚きました。

本当にとても減ったのですね。埋め立て処分の量がどれだけ減ったのかをみんなに知ってもらうためには、数字で書くだけでなく、ぼうグラフなどを使って伝えと、平成10年に比べて平成29年は、やく6分の1に減っていることが、わかりやすくなると思います。工夫してみてくださいね。

全体として、大崎町のこれまでの道のり、学校と町の具体的な取り組み、リサイクルして良かったこと、まとめのコメントのように、わかりやすくきれいにまとめられているなと感じました。この取り組みをもっともっと広めるようみなさんがんばってください。



鹿児島県宇検村 阿室小中学校エコクラブ 壁新聞のタイトル:奄美環境新聞

21-46-02

阿室小中学校エコクラブのみなさんへ

師範から一言！

この度は、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録おめでとうございます。私も何度も奄美に訪れたことがあり、鹿児島県の環境審議会を務めていたこともあって、このニュースにとっても喜んでます。世界遺産候補として挙げられてから、とても長い年月が経ちましたが、地域の人たちの活動や環境保全が結びついた結果だと思えます。この新聞にもそのことがよくわかる内容が紹介されていますね。

またこの新聞には、そうした明るいニュースだけでなく、地域の人たちの立場で見えてくる奄美の環境問題にも触れられています。これはとても大切な情報で、みなさんの活動の大きな成果になったと思います。

これからも地域の目線から、そしてこどもたちの目線から、国内外にみなさんの環境活動を発信してほしいと思います！



とっておきのゴシドウ★

この壁新聞には、たくさんの貴重な動物たちの生き物の写真が載せられていますね。特に地名のついた名前の生き物は固有種が多く、この新聞を見た人はみんな興味津々だと思います。こうした特別な写真を日本全国のエコクラブの仲間にも伝えるために、より大きく扱ったり、まとめて紹介したりして工夫すると、より奄美の自然の発信やチームらしさが生まれると思います。また、海のゴミ問題も大きな問題ですね。こちらに書かれているように、海の近くに住む人達だけの問題ではなく、県や国を超えてゴミが流れてきて、身近な自然の生き物を傷つけます。

このように環境問題というのは、多くの人や団体、国の協力や連携が必要になります。だからこそ、自分たちの目の前で起きている環境問題を、こうした壁新聞や交流を機会にして発信していくことが大切です。そしてそこから交流と協力が生まれ、未来につなげることができると思います。

ぜひ、仲間を広げる気持ちとなって、環境教育や情報発信をこれからも行ってほしいと思います。とても楽しみにしています。

OMRC こどもエコクラブのみなさんへ
師範から一言！

今年は釣りで魚を取って、水そうを作ったのですね。今年も楽しい活動を実践していますね。

釣れた魚は東京で見ることの出来る魚とはちがって沖縄ならではの魚が多いようです。世界的に見るとそんなに大きくない日本ですが、魚を見ると地域による違いが見られておもしろいものですね。トビハゼは東京にもいますが、沖縄のとはちょっと違うようです(写真もちよっと見てみたかった気がします)。わかりやすい絵で書いてくれたので、沖縄にすむ魚が新聞を読んだみなさんにも伝わったのではないのでしょうか。

今年も、みなさんは魚の釣り方、取り方を学びましたね。楽しかったのでも来年もやりたいと書いてくれた人もいますね。とてもすばらしい活動だと思いますので、これからも続けていってくれることを期待しています。

とっておきのゴシドウ★

水そうを作ったのは、魚がどんな場所にすんでいるか勉強にもなるし、読者のみなさんにもわかりやすくていいアイディアだと思います。

ただ、せっかく作ったのでしたら写真でもいいので、中の生きものも見えるものがあるとよりわかりやすくなると思います。図鑑のように生きものの写真と簡単な解説をのせてくれると全国のお友達もよりわかりやすくなるのではないのでしょうか。

沖縄の海そして川にもたくさんの魚がいそうですし、また北海道や本州などとはちがった種類の魚も多そうですね。ぜひ次の新聞でも、そのような沖縄の海や川で取れた魚や生き物の紹介をしてくださいね。



西表ヤマネコクラブのみなさんへ
師範から一言！

新聞1枚で、西表島の環境のことをいろいろと知ることができて楽しいですね。川の水質調査、ビーチのゴミの調査、ホテルの調査、交通事故の調査、そしてサバイバルキャンプ、本当にいろいろな活動をやっているのですね。私も西表島には何度か行きました。陸産のホテルも見たことがあります。ホテルの観察会を23年もやっているのですね。すばらしいことです！とても貴重な記録になりますよ。ホテルくんの浮気発覚の4コマ漫画も笑えます！

イリオモテヤマネコのロードキルの調査もやっているのですね。観光客が減ったためにヤマネコの交通事故が減ったということが言えるかもしれませんね。貴重なヤマネコをこれ以上減らさないためにも、交通事故を起こさないように気を付けたいものだと思います。みなさんのこうした新聞も、たくさんの人に注意を促すために役立つかもしれませんね。

とっておきのゴシドウ★

みなさんの新聞をみていて、いいなと思ったのは、具体的な数字がきちんと書かれていることです。水質の調査結果、ホテルの種類ごとの個体数、ビーチのゴミの割合、交通事故の件数などなど。ですから、専門的なことを知っている人にとっても、どんな様子なのかがよく伝わるのではないかと思います。ぜひともこうした調査を続けていってください。また、ホテルを観察した場所、川の調査をした場所、ビーチのゴミを調査した場所が西表島のどのあたりかということも知りたいと思いました。地図を書いて、ここだよとわかるように示すといいですね。サバイバルキャンプって、毎年やっているのかな。今年はお天気が悪くていつもと違う場所でやってみただけけど、いつもはどんなことをするのか、どんなことを目指してやっているのか、知りたいなと思いました。

西表島は広い森林もあって、海辺にはマングローブもあって、本当に自然が豊かですね。紹介したいことがたくさんあると思います。これからも島の自然の豊かさを知らせる新聞を作ってください。期待しています。

